

**学校法人 佑愛学園
愛知医療学院短期大学**

2022年度 授業評価レポート



2023/7/21

目次

■ 資料

- 1 学生による授業評価実施要項
- 2 学生による授業評価アンケートの実施要領

■ 授業評価レポート

【教養基礎科目】

- 1 生命の科学
- 2 エネルギーのしくみ
- 3 情報処理
- 4 論文講読
- 5 心理学基礎
- 6 人間関係論
- 7 コミュニケーション論
- 8 レクリエーション
- 9 外国語 1（英会話）
- 10 外国語 2（韓国語会話）
- 11 外国語 3（中国語会話）
- 12 現代社会の理解
- 13 生物と環境
- 14 教養演習 [1PT]
- 15 教養演習 [10T]

【専門基礎科目】

- 16 解剖学Ⅰ
- 17 解剖学Ⅱ
- 18 解剖学Ⅲ
- 19 解剖学実習[1年]
- 20 解剖学実習[2年]
- 21 生理学Ⅰ
- 22 生理学Ⅱ
- 23 生理学実習
- 24 運動学総論
- 25 運動学Ⅰ
- 26 運動学Ⅱ
- 27 運動学実習 [PT]
- 28 運動学実習 [OT]
- 29 人間発達学

- 30 一般臨床医学
 - 31 公衆衛生学
 - 32 臨床心理学
 - 33 内科学
 - 34 整形外科学
 - 35 神経症候学
 - 36 小児科学
 - 37 医療安全学・救急医学[1年]
 - 38 医療安全学・救急医学[2年]
 - 39 画像診断学
 - 40 健康科学
 - 41 リハビリテーション概論
 - 42 リハビリテーション社会論[1年]
 - 43 リハビリテーション社会論[2年]
 - 44 社会福祉学
 - 45 障がい者スポーツ概論
- ### 【専門科目】
- 46 理学療法概論
 - 47 理学療法研究法Ⅰ
 - 48 理学療法研究法Ⅱ
 - 49 臨床運動学[PT]
 - 50 運動療法総論
 - 51 理学療法管理
 - 52 理学療法倫理
 - 53 検査測定法
 - 54 検査測定法実習
 - 55 人体触察法実習
 - 56 理学療法評価法
 - 57 理学療法評価法実習
 - 58 中枢神経系障害理学療法治療学
 - 59 中枢神経系障害理学療法治療学実習

60 運動器系障害理学療法治療学	97 身体障害作業評価学
61 運動器系障害理学療法治療学実習	98 精神障害作業評価学
62 内部疾患系障害理学療法治療学	99 発達障害作業評価学
63 内部疾患系障害理学療法治療学実習	100 作業療法研究法
64 小児疾患系障害理学療法治療学	101 作業治療学理論
65 小児疾患系障害理学療法治療学実習	102 作業療法治療学実習
66 老年期障害理学療法学	103 身体障害作業治療学Ⅰ
67 日常生活活動学	104 身体障害作業治療学Ⅱ
68 日常生活活動学実習	105 身体障害作業治療学実習
69 義肢装具学 [PT]	106 精神障害作業治療学
70 義肢装具学実習 [PT]	107 精神障害作業治療学実習
71 物理療法学	108 発達障害作業治療学
72 物理療法学実習	109 発達障害作業治療学実習
73 理学療法特論Ⅰ（神経生理学のアプローチ）	110 高齢期作業療法学
74 理学療法特論Ⅱ（関節運動学のアプローチ）	111 日常生活作業学Ⅰ
75 理学療法特論Ⅲ（筋生理学のアプローチ）	112 日常生活作業学Ⅱ
76 理学療法特論Ⅳ（スポーツ障害理学療法）	113 日常生活作業学実習
77 生活環境論	114 高次脳障害作業治療学
78 予防理学療法実習	115 義肢装具学 [OT]
79 地域理学療法学	116 義肢装具学実習 [OT]
80 臨床実習Ⅰ（見学）[1PT]	117 リハビリテーション関連機器
81 臨床実習Ⅱ（地域）[1PT]	118 地域作業療法学
82 臨床実習Ⅱ（地域）[3PT]	119 地域作業療法学実習[2年]
83 臨床実習Ⅲ（評価）[3PT]	120 就労支援学
84 臨床実習Ⅳ（総合1）[3PT]	121 臨床実習Ⅰ（見学）[OT]
85 臨床実習Ⅴ（総合2）[3PT]	122 臨床実習Ⅱ（地域）[OT]
86 卒業研究[3PT]	123 臨床実習Ⅲ（評価）[OT]
87 総合演習[3PT]	124 臨床実習Ⅳ（総合1）[3OT]
88 作業療法概論	125 臨床実習Ⅴ（総合2）[3OT]
89 臨床運動学[OT]	126 卒業研究[3OT]
90 基礎作業学	127 総合演習[3OT]
91 基礎作業学実習	
92 作業療法管理	
93 作業療法倫理	
94 作業療法評価法	
95 作業療法評価法実習Ⅰ	
96 作業療法評価法実習Ⅱ	

2022 年度 学生による授業評価実施要項

1. 実施目的

学生による授業評価アンケートは、FD&SD 委員会規程に基づいて行われ、アンケート結果を参考に授業の改善を図り、本学教育の質の一層の向上に資することを目的とする。

また、学生自身が授業への取り組みや学修行動を振り返り、確実に学修成果を修めることを目的とする。

2. 実施方法

2022 年度開講科目を対象として、授業毎にアンケートを実施する。

学生は、履修した科目のアンケートを Web アンケート（Google フォーム）方式で回答する。

3. アンケート内容

I 授業の内容について	3 問
II 授業の方法について	5 問
III 授業担当教員について	5 問
IV あなたの受講態度について	3 問
V あなたの学習態度について	2 問
VI この授業についてのあなたの満足度	2 問
VII ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）の把握	3 問
VIII 総合評価	2 問

4. 調査結果の集計

調査結果の集計は、FD&SD 委員会が行う。

5. 調査結果の配布

実施した専任教員および非常勤講師には、個人集計結果ならびに全学集計結果に成績平均点分布表を添えて配布する。

6. 実施結果の公表

個人集計結果を除き、全学集計結果を本学ホームページにて公開する。

学生の皆さんへ

「学生による授業評価アンケート」への協力をお願い

FD&SD 委員会

本学では「授業の質」を高めること、皆さん自身の学修行動を振り返り、確実に学修成果を修めることを目的として、授業科目毎に「学生による授業評価アンケート」を実施しています。このアンケートが皆さんの成績評価に影響を与えることはありませんので、安心して率直に回答してください。

皆さんの建設的な意見によって、本学の授業がより良いものになります。真剣に回答頂きますよう、ご協力をお願いいたします。

<実施科目>

全科目・全クラス

※但し、下記の科目は、科目の性質上、一部アンケートの設問を除外して実施します。

〔総合演習 ・ 臨床実習 ・ 卒業研究〕

<実施時期>

原則として、各科目 1 回、授業の最後に実施します。

<実施方法>

履修した科目について、Web アンケート（Google フォーム）方式で回答します。

※オムニバス形式の授業の場合、全体で一つの授業科目としてアンケートを実施します。

（オムニバス形式の授業のアンケートは、担当教員別には実施しません。）

<所要時間>

およそ 5～10 分程度

〈授業評価アンケート〉

I 授業の内容について

1. 授業の内容は、あなたにとって、興味深いものでしたか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そうは思わない
2. 授業の内容は、あなたにとって、理解しやすいものでしたか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そうは思わない
3. 授業の内容は、後輩にも推薦したいと思いましたか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そうは思わない

II 授業の方法について

4. 授業の進み具合は適切でしたか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そうは思わない
5. 授業中、教員の説明は、明瞭で聞き取りやすいものでしたか
※オンライン授業の場合、パソコン・スマートフォン・Web 環境の不具合によるものは除く
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そうは思わない
6. 板書の文字の大きさ、書き方、レジュメ（配布資料）の提示は効果的でしたか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そうは思わない
7. ICT の使用は効果的でしたか
※ICT の使用とは、プロジェクターによるパワーポイントや動画の提示、コンピュータ機器の使用、デジタル教材、電子媒体でのレポート提出 等を指します
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そうは思わない ⑥ICT の使用はなかった
8. 指定された教科書や参考図書、参考文献などの使用は適切でしたか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そうは思わない

Ⅲ授業担当教員について

9. 講義の準備を十分にしていたと思いますか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そうは思わない
10. 意欲的に、熱意を持って取り組んでいましたか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そうは思わない
11. 授業の開始時間、終了時間をきちんと守っていましたか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そうは思わない
12. 私語など授業を妨げる行為に対して、適切な対応をしましたか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そうは思わない ⑥授業を妨げるような行為はなかった
13. 学生が質問、意見を述べられるような環境でしたか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そうは思わない

Ⅳあなたの受講態度について

14. この授業に対して熱心に取り組みましたか
①熱心に取り組んだ ②どちらかといえば熱心に取り組んだ ③どちらともいえない
④あまり熱心に取り組まなかった ⑤熱心に取り組まなかった
15. 理解できない点などを質問しましたか
①その場で授業担当教員に質問した ②授業後に授業担当教員に質問した
③授業担当教員に質問していない
16. シラバスに記載されている「学習到達目標」や「履修上の注意」を意識して学習に取り組みましたか
①取り組んだ ②どちらかといえば取り組んだ ③どちらともいえない
④あまり取り組まなかった ⑤取り組まなかった

Ⅴあなたの学習態度について

17. この授業1回につき、予習にどのくらいの時間をとりましたか（平均して算出してください）
※予習とは、教員から提示される予習に相当する授業外学習時間も含まれます
①全くなし ②1時間未満 ③1－2時間
④3－5時間 ⑤6－10時間 ⑥10時間以上
18. この授業1回につき、復習にどのくらいの時間をとりましたか（平均して算出してください）
※復習とは、教員から提示される復習に相当する授業外学習時間も含まれます
①全くなし ②1時間未満 ③1－2時間
④3－5時間 ⑤6－10時間 ⑥10時間以上

Ⅵこの授業についてのあなたの満足度

19. この授業を受けて、知識修得に満足していますか

- ①満足している ②どちらかといえば満足している ③どちらともいえない
④あまり満足していない ⑤満足していない

20. この授業を受けて、学習に達成感を得られましたか

- ①得られた ②どちらかといえば得られた ③どちらともいえない
④あまり得られなかった ⑤得られなかった

Ⅶディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）の把握

21. この授業の授業到達目標を知っていましたか

- ①知っていた ②知らなかった

22. この授業科目がディプロマポリシーとどのような関連をもっているか知っていましたか

- ①知っていた ②知らなかった

23. この授業を受けて、ディプロマポリシーに基づく授業到達目標を達成することができましたか

- ①達成することができた ②どちらかといえば達成することができた
③どちらともいえない ④あまり達成できなかった ⑤達成できなかった
⑥ディプロマポリシーや授業到達目標がわからない

Ⅷ総合評価

24. この授業の総合評価を5段階でしてください

- ①良い ②どちらかといえば良い ③どちらともいえない
④どちらかといえば悪い ⑤悪い

25. この授業の良かった点や改善すべき点などを自由に書いてください

〈授業評価アンケート 「総合演習」「臨床実習」「卒業研究」〉

Ⅳあなたの受講態度について

1. この授業に対して熱心に取り組みましたか
①熱心に取り組んだ ②どちらかといえば熱心に取り組んだ ③どちらともいえない
④あまり熱心に取り組まなかった ⑤熱心に取り組まなかった
2. 理解できない点などを質問しましたか
①その場で授業担当教員に質問した ②授業後に授業担当教員に質問した
③授業担当教員に質問していない
3. シラバスに記載されている「学習到達目標」や「履修上の注意」を意識して学習に取り組みましたか
①取り組んだ ②どちらかといえば取り組んだ ③どちらともいえない
④あまり取り組まなかった ⑤取り組まなかった

Ⅴあなたの学習態度について

4. この授業1回につき、予習にどのくらいの時間をとりましたか（平均して算出してください）
※予習とは、教員から提示される予習に相当する授業外学習時間も含まれます
①全くなし ②1時間未満 ③1－2時間
④3－5時間 ⑤6－10時間 ⑥10時間以上
5. この授業1回につき、復習にどのくらいの時間をとりましたか（平均して算出してください）
※復習とは、教員から提示される復習に相当する授業外学習時間も含まれます
①全くなし ②1時間未満 ③1－2時間
④3－5時間 ⑤6－10時間 ⑥10時間以上

Ⅵこの授業についてのあなたの満足度

6. この授業を受けて、知識修得に満足していますか
①満足している ②どちらかといえば満足している ③どちらともいえない
④あまり満足していない ⑤満足していない
7. この授業を受けて、学習に達成感を得られましたか
①得られた ②どちらかといえば得られた ③どちらともいえない
④あまり得られなかった ⑤得られなかった

Ⅶディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）の把握

8. この授業の授業到達目標を知っていましたか
①知っていた ②知らなかった
9. この授業科目がディプロマポリシーとどのような関連をもっているか知っていましたか
①知っていた ②知らなかった
10. この授業を受けて、ディプロマポリシーに基づく授業到達目標を達成することができましたか
①達成することができた ②どちらかといえば達成することができた
③どちらともいえない ④あまり達成できなかった ⑤達成できなかった
⑥ディプロマポリシーや授業到達目標がわからない

VIII 総合評価

11. この授業の総合評価を 5 段階でしてください

①良い ②どちらかといえば良い ③どちらともいえない

④どちらかといえば悪い ⑤悪い

12. この授業の良かった点や改善すべき点などを自由に書いてください

◆集計データ結果について

4月に4回の講義が行われたが5月から休講となっていた講義を、8月末から集中講義の形で引き継いで開講した。PTとOTを合わせての講義となり、6日間で11回の講義と試験を行うという、かなりハードな日程であったが、受講した学生のほとんどは真面目に取り組んでいたと感じられた。講義形態や実施時期が前年度と異なるので単純に比較することはできないが、集計データ結果を見る限り、代講の役割はそれなりに果たせたのではないかなと思う。集中して講義が連続して行われたこともあり、毎回の課題もその場で回答する形になってしまい、時間をかけて深く考える課題が少なかったことはやや残念であった。また、Googleフォームを用いた学生への質問・回答などを取り入れたものの、学生への質問ももう少し多く取り入れた方が良かったのではないかなと思う。さらに、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、「生命倫理」の項目では、学生間のグループでの意見交換を行うことを避けたことも残念であった。本講義は、リハビリテーションに関する専門科目の基礎となる生物学の知識や考え方を習得するもので、学生にとっては専門科目の学習に役立つものとなれば幸いである。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

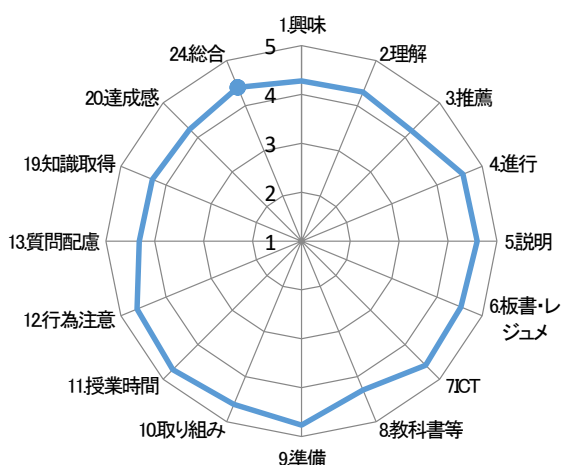
毎回の講義で、講義に関係ある生物(実物)や標本、関連書籍などを持参して回覧した。ネット社会の下では、いろいろな情報や写真・映像を手軽に見ることができるようになったが、リアルな実物を手に取って触れる機会は逆に遠ざかってしまっていると感じている。ネットでは実際の大きさ、質感などを実感することは難しく、実際に実物に触れると、その大きさや質感を肌で感じ取ることができ、新たな発見の可能性も広がる。自由記載で「実物や標本に触れることができた」と記載した学生が多かったことは、大変喜ばしい。なお、新型コロナウイルスの感染防止のため回覧する際にはアルコールティッシュを一緒に回して観察後に手指の消毒をするように指示した。

また、高校などの正式な授業の中で新型コロナウイルスについての性質や感染に関する知識が取り入れていないのが現状で、マスクの使用の意義や効果、洗剤やアルコールによる手洗いの意義や効果、変異株やワクチンについて、正しい知識や認識が不足している学生が多い。このような現状の中で、本講義では生物学の関連する項目の中に積極的に取り入れたが、印象に残っている学生がいたことは良かったと思う。

◆今後の改善に向けて

今回、代講という形で集中講義を担当したので、シラバスもそのまま引き継いでの内容の講義を行った。生物学は日々発展しており、iPS細胞などは実際の医療のなかにも導入されつつある。このような中で、専門科目のシラバスとの関連性も考慮したうえで、本講義で取り扱う内容も検討を重ねていく必要があると思われる。特に「遺伝子」や「発生(再生医療)」に関する分野は積極的に取り入れていく必要があると思われる。

また、時間的な余裕があれば、学生にもう少し深く考えさせる課題を提示して考えることも大切であり、学生間のグループでの意見交換も「生命倫理」の分野の理解には効果的であると思われる。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評価点)

科目名

2 エネルギーのしくみ

担当教員

後藤 理夫

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

62 名

◆集計データ結果について

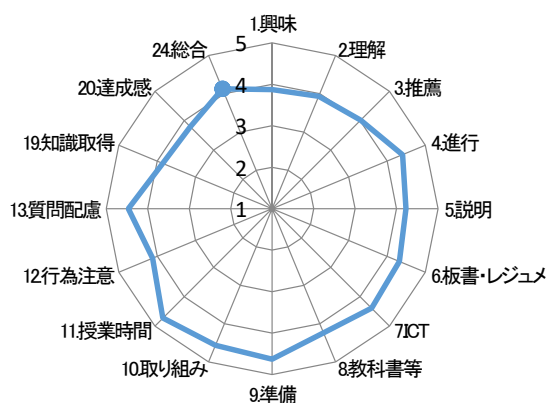
- 1 家での予習は無し、授業中で理解・理解した気持ちになる事で良い。その上で課題をその日の内に行ない復習として理解・納得をしてください、と最初の授業で伝えている。(課題提出状況と25%の人が復習は全くなしと答えていることに?)
- 2 授業内容の習得・達成感に約10%ができなかった・無し、と答えているが追認試験受験者と一致すると思われる。
- 3 質問時間については、あらかじめ確保することが進度的に難しい。その場で手を上げる、又は、授業後でお願いしたい。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

- 1 講義内容の理解について真反対の声が「理解」と「達成感」の項目の数値として表れている。「できなかった」解決には、私と学生両者の努力目標にするしかないと考える。
- 2 テキストと課題問題にズレがある点については、毎年テキストを手直しする間に見過ごしがあったため、修正します「ありがとう」。
- 3 コロナ禍で板書の文字が小さく、読めない、黒板の下の方が頭で隠れると言う言葉を聞くようになった。その場で声を上げてください。

◆今後の改善に向けて

「物理・エネルギーと聞いただけで耳をふさぐ学生」から「それ知っている、特に覚える事は無かった学生」まで元々の学力差が大きい学生達への授業だが、学術的理論も大切にしつつ、日常的に身の回りで起きる現象にも関心を持つ授業にしたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
 19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評価)

科目名

3 情報処理

担当教員

斎藤 末広

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

66 名

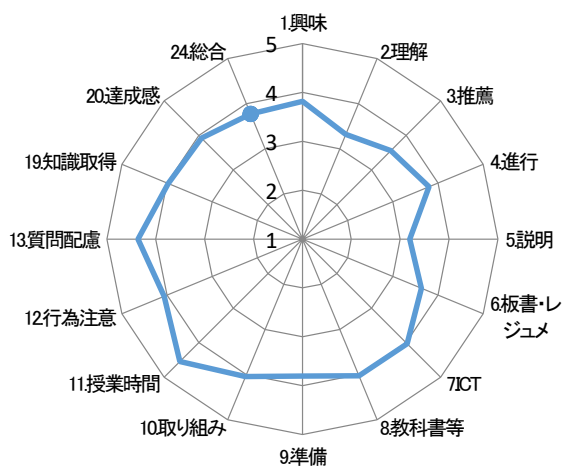
◆集計データ結果について

もっと満足度が高い授業をするべきであった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

何人かが、進捗が早い、課題が不明確であったとしている。学生のITリテラシーに差があるが、それにあわせて、指導すべきであった。

◆今後の改善に向けて



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
 19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
 評点)

◆集計データ結果について

総合的な評価は4ということだったが、知識取得と達成感が3.5に近かったのは残念である。講師の側の主観的な達成感5なので、独りよがりの講義になっているということが示されているのだろう。

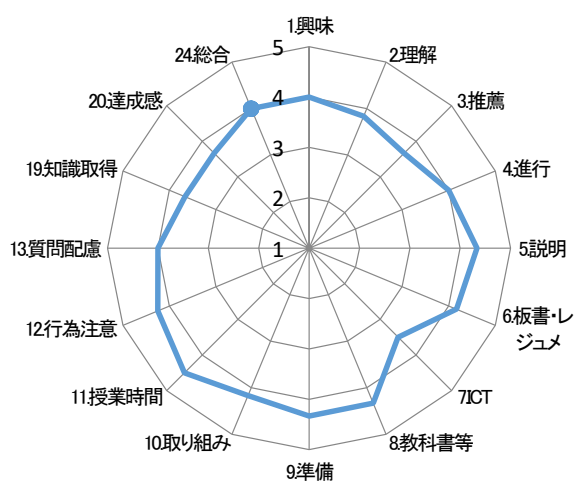
DPとの関連性について「よく分からない」という回答がかなりの程度あったことは無視できない。少人数かつまじめな女子学生ばかりということで、講義中の私語や邪魔になる行動はなかったので、行為注意が例年より良かったのは幸いであつた。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

1人の学生さんが「受け身の講義が中心だったので、一度くらい自分の興味のある論文を読んで、レポートを書いたり発表したり、自発的に参加できる機会があるといいと思った」と回答しており、確かにとてもいい意見だと思った。そういう仕組みを講義に取り入れるのは、言うは易く行うは難しではあるが、一考の価値はあるだろう。問題点としては、講師自身の知識・経験・時間のキャパに限りがあつて、学生さんが読みたい論文を読んでみても、その内容がさっぱり分からないことが起こりえる。レポートを書くことが、学生さんの側に過剰な時間的な負担になる可能性もあり、全員にそれを求めることはできないということもあり得る。いろいろ考えるべき点はあるが、次年度以降の課題として受け止めた。

◆今後の改善に向けて

上記の自由記載から出てきた課題について前向きに考えたい。講義内容の改善に繋がることは確かだろう。その他の改善点としては、英語の扱いについて再検討が必要のようである。学生の中には英語が得意という人もいるにはいるが、それは圧倒的に少数のようで、中学・高校を通して苦手意識が強く身に付いてしまった者がほとんどのようである。英語の学習は同時に日本語の運用能力を高めることにも繋がるので、苦手という人にもう一度学び直す機会にしてほしいと考え、従来、この講義に取り入れてきた。それが良かったのかどうか疑問がある。むしろ日本語の新聞記事などから論文作成に繋げていく方がいいのかもしれない。結論は未だ出ていない。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
評点)

◆集計データ結果について

「総合評価」は、4.15で比較的良好であったといえよう。各評価項目の中で、高く評価された項目は、「授業担当教員について」で、教員の授業への取り組み姿勢、態度、及び学生対応であった。

一方、やや低く評価された項目は、「授業の内容について」で、その中でも理解に関するものであった。その原因は、学生の自由記載からみると、(PowerPointのスライドに記載された文字の分量が多く、理解しにくかった)といったことなどによるものと考えられる。

また、学習の意識に関する内容で特に低く評価された項目は、「質問」、「予習時間」であった。「質問」については、学生の自由記載において、(発言しやすかった)、(意見を述べられる機会があつて楽しかった)等の見解が示されていることから、疑問があれば大いに質問することを期待したい。「予習時間」については、ガイダンスでシラバスに基づき説明したが、学生に十分伝達されていなかったものと推察される。

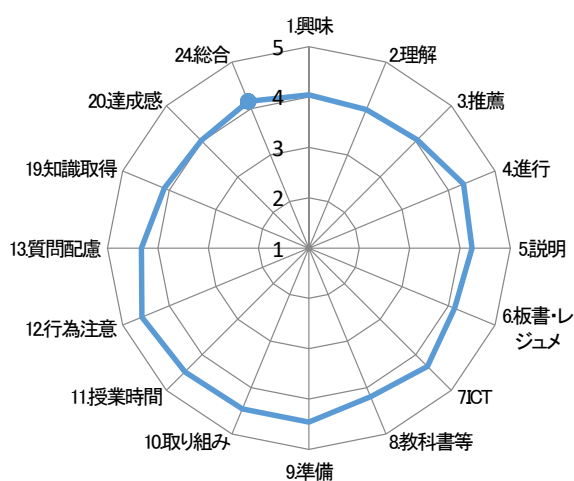
◆学生の自由記載の内容を検討した結果

学生の自由記載では、(心理学を学んでいてとても楽しかったです！)等の肯定的見解が大半を占めており、感謝したい。その主因は、(グループで実践する課題があった点が良かった)等の記載が散見されたように、グループ学習や体験学習などのアクティブラーニングの導入効果によるものといえよう。一方、改善すべき点は、前述のように(PowerPointのスライドに記載された文字の分量が多く、理解しにくかった)との見解が示されたことである。

◆今後の改善に向けて

これまで通り、グループ学習や体験学習などのアクティブラーニングを可能な限り導入し、より多くの学生が楽しみながら主体的に学習できるように配慮する。PowerPointで使用するスライドの内容を簡潔化するなどして理解し易いものとする。

学生の意識に関する内容である「質問」、「予習時間」については、ガイダンスや毎回の授業で、シラバスに基づき一層平易かつ具体的に説明するなどして、その内容の周知徹底を図る方針である。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階
評点)

科目名

6 人間関係論

担当教員

金子 幾之輔

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

56 名

◆集計データ結果について

「総合評価」は、4.00で比較的良好であったといえよう。各評価項目の中で、高く評価された項目は、「授業担当教員について」で、教員の授業への取り組み姿勢や態度であった。

一方、低く評価された項目は、「板書・レジュメ」であった。その原因は、学生の自由記載からみると、(PowerPointのスライドの文字数が多く難しい)、(授業展開が速すぎる)といったこと等にあると考えられる。

また、学習の意識に関する内容で特に低く評価された項目は、「質問」、「予習時間」であった。「質問」については、授業内で質問時間を設定しなかったことが主因の一つともいえるかもしれない。「予習時間」については、ガイダンスでシラバスに基づき説明したが、学生に十分伝達されていなかったものと推察する。

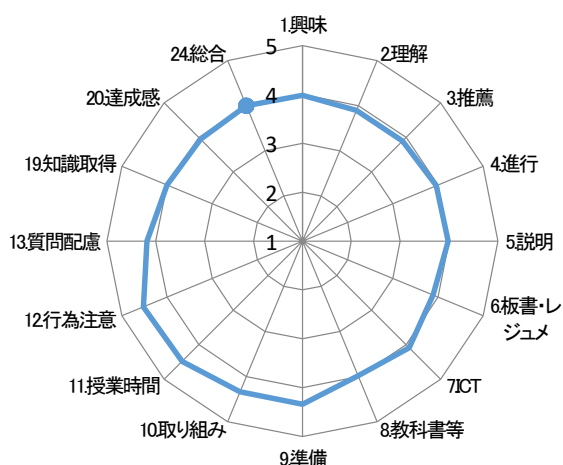
◆学生の自由記載の内容を検討した結果

良かった点は、(人間関係のあり方の実践が面白かった)等の記載が散見されたことである。これは、グループ学習や体験学習等のアクティブラーニングの成果を示唆するものといえよう。一方、改善すべき主な点は、前述のようにPowerPointで使用した(スライドの見にくさ)、(スライド切り替えを含む授業展開の速さ)についての記載が少なくなかったことである。

◆今後の改善に向けて

グループ学習、体験学習、プレゼンテーション等のアクティブラーニングの機会を可能な限り設け、より多くの学生が楽しみながら主体的に学習できるように配慮する。PowerPointで使用するスライドの内容を簡潔化するなどして見やすいものとする。また、学生の筆記状況を十分に確認して、スライドを切り替え授業展開していくように努める。

学生の意識に関する内容である「質問」、「予習時間」については、ガイダンスや毎回の授業で、シラバスに基づき一層平易かつ具体的に説明するなどして、その内容の周知徹底を図る方針である。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評価点)

◆集計データ結果について

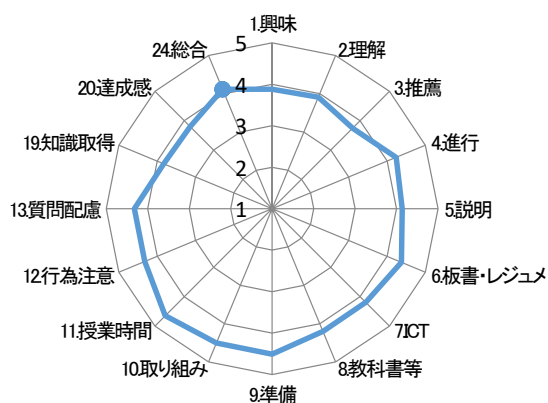
昔風の優・良・可・不可の尺度で言えばおおむね「良」というところであろうか、ほぼ全ての項目について「 $4 \pm \alpha$ 」の評価をいただいた。項目の9～13が「教員」として括られており、そこでの評価が「 $4 + 0.3$ 」ぐらいになっているのが嬉しい点である。例年「行為注意」の項目で低い評価となっていたが、本年度はそれほどでもなかったのが特筆される。コロナ禍で学生がマスク着用を余儀なくされ、私語が感染の原因になることを十分理解して、話したくなる気持ちを抑えてくれたのかもしれない。反作用で、眠気を抑えられないケースもあったかと思われる。昼食直後の3時限目という時間帯が大きな原因であることは言うまでもないが……。眠気対策も兼ねて本年度は授業後の振り返りをA4のレポートに記入してもらうようにしたのが一定の効果を生んだかもしれない。そのレポートを次の講義で返却したので、最後の試験への対策に利用できたのではないか。試験の結果は例年になく良いように思われた。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「楽しく受講できた」という感想を多くいただき、ほっとしている。当方がますます年を取って、学生が孫のように感じられるようになってきたため、つい顔がほころびてしまうのが伝染したのかもしれない。これは予習復習無用の教養講座の強みとも言える。3人の科学者の業績と生涯を取り上げたのが「コミュニケーションとどう関係しているのかよく分からない」という感想には、確かにそうだと頷くほかない。自然科学が人間と自然とのコミュニケーションだということを伝えたかったのだが、うまく伝わらなかったようである。「敬語は古文ではなく現代文でやりたかった」という意見も、確かにそうである。現代語での敬語が身に付いていることを前提としてはいけないのだろう。本年度、大きく失敗した点を突いてこられたわけで、大いに反省しなければならない。

◆今後の改善に向けて

改善すべき点が3つあると考えている。まず1点目は、本年度取り入れたA4用紙でのレポートのやり取りを来年度も継続する上で、学生が要点をよりまとめやすくするよう解説や板書を工夫することである。今どこを説明しているのかを明確にし、区切りごとにそこまでのまとめを述べるようにする。また、教室の広さの関係で、黒板の文字を大きく書く必要もある。2点目は、自然科学が人間と自然とのコミュニケーションであることをより明確に説明するよう工夫したい。科学の知見を基礎に置いて医療活動に従事することになる生徒さんたちにとって、こうした認識は非常に重要だと考える。3点目は、現代語での敬語をより多く扱うようにしたい。平安時代のあの複雑な敬語の体系をいくら学んでも、令和を生きる学生にはほとんど役に立たない。しかし、かなり簡略化された現代語の敬語であっても、それを上手に使えるようになるのは容易ではない。講師自身、改めて勉強し直さなければならないことを自覚している。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評価点)

◆集計データ結果について

教科書の使用を含むすべての項目で平均4.2以上であり、おおむね良い評価であった。今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、PTとOTクラス別の開講となった。クラスの垣根を超えた交流という従来の目的は達成できなかったが、学生の意識については「14.熱心さ」で「どちらかといえば取り組んだ」「取り組んだ」と答えた学生が100%であり、制約の多い環境の中、授業に対する興味を引く授業展開ができていたと考える。

一方、予習・復習時間がまったくないとした学生が多かったが、授業内で間に合わなかった準備や練習を行うよう指示し、そのように各グループとも行い、授業に間に合わせてきたため、教員の求めるレベルの学習はできていたと思われる。準備や練習は、予習・復習には当たらないと考える学生が多く、結果に反映されなかったものとする。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

内容については「皆と協力しながらレクの成功を目標に頑張ることができた」「チームでずっと活動できるのでグループワークをする力が身についた」「発表している時は周りの配慮などができ、これから大切なことを身につけることができた」など、グループで協力して取り組んだことへの肯定的意見が多数挙げられた。教員の意図が伝わり、それぞれの役割を楽しみながら果たせたようである。

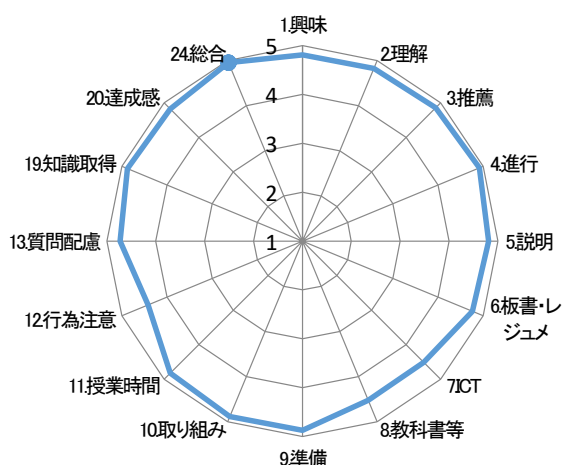
教員の指導方法も「準備をしっかりしてあり授業を受ける側もスムーズに動けた」「準備や本番に十分な時間とっていただけ調整がしやすかった」「将来OTとして患者さんに何を提供すればいいのかなど知る機会になった」「療法士としての視点でのレクの見方などの説明がわかりやすかった」など企画・運営や将来への見通しという点での肯定的意見が挙げられた。

一方で「最後の切り絵の時間がもう少しあったら良かった」「班をくじで決めたが、少なくとも一人は話せる子がいるとストレスなく講義を受けられた」との意見があり、今後の課題となった。

◆今後の改善に向けて

昨年度に引き続き、感染対策のため、PTとOTのクラスごとに授業を実施した。感染予防に留意しながら教員、学生ともにできることを見つけ、実行することができた。クラス間交流ができなかったことはとても残念であるが、ここで磨いた対人交流技能を是非学校生活でも活用し、交流の幅を広げて頂きたい。教員からすれば、PT・OTのクラス特性がよく見て取れる機会でもあり、それぞれのクラスに合わせた授業の仕方を工夫して進めたつもりではある。

自由記載に挙げられた手工芸的な活動の拡大については、授業の目的に照らしながら慎重に検討していきたい。グループ編成については、例年不都合があれば申し出るように伝え、グループ決定後の移動も可としている。学生が多様化する中、今後も学生の様子を見ながら、居場所のない学生が出ないように配慮しながら授業運営をしていきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評価点)

◆集計データ結果について

The use of the Excel spreadsheet (フォームの回答 1) was very useful and easy to read and understand.

After reading the comments of the students, I felt that many of the students have been satisfied with the class lessons. One student commented: 英語が苦手な私に先生は、簡単な単語で教えてくださったので分かりやすかったし、楽しかったです。

Since I was not good at English, the teacher taught me using simple words, so it was easy to understand and I had a lot of fun.

One objective of the class was for the students to interact among themselves using the English that they were comfortable using, a student's comment: 英語で分かりにくい所も、できる限りの方法で説明してくださったので、取り組みやすかった。Even if it was difficult to understand in English, they explained it in the best possible way, so it was easy to work on.

The students were able to help each other to use and understand the English they used in class.

For most of the students, their attitude toward speaking English in class seemed positive.

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

The students tried their best to understand the contents of the English lessons, and because of the all-English content of the class, one student felt: 周りの人と話しながら学ぶアクティブラーニングが多くとても良かったです。

In general, the students communicated and used the English they know and did very well. Other comments from the students.

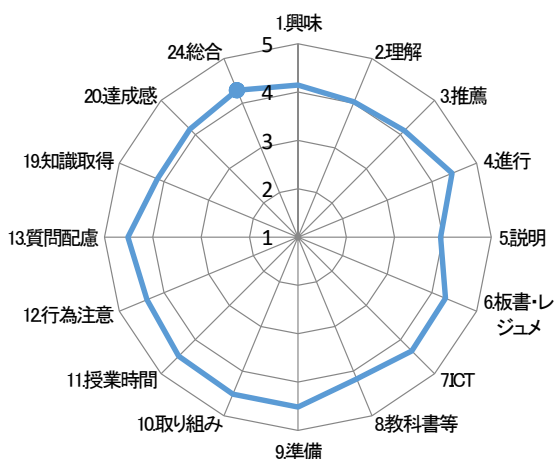
1. 小テストが多かったのが医療で使える英会話を覚えることができた。
2. 授業内の会話練習がクラスメイトと話す機会になってよかった。
3. 人と実際に英語で対話することで英語力が身についたと思う。講義中に英語で全て話すことでリスニング力も身につく、楽しく英語を学ぶことが出来てとても良い講義だった。

◆今後の改善に向けて

One student's commented: 英語が苦手な自分はこの情報があっているかわからず、宿題や試験に関してもわからなかったです。

For next time, I will explain more about the weekly quizzes and how to study for them as much as possible.

I am grateful for the useful comments the students made, and I will try to incorporate the suggestions into my teaching.



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評価点)

科目名

10 外国語 2（韓国語会話）

担当教員

金 春子

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

28 名

◆集計データ結果について

2022年度は、韓国語受講者が28名のため、目が行き届き、授業がとてもやりやすかった。その結果として、高い評価になったと思う。

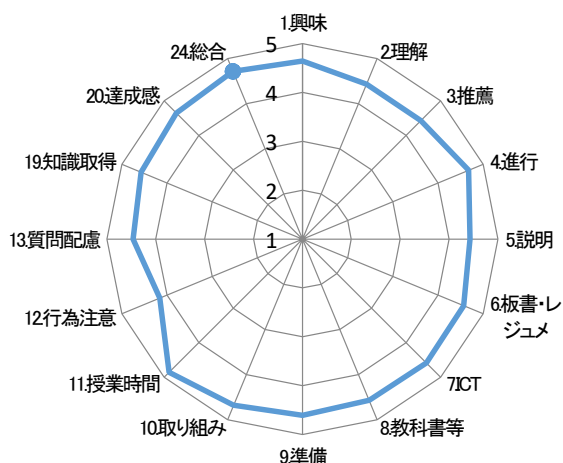
◆学生の自由記載の内容を検討した結果

授業で韓国語を学んだ多くの生徒が「楽しかった」と回答した。学生が楽しく韓国語を学ぶことで、韓国語学習に励んでくれることにも繋がるため良かったと感じる。

今回から生徒の携帯電話に韓国語の発音と会話を録音した。教科書にCDがついているが、学生の多くはCDデッキを持っていないための策である。その甲斐もあり、テストの結果、全員合格することができた。

◆今後の改善に向けて

韓国語の授業を受けている学生全員がハングル文字を読めるように、一人一人に配慮して授業を進めていく。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
 19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
 評価点)

科目名

11 外国語 3（中国語会話）

担当教員

侯 英梅

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

33 名

◆集計データ結果について

集計結果の各設問において

●質問15「理解できない点などを質問しましたか」に対し、取り組まなかった/質問していないとの回答者が19名もいた。質問しやすい環境を作ることが今後の課題だと考える。

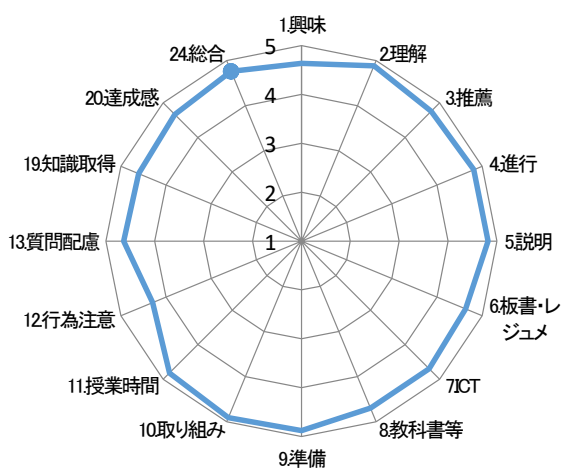
●質問21「この授業の授業到達目標を知っていましたか」と質問22「この授業科目がディプロマポリシーとどのような関連をもっているか知っていましたか」に対し、知らなかったとの回答者がどちらも14名ほどいた。全体感を持って取り組んでもらえるよう意識付けをしていくことが今後の課題だと考える。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

発音の口の動きが分からないので、マウスシールドなど口元が見える状態のほうが良いという意見があった。今後検討させていただきたいと思う。

◆今後の改善に向けて

毎回発音の練習や復習ができてよかったというコメントをいただき、今後とも引き続き授業に取り込んでいきたいと思う。この授業を通して簡単な会話ができ、中国の文化にも興味を持てたことを知り、何より嬉しい。同時に、今後、外国語学習を通して、受講した学生に将来の仕事や物事の考え方など、何か役に立つような知識を教えられたら良いと考えている。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
評点)

◆集計データ結果について

全項目の結果が4以上であり、学生からある程度の評価を得られたことが考えられる。特に、「進行」は4.63、「準備」は4.78、「授業時間」は4.82の評価であった。これらの点については今後も継続した取り組みを続けていきたい。「授業到達目標」は半数の学生が認知していたが、「ディプロマ・ポリシーとの関連性」については約4割の学生の認知に留まっていた。そのため、今後は本学の教育理念と講義内容との関連性を、より積極的に学生に伝えていきたい。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

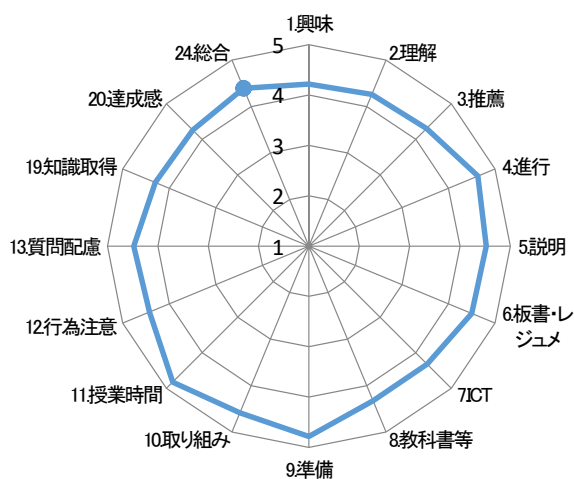
新聞記事などの資料の利用や、レジュメについて、「資料やレジュメが見やすかった」「実際の例を聞くことで内容が入ってやすかった」といった感想があった。今後も新聞記事の利用を継続し、講義内容の理解の促進を図りたい。また、レジュメについては図表や具体的な事例を多く取り入れることを意識してきたが、こうした点を今後も継続していきたい。

また、講義で取り上げた社会問題について、「知らなかった現代社会の問題を知ることができてよかった」「社会問題に興味を持てた」「授業で取り上げられた社会問題は自分にも起こり得ることなので考えさせられた」という感想があり、「現代社会の理解を深める」という本講義の目的が果たされたように思う。特に、「情報を鵜呑みにするのではなく、自分自身で試行錯誤した上で正しい情報かどうか判断し、社会情勢について意見を考えた上で行動するべきだとわかった」という記述があったことから、社会問題に対する画一的な考え方に捉われず、多角的な視点で捉えるという社会学の基本的考え方を学んでもらう意図が、学生に伝わったことが考えられる。

◆今後の改善に向けて

今後も、新聞記事をはじめとする資料の利用を充実させることで、社会問題をより身近に感じてもらえるような講義を行っていきたい。その際に、社会問題に対する多様な見方や意見を取り上げることで、多角的な視点を養ってもらうことを意識したい。また、講義内容とディプロマ・ポリシーとの関連性を学生に明確に伝えるようにし、本学の教育理念と講義内容との関連性を認知してもらうことで、学生の意欲的な学習を促進したい。

学生が、講義の到達目標である「身近な社会問題への理解・思考・興味・関心」を深められるよう、講義内容のさらなる改善を図っていきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階
評点)

◆集計データ結果について

8月末から集中講義の形で開講した前期の「生命の科学」に引き続き、9月からの後期の初回も「休講」となったので代講したが、講義期間中に正規の担当者が逝去されてしまったことは誠に残念であった。選択科目ということもあり、受講した学生のほとんどは真面目に取り組んでいたと感じられた。学生が前年度と異なるので単純に比較することはできないが、集計データ結果を見る限り、代講の役割はそれなりに果たせたのではないかなと思われる。本講義では、現在の環境が作られた地球や生物の歴史、環境を知覚するための感覚器や、昨今社会的にも話題になっている環境問題の知識や考え方を取り扱ったが、学生が社会に出た際に少しでも役立ったならば幸いである。

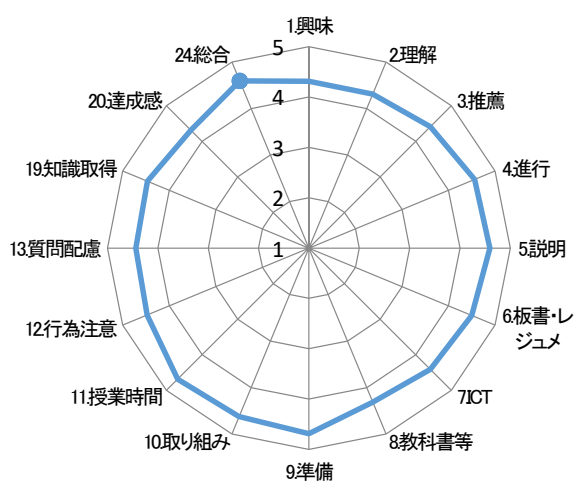
◆学生の自由記載の内容を検討した結果

毎回の講義で、講義に関係する生物(実物)や標本、関連書籍などを持参して回覧した。ネット社会の下では、いろいろな情報や写真・映像を手軽に見ることができるようになったが、リアルな実物を手に取って触れる機会は逆に遠ざかってしまっていると感じている。ネットでは実際の大きさ、質感などを実感することは難しく、実際に実物に触れると、その大きさや質感を肌で感じ取ることができ、新たな発見の可能性も広がる。特に、カイコについては、孵化直後の幼虫からの成長過程や、繭づくりや成虫になってからのフェロモンによる行動の観察、さらに繭から糸を取る体験もしてもらった。なお、新型コロナウイルスの感染防止のため回覧する際にはアルコールティッシュを一緒に回して観察後に手指の消毒をするように指示した。自由記載で「実物や標本に触れることができた」と記載した学生が多かったこと、カイコに関する感想を書いた学生がいたことは、当方の意図が理解されたこととして大変喜ばしい。

◆今後の改善に向けて

今回、急遽代講という形で担当し、シラバスもそのまま引き継いで講義を行った。シラバスを作成した担当者との打ち合わせもできないままに、シラバスの記載から講義内容を決定して実施したが、詳細までシラバス作成者の意図したものであったかどうかは判然としない。今となっては、それを確かめることすらできなくなってしまったことは誠に残念である。

生物は「環境」の中で生息しており、ヒトも例外ではない。現在の環境が作られた地球や生物の歴史、環境を知覚するための感覚器や感覚、さらに環境問題の知識や考え方を学習することは、昨今、急速に変化していると言われる地球環境に関する諸問題を理解するうえで、「生物と環境」の講義はその重要性を増していると考えられる。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
評点)

科目名

14 教養演習 (PT)

担当教員

松村 仁実

専攻・配当年次

PT

1年

回答者数

45 名

◆集計データ結果について

各項目は、3点台後半から4点台である。

学生の受講態度に関して、目標等を意識して取り組めた学生が6割弱、取り組まなかったと回答した学生は1割弱である。質問に関しては8割弱の学生が「していない」との回答である。一方で、熱心に取り組めた学生は9割である。予習・復習に関しては、8割の学生が全くなし、行っている学生も1時間未満である。

授業の到達目標や、ディプロマポリシーとの関連性を理解していた学生は5割弱である。授業を受けて到達目標を達成できた学生は5割弱である。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

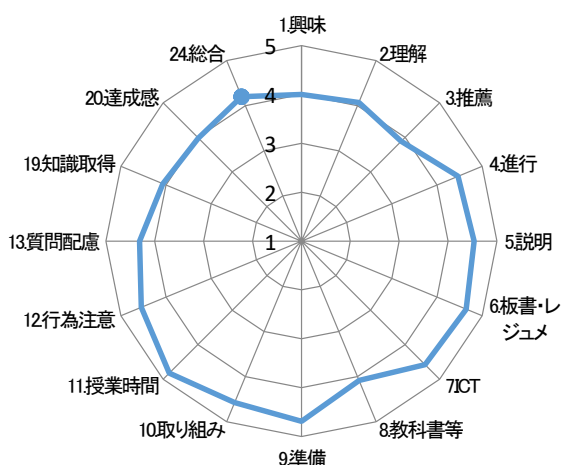
自由記載での意見はあまり見られなかったが、グループワークを取り入れる点が評価されている。グループワークで他者の意見を聞いたことで新たな視点を取り入れることができたという意見がある。また、自身の取り組みとして積極的に参加できたという振り返りがみられる。その他にも、自身の理学療法士としての将来像を考えるきっかけになったとの意見がみられる。

大学生の学びとして、他者との関わりの中で見聞を広めることに気づけた学生には有意義であったと考える。しかし、特に記載のない学生も多くみられたため、自身のこととして、他者を巻き込みながら取り組めるような内容の設定が今後の課題である。

◆今後の改善に向けて

開講時期が1年次前期の入学直後からとなり、大学での学びやその学び方、社会から求められる人材について学修する。本科目は、高校までの学習方法との違い、他者との関わり方、理学療法士として社会人に求められる素養やスキルについて理解することを目的としている。

入学直後に授業の到達目標やディプロマポリシーについて意識を向けることは重要であるが、大学の学びに慣れていない時期でもあるため、関連性を理解する学生とそうでない学生に二分されていると考える。早期からの意識付けにより、その後の授業への取り組み方にも影響する点を考えると、ディプロマポリシーなどを丁寧に伝えていく必要がある。授業内容については、自身の振り返りやグループワークなどを行い、時間内に完結する形であったため、予習や復習を求めるものではなかったが、大学の授業に慣れていく点も踏まえると各自の学びを自覚するために、授業での振り返り等を課題として設定することも考えられる。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評価点)

科目名

15 教養演習 (OT)

担当教員

横山 剛

専攻・配当年次

OT

1年

回答者数

22 名

◆集計データ結果について

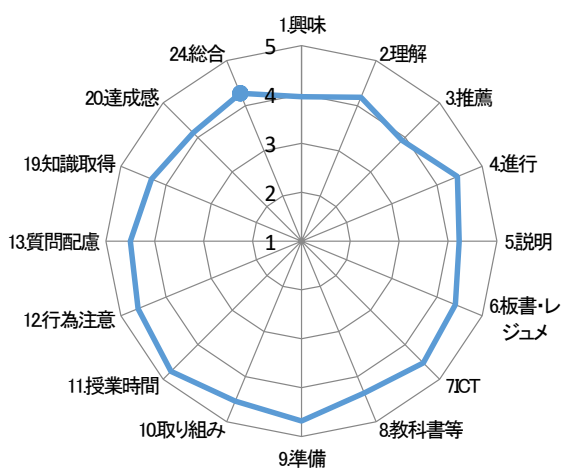
本学で学びを続けていくにあたって、必要なことを授業に盛り込み、講義、ディスカッション、発表の形で授業を展開した。単なる丸暗記の知識としてではなく、学生自身が体得していくためには悩んだり、困難さを覚えたりすることもあるのだと思われる。いつでも自分の思う通りになるわけではない、という現実を受け止めつつ、自身が今、何に取り組む、工夫するか、支援を求めるべきことはないか、などを見極められるようになるために、本講義を通して学生自身が励まれた結果であると考えている。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

肯定的な意見があるが、場当たりのなものも多いとも考えられる。話し合いが良かった、というような意見があるが、どう良かったのか、どう為になったのか、この体験をこれからどのように活かすのかなどに触れられてはいない。この部分に関する講義、指導が不足していたと反省している。共感を求めるように意見を押し付けてくる、といった内容の意見があるが、当然のことながらそのようなことはあるはずもなく理解に苦しむが、そのような受け取り方をしやすい学生について、更なる支援が必要であることを認め取り組んでいく。更に学生自身もよく振り返っていただく必要があると考える。

◆今後の改善に向けて

良好な対人関係を構築し、学生自身の考えや思いを伝え、伝えられることを通して「他者と分かち合うこと」に向けての取り組みが必要であると考え。そのため、分からないことがあっても良いことや、それを分かろうとする必要性をもっと授業の中で体験を通して体得できるように、単なるお飾りのような授業目標を掲げずに、授業設計をし、学生の確かな力となるような計画をする。教員と学生、学生同士が互いの違いを超えて「分かち合う」ための授業を計画し実践していく。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評価点)

科目名	16 解剖学 I
-----	----------

担当教員	清島 大資
------	-------

専攻・配当年次	PT・OT 1年
---------	----------

回答者数	68 名
------	------

◆集計データ結果について

総合評価において、評価が5段階評価の4.41とおおむね評価は良好である。今回の評価では、「板書・レジュメ」の項目が全体の評価に比べて特に低くなっている。自由記述にある事前配布した資料の文字が小さかったことと内容が多いためどうしても授業のスピードが早くなり、板書の機会が少なかったことが大きな要因と考えられた。また、担当教員の準備、取り組み、授業時間の評価は他の項目に比べて高く、全員に一定の知識を理解してほしい気持ちは伝わっていたと考えられた。

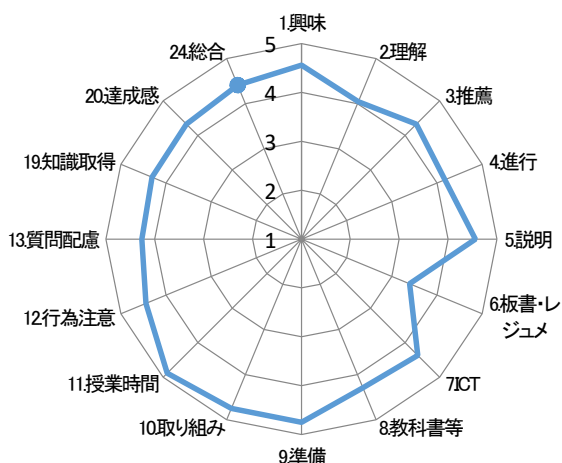
◆学生の自由記載の内容を検討した結果

この授業では前期で解剖学の全範囲を終えるため、予習・復習がしやすいようにシラバスに沿った授業を行った。また、その日の授業ポイントの予習・復習ができるように授業資料を準備し、教科書や参考書名を記載しておいた。学生の理解を深めるため、国家試験問題をピックアップし、小テストも実施した。さらに、授業後には必ず質問等の時間を設けるようにした。授業終了時の学生からの質問は、毎回同じ学生からが多かった。できれば、学生自身で疑問に思うことは積極的に質問してほしい。レジュメの文字はもう少し読みやすく改善するようにしたい。

◆今後の改善に向けて

教員が喋ることが多く、一方向の授業となってしまうため、双方向性の授業を取り入れるようにしたいと考えている。様々な資料を授業で使い、イメージ化できたことは評判がよかった。次年度では、もう少し授業開始前や終了時に要点を伝え、予習・復習をやすくし、改善を図っていきたい。

予習時間・復習時間がまったくなしの学生がおり、少しでも解剖学を勉強したいと思ってもらえる努力をしていきたい。解剖学は暗記になりやすいが、理解する授業を行っていきたいと考えている。予習する時間が多いほど、自分の知識として身に着くことを実感してもらいたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
 19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評価点)

科目名

17 解剖学Ⅱ

担当教員

中野 隆

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

41 名

◆集計データ結果について

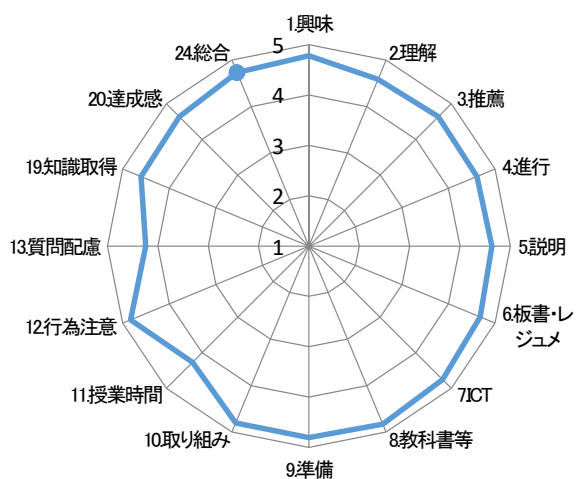
解剖Ⅱは、極めて広範囲、かつ1学年次の他教科との関連が少ない領域である。復習時間をさらに確保する必要が高い。2学年次以降の内科学などを学ぶ際、解剖Ⅱの内容を復習するように。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

前学期の解剖Ⅲにおいては、「質問時間がない」、「後方の席のヒトにはほとんど見えない」等の意見が見られた。今回はそのような意見が出ない理由が判らない。

◆今後の改善に向けて

範囲が広いにも関わらず、講義コマ数が少ない。図表、模型をさらに効率よく活用したい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
 19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
 評点)

◆集計データ結果について

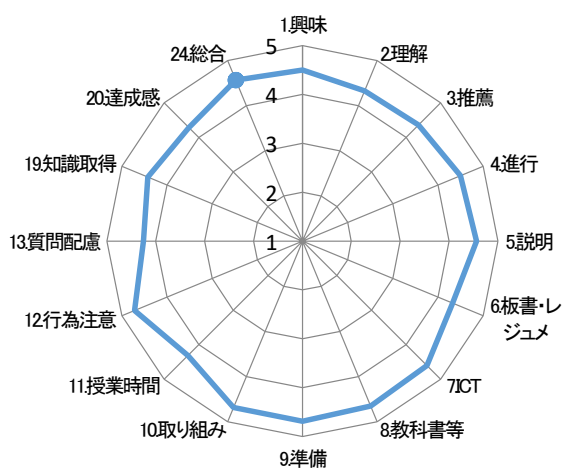
初学者にとって、医学の講義は「見たこともない漢字が並び」、「難解な専門用語が飛び交う」難解なものである。とくに最初に遭遇する解剖学は、修得すべき知識量も多い。学生が自ら努力する姿勢が必須である。また、医学は‘学際領域’の学問である。解剖学の講義内容と他教科の内容を‘横断的に’結び付けるのは、学生自身である。さらに医学のみならず、さまざまな分野の知識も要求される。アンケート結果から、多くの学生が努力していることが理解できる。解剖学等の基礎医学は、次年度以降の臨床医学の理解において必須である。自ら学ぶ姿勢を、さらに磨いて欲しい。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「練習問題の答えが欲しい」、「非常勤講師であるため質問時間がとれない」について、講義後に質問時間は‘十二分に’取っている。かつ、振り返りシートに質問欄がある。正解を覚えるのではなく、学生自らが考えて問題解決する姿勢が必須である。その上で、疑問点は講義後に、あるいは振り返りシートを利用して質問するべきである。

◆今後の改善に向けて

「ホワイトボード前の電気を付けて欲しい」については、‘次年度から’配慮する。ただし、全講義終了後のアンケートで指摘されても、当該年度に対応できない。また、講義室の設備に関することであるため、非常勤講師だけでは対応できない。大学側と相談の上、‘次年度から’対応する。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
評価点)

科目名

19 解剖学実習（1年）

担当教員

山田・外倉・木山・木村・松村・清水・渡邊・廣渡・齊藤・清島

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

36 名

◆集計データ結果について

総合4.83であり、概ね良い評価であったと思われる。目的などを意識し、熱心に取り組んでいる学生が多数みられたことは良かった。集計で良かった点については、今後も継続して実践していきたい。

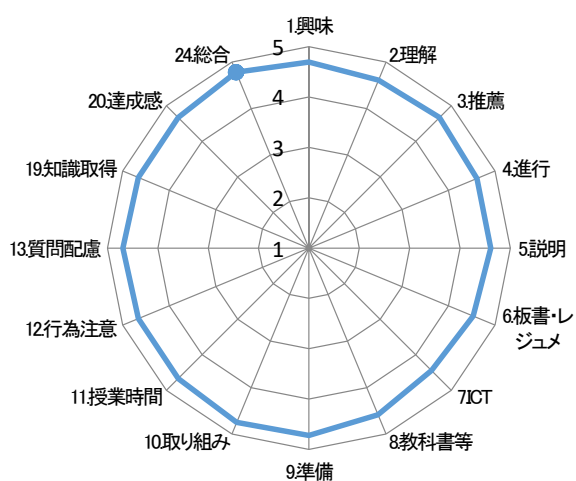
しかし、授業到達目標やDPとの関連性については知らなかった、達成できなかったという学生が三分の一程度みられた。各授業の冒頭で授業到達目標について説明する時間を設けていたが、今後は授業の終わりに授業到達目標なども振り返る時間を設け、実施していく必要性を感じた。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

模型だけでなく、重要なポイントをまとめたプリントを活用して授業を実施した。学生の意見としては骨や筋、神経、血管などの位置や形状を理解しやすかったとの意見が多くあった。そのため、今後もプリントなどの参考資料を活用して、より人体の構造を理解できる工夫をしていきたい。

◆今後の改善に向けて

今後も骨などの3次元的な捉え方について学生が理解していけるよう教示法を工夫していく。また、学生が質問しやすい環境やツールの整備を図っていく。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
 19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
 評点)

科目名

20 解剖学実習（2年）

担当教員

木山・木村・山田・松村・渡邊・清水・外倉・廣渡・松田・清島

専攻・配当年次

PT・OT 2年

回答者数

27 名

◆集計データ結果について

総合4.89であり、概ね良い評価であったと思われる。目的などを意識し、熱心に取り組んでいる学生が多数みられたことは良かった。

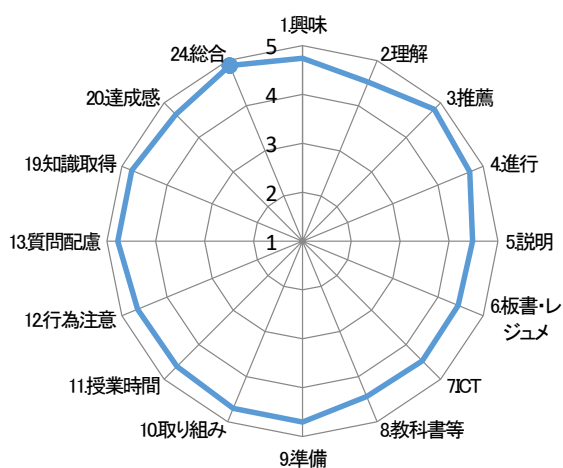
授業到達目標やDPとの関連性についても多数の学生が到達できた・知っていたという結果であった。今後も、実習前のガイダンスや授業の冒頭などで授業到達目標について説明する時間を十分設けていき、授業到達目標などを意識して取り組むことができる工夫をしていきたい。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

解剖学実習の2年次には、集中講義形式で解剖遺体の見学を行っている。学生の自由記載では、見学を通じて理解を深めるだけでなく、解剖学実習の授業到達目標の一つでもある人の命を預かる職域に就く者としての心構えと態度、積極性を感じられる内容があった。今後も、学生が熱心に取り組み、理解が深まるような取り組みを継続していきたい。

◆今後の改善に向けて

解剖学実習に参加することで、構造を実際に三次元的に理解し、構造の重さ、硬さなどを体験することやレポート課題などによって知識として身に付くことに繋がっていると思われる。しかし、個々の学生がどの程度理解して、授業到達目標を達成しているのか十分評価し、把握できていない点もあるため、実習後の取り組みを検討していきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評価点)

科目名

21 生理学 I

担当教員

宮津 真寿美

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

68 名

◆集計データ結果について

総合点が4.3点だった。4点以下だった項目が、理解3.8点、推薦3.9点だった。

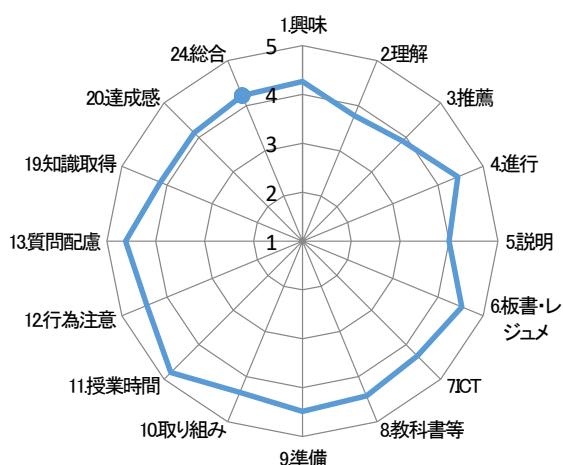
◆学生の自由記載の内容を検討した結果

良かった点として、「分かりやすかった」「質問時間があり、質問しやすかった」「スライド動画を何度も見ることができ、繰り返し学習できた」「復習する時間があり、知識の定着ができた」「予習課題があり、それによって理解度が全然違うことがわかった」「他の人の質問を共有でき、気づきのきっかけになった」「予習復習が確実にできた」「自分のペースで勉強できる」などの意見がある。

悪かった点として、「対面の方がよい」「音声聞きづらいところがあった」「復習の量が多い」「質問しづらい」などがあった。

◆今後の改善に向けて

PT・OT合同授業だったため、コロナ感染拡大対策として、オンラインで授業を行った。オンライン授業であっても、予習・復習を促すために、授業前に教科書を読んで、フォームで学習ポイントのいくつかを解答してもらったり、復習ノート提出を課したりした。また、授業のスライドは動画にして、授業中だけでなく、1週間何度も視聴できるようにした。授業中に、全員のGoogle Meet内で質問を受けつけ、解説したり、個別でもMeetで質問時間を設けた。自由記載で、「復習の量が多い」「質問しづらい」という意見があり、学生によってはそう感じる学生がいるようだが、多数の学生は、予習・復習を行い、質問することで、知識が促進し定着したと思っており、なんらかの形で、予習・復習を課題にすると良いと思った。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
評価点)

科目名

22 生理学Ⅱ

担当教員

宮津 真寿美

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

59 名

◆集計データ結果について

総合点4.4点で、項目別でもすべて4.0以上であった。

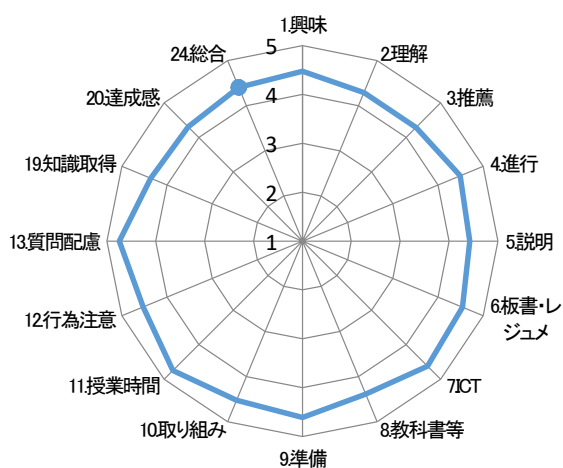
◆学生の自由記載の内容を検討した結果

良かった点として、「分かりやすかった」「スライド動画を、止めながら、何度も見れるのがよかった」「質問時間を授業時間中にとってくれるのがよかった」「予習してから授業を受けるので理解がしやすい」「復習ノートが役に立った」などの記載があった。

悪かった点として、「たまに聞き取りにくい時があった」という意見があった。

◆今後の改善に向けて

生理学Ⅰと同じ形式で授業をした。オンライン授業であっても、理解が定着するよう、予習→授業→復習を促すよう課題を出している。生理学Ⅰであがった意見で、「課題が多い」「対面の方が良い」という意見は生理学Ⅱではなかった。学生が、勉強方法に慣れてきているのかもしれない。「たまに聞き取りにくい時があった」という意見があったが、その場で言うて欲しかった。授業中に、学生に確認することにする。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
評価点)

科目名

23 生理学実習

担当教員

宮津・齊藤・外倉・藤本・加藤

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

38 名

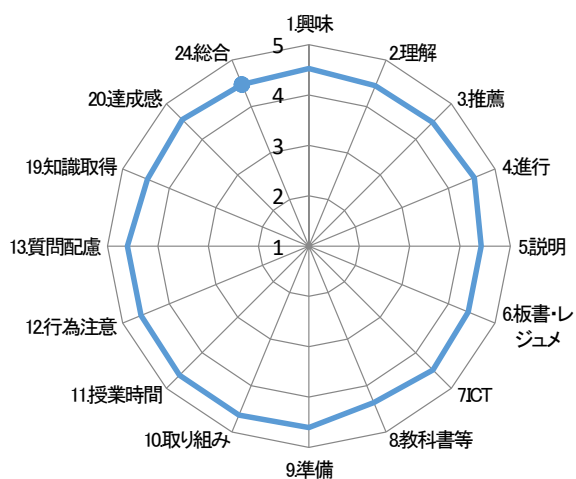
◆集計データ結果について

各項目もすべて4以上で総合点が4.5であり、学生からの評価は良好だった。ただし、受講生66名中、回答者が38名だった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

グループで予習・復習し、学習したことに対して、意義を感じている学生が多かった。「生理学の授業で学んだ知識を使って考えたので、理解が深まった」、「自分たちで調べて、考えて、まとめるということを通して、考えることに対する学びがあった」という回答もある。また、教員の解説やアドバイスがよかったという意見がある。

グループ学習のデメリットとして、グループ内でもめ事があり、嫌な思いをしたとか、男女比を調整してほしいという意見があった。また、一件だけだが、レポートの作成が大変だったという意見がある。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
評点)

◆今後の改善に向けて

生理学実習では、生理学で学修した知識を実習によって再確認し、実習結果を解釈・考察し、これらを通して、正常な人体の構造や機能について改めて理解し、説明できることを目標としている。その目標に対して、学生は概ね出来たと感じている。

グループ内のトラブルを教員側からどう改善するのがいいのかわからないが、チーム医療の中で様々な人と協力し働くことを考えると、それも一つの学びなのではないかと考える。来年度に向けて、できるだけ授業時間内でレポート作成を行うように促し、教員がアドバイスできるようにする予定である。

科目名

24 運動学総論

担当教員

廣渡 洋史

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

64 名

◆集計データ結果について

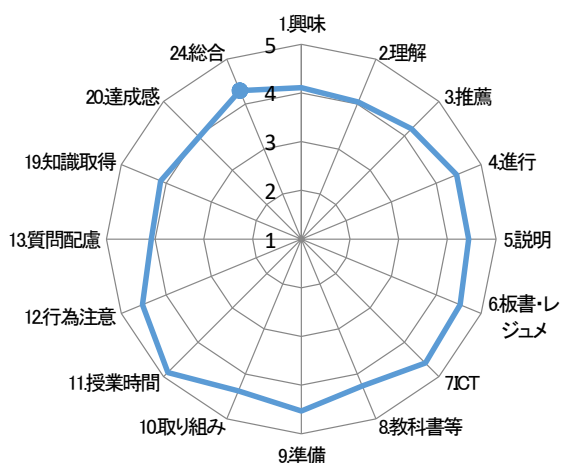
概ね4以上の結果であったので安心している。その中でも、低値である質問配慮、達成感、興味、理解については、少しでも改善できればよいと思う。質問配慮の低値の原因は、なかなか授業中に挙手を見つけれなかったことだと思うので、今後はそれを念頭に授業を進めていきたい。達成感、興味、理解についての要因は、計算等があること、高校までの苦手意識者が多かったことなどがあると思うので、じっくり説明することを心掛けていきたいと思う。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

概ね授業の適度なスピード、適切な資料の提供という点において良かったように見受けられた。ただし、一部の挙手などの見落としがあるという声があるので、これは反省すべきかと思っている。オンラインでの授業で、多くの資料を用意していること、書画カメラの準備など多くを操作することの弊害もしくは私個人の操作能力も一因かと思っているが、改善していく。また、休憩などモチベーションの維持に寄与している部分も多々あるようなので、良いところはそのまま継続していく。

◆今後の改善に向けて

先にも述べた通り、オンライン上で各資料の共有のオンオフや書画カメラ、画像描画機能等の操作に不慣れな部分があり、質問挙手に気がつきにくいことを学生諸君にも理解してもらいたい。少しずつ慣れていくつもりであるが、最初にお伝えしたとおり、挙手だけが質問方法ではなく、口頭で知らせることは禁止していないのでそれも活用して欲しい。その辺の説明は次回以降もしていこうと思う。また、双方向は大いに結構なので、ちょっとした間違いは学生からも教えてもらえるよう伝えていきたいと思う。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
評価点)

科目名

25 運動学 I

担当教員

渡邊 豊明

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

57 名

◆集計データ結果について

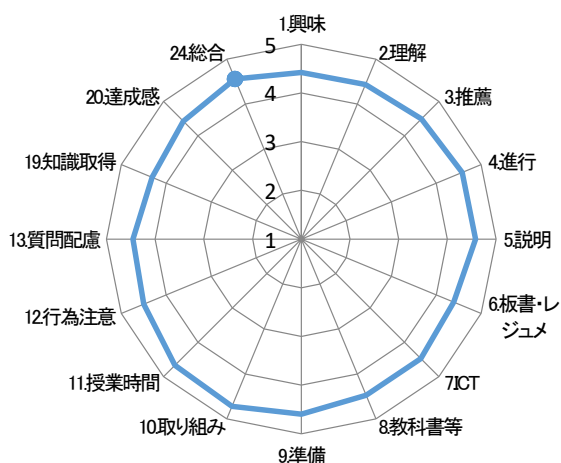
総合評価は4.5、平均は4.4～4.6と高い評価であった。予習を行った学生は半分程度であったが、復習に1～2時間と時間をかける人が多く存在した。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

教室が縦長のため、後方の席でスライドが見にくいという意見があった。中間にサブディスプレイを用意していたが、それでも見にくいフォントの文字があったようである。今後は、席替えをしたり、座席を自由にするような工夫、適時、字が見にくくないか確認するように授業を進めていきたい。

◆今後の改善に向けて

本科目では、興味を惹きやすくするため、図や動画を用いている。また、集中力を高めるため、中間に休憩を取り入れている。授業の理解度を深めるため、小テストを取り入れ確認を行ってきた。これらは評価が高いため、継続していきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
 19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
 評価点)

科目名

26 運動学Ⅱ

担当教員

濱田 光佑・臼井 晴信

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

48 名

◆集計データ結果について

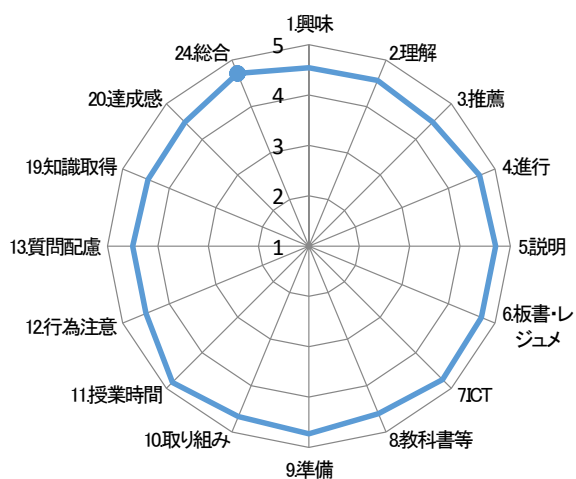
集計データの結果は、全項目において4.5以上と比較的に高い評価を得た。特に授業では、教員からの一方的な講義とならないように、小グループにて骨模型等を使用し、学生間で創意工夫、体験する時間をとるように徹底した。また、集中力が途切れないように小まめに休憩を挟み、学生間で理解度を確認、共有する時間を設けた。上記対応は学生の理解度の向上に一定の効果があったと評価された。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

一方的な講義ではなく、学生個人もしくは小グループでの作業を取り入れることが、学生の理解を深める修学に繋がったと考える。レポート課題に関しても、事前に評価基準をルーブリック評価で説明していたため、評価基準が曖昧等の指摘は無く、比較的に公平性が高い評価に繋がったと考えられる。今後も同時期に開講している科目との課題量等を考慮しながら、学生に過度の負担がかからず、最大限に学習効果を高められるように講義に取り組んでいく。

◆今後の改善に向けて

全体の傾向としては、比較的に高い評価を得たが、学生個人においては修学度の差が生じている。今後は学生に本科目への興味関心を高めるだけでなく、更なる理解を深める為に、学生間の知識の共有や担当教員への質問、フィードバック等の機会を重視していきたい。また、全体の傾向として授業到達目標やDPとの関連性に関する認識が十分理解されていない可能性が示唆されている。この点において、初期のオリエンテーションのみならず、定期的な啓発や意識づけを行い、学生の理解を深めていく必要がある。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階 評点)

科目名

27 運動学実習 (PT)

担当教員

松村 仁実・山田 南欧美・濱田 光佑

専攻・配当年次

PT

1年

回答者数

24 名

◆集計データ結果について

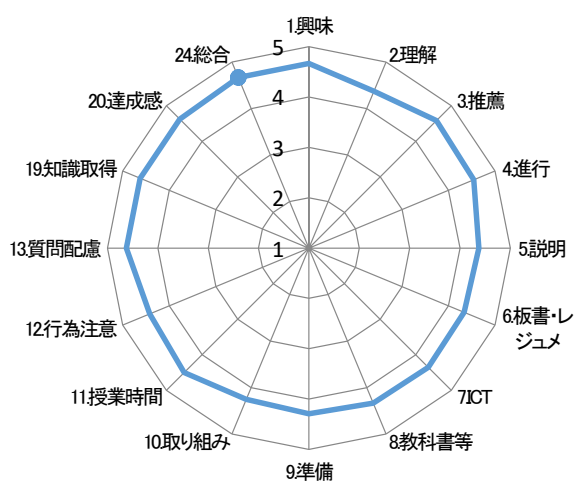
集計結果からは、全ての項目において4.0以上と比較的に高い評価を得た。本科目は小グループにて実習を行い、その実習に対してレポートを作成する事を課していた。集計データからは、多くの学生は各グループにて役割分担を行い、積極的に取り組んだと評価できる。一方で、個人やグループによって復習時間に大きな差が生じており、個人によっては過度の負担となっている可能性がある。この点は、担当教員が学生の修学度を確認しつつ、課題に対する更なる助言や提示方法等を調整する必要がある。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

自由記載の結果からは、各学生が主体的に取り組むことで学修の質が高まったとの記載が多くあった。一方で、本科目では多くの実験機器を使用した為、その操作方法が難しかったとの意見もあった。初めて使用する機器である為、操作方法等を修得するのは一定の時間を要する事が予測されるが、各学生とも操作方法やその機器の使用意義を丁寧に指導していく必要がある。

◆今後の改善に向けて

今後も理学療法士として必要不可欠な機器の使用
方法、目的、解釈等を学生自身の力で学修し、理解
を深められるように講義を継続していく。レポート課題
に関しては学生の過度の負担とならないように、抽象
的な指摘や指導は避け、具体的な課題や修正点を
提示していく。また、当科目では多くの時間をグル
ープ学修に充てているため、グループ内の修学度に差
がつく懸念がある。その点に関しても、各実験におけ
る役割分担等を工夫し対応していきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
評点)

科目名

28 運動学実習 (OT)

担当教員

外倉 由之

専攻・配当年次

OT

1年

回答者数

12 名

◆集計データ結果について

総合4.83であり、概ね良い評価であったと思われる。目的などを意識し、熱心に取り組んでいる学生が多数みられたことは良かった。集計で良かった点については、今後も継続して実践していきたい。

しかし、予習・復習をしていないと回答した学生がみられることや質問の少なさもあった。そのため、各授業で予習・復習に取り組みやすい課題や説明する時間を設けていく必要性を感じた。

授業到達目標やDPとの関連性を知っていた/達成できた学生が多くみられたため、今後も授業毎に到達目標を意識できるような授業を実践していきたい。

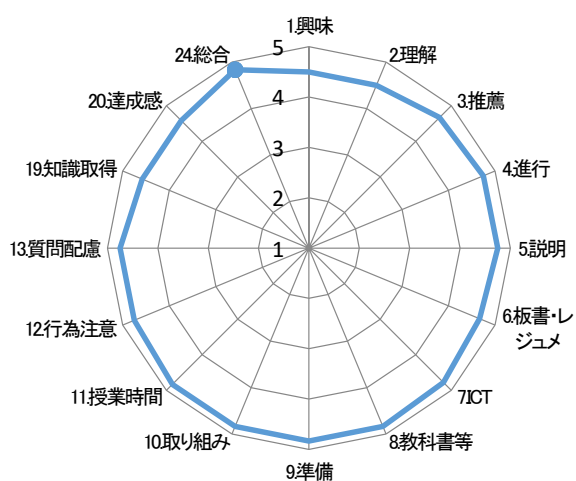
◆学生の自由記載の内容を検討した結果

グループワークで自主的に考える時間を設けたことにより、「グループで考える時間が多かったため、知識をより深く定着させることができた」「各課題をグループで考えながら授業をすることができ、記憶に残りやすい授業でした」といった肯定的なコメントが多くあった。

本科目は作業療法士にとって重要な概念である日常生活活動の一部を運動学的に分析し、運動学で学修した肢体の構造、人間の動きに関して理解を深める必要があるため、教科書だけでなく、補足的なプリントや動画を紹介し、体験することで学生が興味を持つことに繋がったと思われる。また、随時補足プリントや動画を用いたことが理解のしやすさに反映されていると思われるため、今後も活用していきたい。

◆今後の改善に向けて

今後も、学生が主体的に取り組める形での講義を継続していきたい。しかし、学生の予習・復習時間が不十分であったため、必要な時間が確保できるような課題設定や説明をしていき、より知識が定着できるよう工夫をしていきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
評点)

◆集計データ結果について

リハビリテーションを実施する上で、出生前や新生児期の環境はその後の発達への影響は大きく、この時期の理解を深めるようある程度重点を置いて講義を進めた。内容は、生理学的発達と精神・心理学的発達を二本柱とし、それぞれの発達過程にみられる代表的な疾患を提示、発達過程と疾病成立との関連性を理解しやすい工夫した。

また、人の発達段階に対してより広い視点でアプローチできるよう、各発達段階の成育ポイントを多数のイラストや写真（レントゲンなど画像を含む）、図、データなどを活用してプリント作成し、講義に用いた。

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響が大きい中で、できる限り対面授業を試み学生との接触を図ってきた。充分とれたとは言いが、学生のアンケート結果からは予想以上に「理解しやすかった」との反響があり、ある程度の成果が得られたのではと考えている。

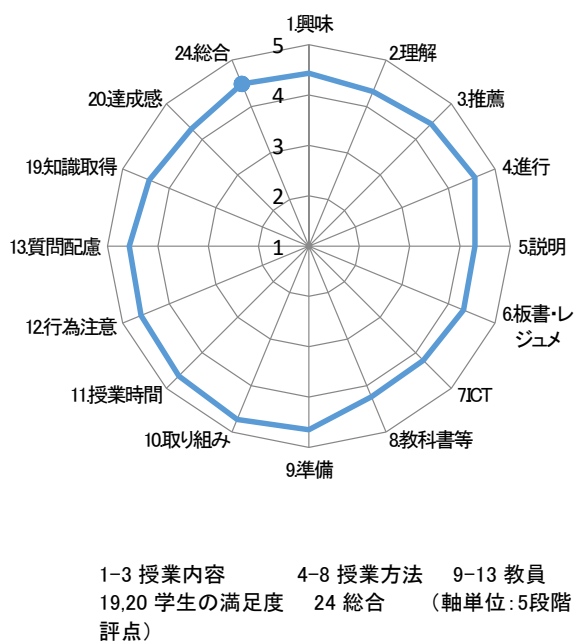
◆学生の自由記載の内容を検討した結果

例年、学生から「プリント枚数が多すぎる」「どこがポイントか分かりづらい」などの感想を受ける。そのため、授業開始時に復習時間を設け、必要なポイントを繰り返し明示している。講義中の態度では居眠りなど目に付く場面もあったが、思いのほか真剣に傾聴する学生が多く、スムーズに授業進行できた。授業後の質問も適切なものが多く、以後の授業のヒントとなることも少なくなかった。一方で「プリントは見やすい」「理解しやすい」との評価もあり、今後とも様々に工夫して続けていきたい。

授業が単調に流れないよう、適宜ボードへの書き込みも併用した。やや走り書き気味になるのか、学生から「読みづらい」との指摘がある。しかし、時間の制約もあり、また説明しながらの書き入れであり、学生諸君にも奮起してもらいたい気持ちもある。

◆今後の改善に向けて

今年度もコロナ禍の講義であり、学生にとってもあれこれと不便、不自由さを感じたことと思う。幸いなことに、コロナ制約は緩和されつつあり、今後は学生との自発的会話の機会を多くとるなど、より自由で闊達な授業を志して行くが、逆に締りのないだらけた内容に陥らないよう、学生共々気持ちを引き締め、学生の将来に少しでも役立ち、我が国の礎となる人材育成につながるよう努力を続けたい。



◆集計データ結果について

授業内容、授業方法、学生の満足度は概ね良好な結果であった。

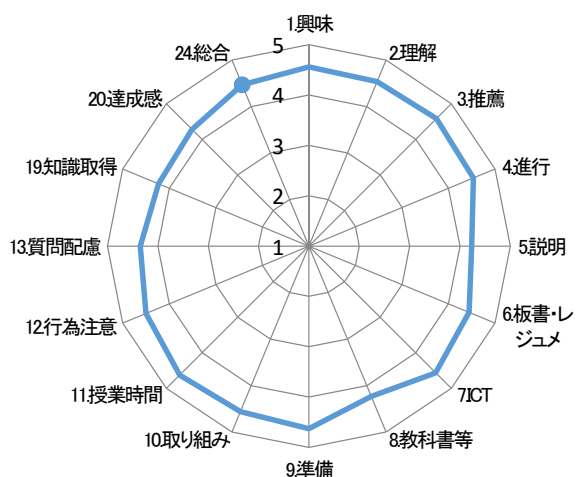
すべての項目中、最大(4.6)は、授業方法の時間や準備についての項目であった。取り組みや授業時間については、今後も継続して工夫していく。最小を示した項目(4.2)は、教科書と説明の項目であったので、教科書使用に関しては、さらにわかりやすいよう工夫を行う。

自由記述の中で、「わかりやすかった」、「体験からの講義内容は興味を持てた」などの+の要因が多く記載されていたことから、前項目の結果とはやや矛盾が生じているが、授業の理解度は概ね良好と考えられる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

全体の流れを初回に提示したこと、質問しやすい雰囲気など、授業の進め方については、概ね良好であったと考えられる。

「具体例や経験を用いた講義でわかりやすかった」、「疾病の内容とリンクできた」などの感想を持つ学生がいたことは、授業レベルが学生のニーズに合致していたと考えられる。今後、この授業が引き金になり、関連分野の学習が進むことを期待している。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
評点)

◆今後の改善に向けて

授業を聞きながら、自分に必要なことを瞬時に取捨選択して素早くメモできる能力が身につくことを目標とし、その結果、さらに関心が持て、予習・復習の時間や質問が増えるような授業の組み立てをする。

単に知識を身に付けるだけでなく、現場で知識を組み合わせて薬物治療の方針を考えられるよう、さらに、考え方の幅や興味が広がるような授業の組み立てをする。

解剖学や生理学など、関連科目と結びつけ、さらに理解が深まるよう工夫する。

◆集計データ結果について

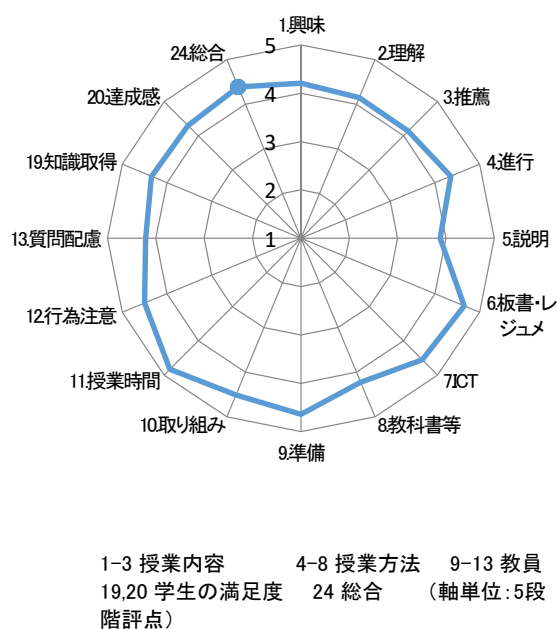
教員に対する評価では、レーダーチャートに示されている通り、16項目中15項目で4.1以上、1項目が3.87であった。最低の評価(3.87)は、「5. 授業中、教員の説明は、明瞭で聞き取りやすいものでしたか」であった。自由記載の中でネガティブなコメントで記載されている通り、「少し声が聞き取りにくい」であった。マスクの影響もあると思うが、声の聞き取りにくさは改善する必要があると思った。「6. 板書の文字の大きさ、書き方、レジュメ(配布資料)の提示は効果的でしたか」および「11. 授業の開始時間、終了時間をきちんと守っていましたか」の項目は4.6以上と評価は高かった。公衆衛生学は授業内容が学生にとってあまり関心の持てるものではないため、時に触れて関連する臨床での事例を紹介したことは良かったと思う。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

最初の講義で自己紹介の意味も込めて自分の医療従事者としての人生のやりがいについて話をしたが、これが好評であった。また資料を毎回作成したが、それについても評価は高かった。否定的なコメントは11.7%(8/67)にみられたが、その3割は質問がしにくいとするものだった。そのほかの否定的なコメントはレポートの問題、テスト問題、早口など一つひとつ異なる意見であった。肯定的なコメントとしては、①資料のプリントが分かりやすいこと、②公衆衛生に関連した内容について関連した具体的な臨床の話を取り入れたこと、③毎回、振り返りのレポート提出を要求したことなどが挙げられる。多くの意見は理解しやすかった、分かりやすかった等であった。

◆今後の改善に向けて

短大の学生に対して、公衆衛生学について半年間にわたって週1回全7回の講義を担当したのは2回目になる。本一冊分の公衆衛生学の内容を、毎回数十ページ分の内容でスライドにまとめて講義をすることは結構大変な作業であった。今回講義で使用した教科書は「シンプル衛生公衆衛生学」であった。非常に内容が良く、最新のデータが記載されているので、本教科書を理解すればすべて理解できると考え、基本的に資料作成は全て本教科書から引用した。公衆衛生学で学ぶ内容は、学生にとっては将来医療従事者として必須となる基本的な知識であり、また国家試験でも問われる内容であるため、しっかり修得させる必要があった。しかし、公衆衛生学の内容は、学生にとっては決して興味がわく内容ではないので、それに関心を持って聴いてもらうために講義方法をいろいろ検討して行った。今回の学生からのフィードバックを大切にして、これからの授業では、学生が理解しやすく、かつ興味を持って聴けるような授業方法を取り入れていきたい。例えば、いろいろな臨床での事例やマスコミ等で取り上げられている話題を交えて話をすることなどを積極的に行っていきたい。また、自由記載のコメントにある内容については、肯定的なコメントにあるような授業を積極的に行うことを心掛け、否定的なコメントに対しては改善していきたい。評価項目の中に、カリキュラムポリシーとディプロマポリシーとの関連の質問があるが、今後はその点も考慮に入れて講義内容を検討する必要があると認識した。



◆集計データ結果について

「総合評価」は、3.70で、もっと上げる必要がある。各評価項目の中で、低く評価された項目は、「板書・レジュメ」であった。これは、学生の自由記載からみると、(PowerPointのスライドの切り替えが速く、メモをとるのが難しい)といったことなどによるものと考えられる。

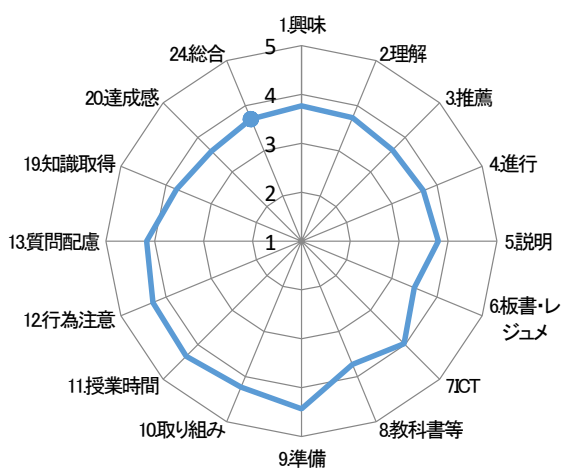
また、学習の意識に関する内容で低く評価された項目は、「質問」、「予習時間」、「復習時間」であった。「質問」については、授業内で質問時間を設定しなかったことが主因の一つともいえるかもしれない。「予習時間」と「復習時間」については、ガイダンスでシラバスに基づき説明したが、学生に十分伝達されていなかったものと推察する。

一方、比較的高く評価された項目は、「授業担当教員について」で、教員の授業への取り組み姿勢や態度であった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

改善すべき主な点は、前述のように(PowerPointのスライドの切り替えを含む授業展開の速さ)についての記載が多かったことである。

一方、良かった点は、(グループワークや心理テストなど学生が主体的に学べることは楽しかった)といったようにアクティブラーニングの成果を記載した学生も少なくなかったことである。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評価点)

◆今後の改善に向けて

学生の筆記状況を十分に確認して、PowerPointのスライドを切り替え授業展開していくように努める。

学生の意識に関する内容である「質問」、「予習時間」、「復習時間」について、「質問」では授業中に質問の時間を設けること、「予習時間」と「復習時間」については、ガイダンスや毎回の授業で、シラバスに基づき一層平易かつ具体的に説明するなどして、その内容の周知徹底を図る。また、アクティブラーニングの機会を可能な限り設け、より多くの学生が楽しみながら主体的に学習できるように配慮していく方針である。

科目名

33 内科学

担当教員

杉山 成司

専攻・配当年次

PT・OT 2年

回答者数

27 名

◆集計データ結果について

新型コロナウイルス感染症の流行中、対面授業の形式で行うことができ、学生の反応を感じながらの講義となった。学生との直接的会話はまだ不十分ではあるが、居眠りも多くはなく、受講意欲も見られるまずまずの内容になったと思われる。

コロナ感染に関連してやむなく受講できない学生もかなり出たが、事務方からの適切な応援を頂き、学生にとっても大きな支障もなく続けられたことは幸いである。集積データからも、ある程度の評価を得ることができ、大学一丸となった対策は立派に功を奏していると考ええる。

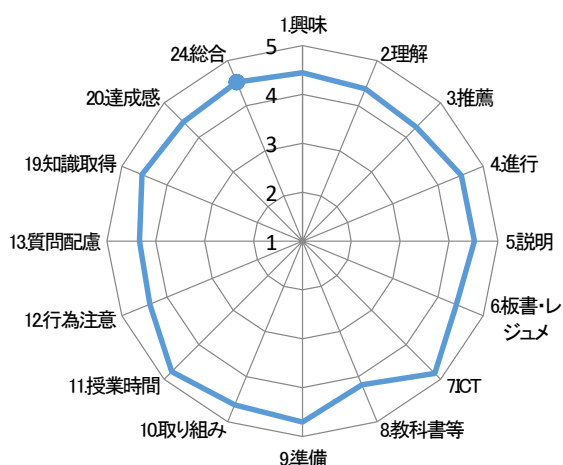
◆学生の自由記載の内容を検討した結果

講義には多数のイラストや写真、レントゲンなどの画像、図、表などを活用したプリントを作成し用いているが、学生からは思いのほか好意的な評価を得ることができ、多少は努力が報われた気分である。また、期末試験の負担を緩和する目的も含め中間テストを設けたが、これは数名の学生から受け入れられた。

本学は医療系短期大学ということもあり、試験は量的にもかなり重荷になっている。いづらかでも楽しく余裕のある充実した学生生活が送れるよう、今後とも配慮して行きたい。

◆今後の改善に向けて

今年度もコロナ禍の講義であり、学生にとってもあれこれと不便、不自由さを感じたことと思う。幸いなことに、コロナ制約は緩和されつつある。今後は学生との自発的会話の機会を多くとるなど、より自由で闊達な授業を志して行く。学生自身が医療の奥深さ、楽しさなど、ますます“人間”の存在価値に興味を持つよう、そして我が国の礎となって行くことを願い、人材育成への努力を続けたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
評価点)

科目名

34 整形外科

担当教員

種田 陽一

専攻・配当年次

PT・OT 2年

回答者数

30 名

◆集計データ結果について

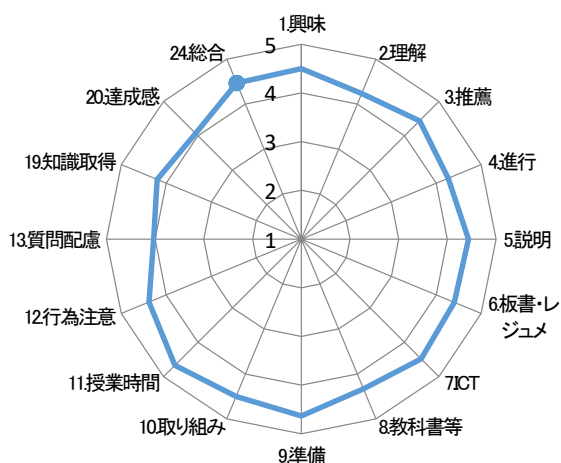
今年もオンライン講義を実施したが、昨年の評価でのスライドが見えにくい・声が聞きにくいなどの問題は見られなかった。昨年は在宅、今年は出校し教室で講義を受けていたためと思われる。またオンラインの宿命としてリアルタイムで質問ができない問題がある。講義後メールで質問をしてきた学生は、今年は皆無であったが、私の研究室に直接質問に来た学生がいた。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

昨年から絵が多い教科書に替えたところなかなか評判が良かったため、講義のスライドも写真と絵を多くしたところ、これも学生には評判が良かった。国試問題を講義の最後に提示しているが、これが良かったと書いた学生が今年も多かった。オンラインでは講義時間に余裕があるため、国試問題をゆっくりと詳細な解説を加えて行えたのが良かったのではないかとと思われる。

◆今後の改善に向けて

オンライン講義では板書ができないため、前日にMeetで講義資料(講義ノート)を送っておき、講義後に講義で使用するスライドを資料として送る方法をとった。これが復習に役に立っている様である。来年度は対面になるかオンラインになるか不明であるが、何れにしても今年度と同じ方法で講義を行いたいと考えている。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
 19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
 評価点)

科目名

35 神経症候学

担当教員

勝野 雅央・橋詰 淳・藤岡 裕介・横井 聡・山田 晋一郎・仁紫 了爾・服部 誠・伊藤 大輔

専攻・配当年次

PT・OT 2年

回答者数

25 名

◆集計データ結果について

概略良好な評価を得られたと感じている。

講義の内容について満足している一方で、「十分質問できなかった」「復習することができなかった」との評価が多かったことを踏まえ、質問しやすい環境を設定すること、また、具体的な復習課題を明確にすることなどに留意する必要があると考える。

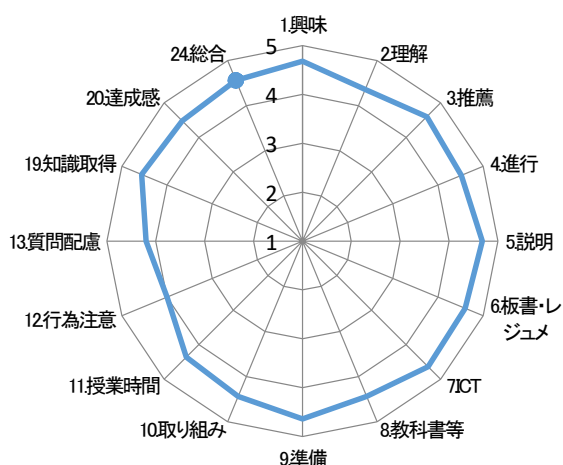
◆学生の自由記載の内容を検討した結果

出席した学生による自由記述評価を見ても、概略良好な評価を得たものとする。

多くの学生が良好な評価をしている一方で、一部に、講義の内容が難解すぎたとの感想を述べている学生がいたことを踏まえ、学生にとっても、より親しみやすい題材を取り上げながら講義を進めるなどの工夫をしていきたい。

◆今後の改善に向けて

神経症候学は、初学者にとって理解が難しく、場合によっては「聞く気を失ってしまう」分野かもしれない。動画を多く取り入れる、国家試験の問題と一緒に取り組むなど、学生の興味を刺激しながら進めていくなどの工夫をしていきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評価点)

◆集計データ結果について

新型コロナウイルス感染症の流行中、対面授業の形式で行うことができ、学生の反応を感じながらの講義となった。授業内容を掘り下げるべく学生とのコミュニケーションの機会はまだまだであったが、受講意欲はあり、まずまずの成果であったと思われる。

コロナ感染に関連してやむなく登校停止になった学生もかなり出たが、事務方からの適切な応援を頂き、学生にとっても大きな支障もなく続けられたことは幸いである。講義全般に関し、集積データからもある程度の評価を得ることができ、大学一丸となって取った対策は立派に機能していたと考える。

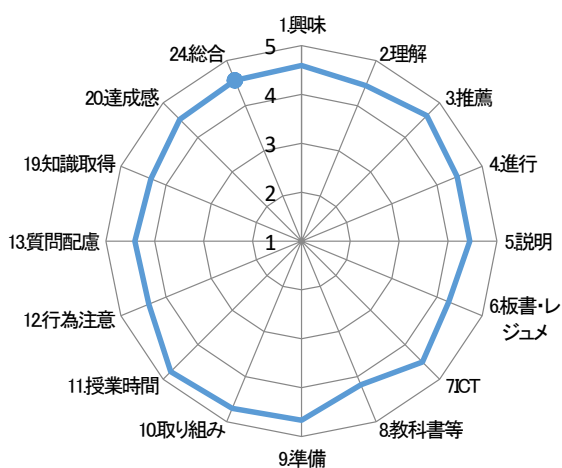
◆学生の自由記載の内容を検討した結果

講義には多数のイラストや写真、レントゲンなどの画像、図、表などを活用したプリントを作成し用いているが、学生からは結構好意的な支持を得ることができ、安堵している。内科学では、期末試験の負担軽減の目的も含め中間テストを設けており、これが学生から一定の評価を得ている。小児科学も講義量は決して少なくなく、中間テストの導入は今後の課題である。本学は医療系短期大学のこともあり、科目数が多くその試験量はかなりの重荷になっている。いくらかでも楽しく余裕のある充実した学生生活が送れるような配慮を心掛けて行きたい。

時に、授業中ボードへの書き込みで学生から「読みづらい」との指摘がある。プリント講義の単調さを補う意味合いもあり、適宜ボード書字も併用している。時間の制約などでやや走り書き気味になるくらいはあるかも知れないが、説明を加えながらの書き入れであり、学生諸君にもいささか奮起して読み解いてもらいたい気持ちである。

◆今後の改善に向けて

今年度もコロナ禍の講義であり、学生にとってもあれこれと不便、不自由さを感じたことと思う。幸いなことに、コロナ制約は緩和されつつある。今後は学生との自発的会話の機会を多くとるなど、より自由で闊達な授業を志して行く。学生自身が医療の奥深さ、楽しさなど、ますます子どもの特異な存在価値に興味を持つよう、そして我が国の礎となって行くことを願い、人材育成への努力を続けたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
評価点)

科目名

37 医療安全学・救急医学（1年）

担当教員

石川・宮津・松村・山田・横山・濱田・松田・廣渡

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

40 名

◆集計データ結果について

授業方法、授業担当教員の評価については、一部を除いて満足できる評価であったと思われる。その一部とは質問配慮で学生が質問しやすい配慮には欠けていた。スライドを用いた講義の中で、その都度質問はあるかどうかの時間を取ったつもりであったが、学生にとっては質問しづらい雰囲気を作っていたかもしれない。もう少し、時間を取って、個別に質問をした方が良かったと思われる。

また、授業に対する達成感や知識取得も評価が低いのは、内容が難しかったことも関係しているかもしれない。動画や映像を用いてなるべく視覚的に理解してもらうように試みたが、この点については学生の評価は良かったと思われる。医療の基本であるバイタルサインに重点を置いて講義を行ったが、この点についても学生の評価は高かったと思われる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

学生の自由記載については、ほぼ全学生がポジティブなもので、ネガティブなものはなかった。スライドが分かりやすい、映像が分かりやすい、資料が分かりやすい等教材に対する良い評価が多かった。

授業形態としては、毎回講義の後に振り返りのレポートを提出させたが、これが授業を振り返るうえで役に立ったとするコメントが複数見られた。

また、医療現場の生の話が良かったとか、体験談が非常に理解しやすかった等のコメントが多かった。

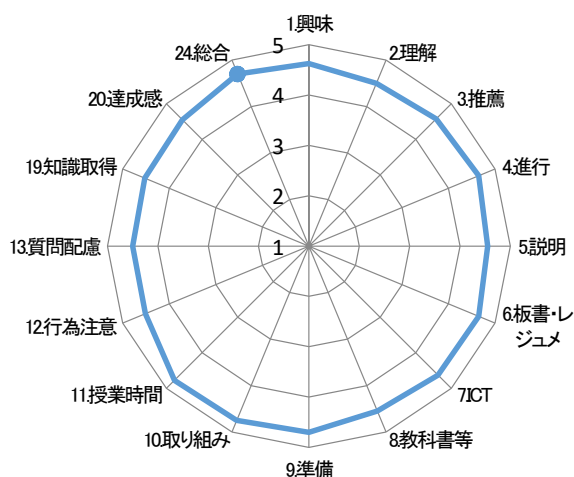
◆今後の改善に向けて

資料等は好評であったので継続して取り入れていきたい。

また、医療現場の生の声を聴けたのが良かったというコメントに対して、今後も現場の話をもっと取り入れて授業を進めたい。

また、振り返りのためのレポートを毎回実施したが、これも理解するために良かったとする賛成意見が多く見られたので、継続していきたい。

バイタルサインの重要性が強調されるが、授業の中で実際の測定は難しく、総合演習の中で取り入れていただくこととした。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
評点)

科目名

38 医療安全学・救急医学（2年）

担当教員

石川・宮津・松村・山田・横山・濱田・松田・廣渡

専攻・配当年次

PT・OT 2年

回答者数

12 名

◆集計データ結果について

授業方法、授業担当教員の評価については全項目4.5以上であり概ね満足していたと思われる。特に取り組み、準備については5.0で満足度は高かったと思われる。実技での講義であったため、予習・復習の時間は誰もほとんどとっていないが、内容を理解する上では問題はないと思われる。

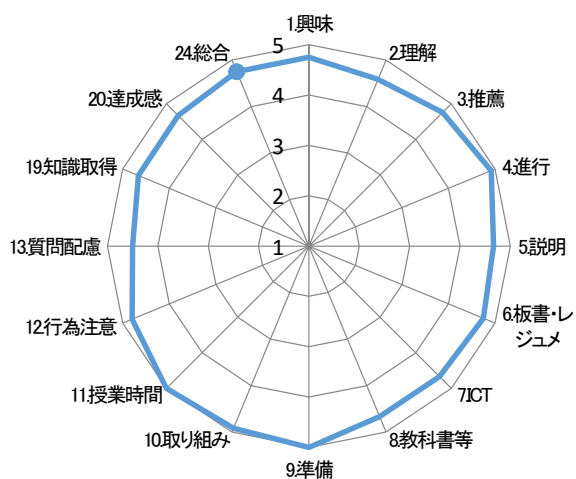
目標等を意識して熱心に取り組んだとする割合が高く、みな、実技の取り組みは良かったと思われる。質問していないとする学生が半数居るが、理解できていたのか、あるいは質問がしにくいのか判断に迷うところがあった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

学生の自由記載については、何度も実践できてよかった、赤十字のスタッフの実技が良かった、座学だけでなく実技を経験することで、実際の現場を想定できてよかったとする良い評価があった。

◆今後の改善に向けて

赤十字のスタッフによる実技は実践的で分かりやすいために、今後も取り入れていきたい。座学だけでなく、実技を取り入れることで、より実践的な取り組みができるため、今後も実技は取り入れていきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
 19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
 評点)

科目名

39 画像診断学

担当教員

種田 陽一

専攻・配当年次

PT・OT 2年

回答者数

12 名

◆集計データ結果について

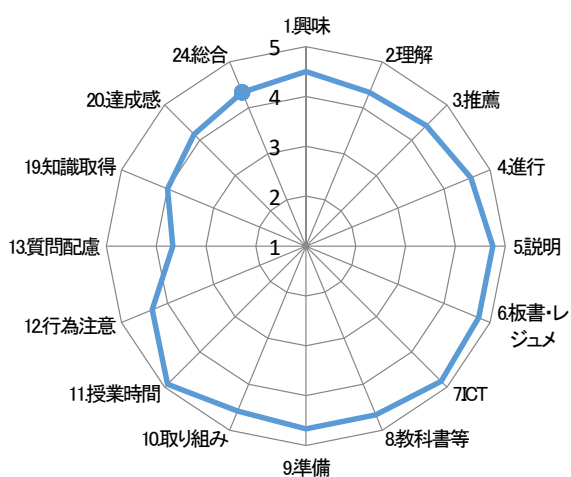
回答者が12名と少なく、どれだけ正確に反映しているかは不明であるが、概ね予想通りの結果である。「学生が質問、意見を述べられる環境」の評価が低い、講義の終わりに質問の時間を設けたが質問した学生は一人もいなかった。評価と現実にはギャップがある。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

昨年はオンラインだったため、各自のパソコンで画像を見ることができ、かなり良い評価だった。今回は対面での講義であり、スライドを使い部屋を暗くするため、教科書や講義ノートが見つらなかったとの記載があった。画像診断の講義はオンラインの方が良いと思われる。講義後に、講義で使用したスライドをPDFにして学生に送っているが、画像のファイルが大きく、ファイルが開けなかった学生がいるため改善する。

◆今後の改善に向けて

来年度はオンラインで行うことが決定している。講義後のスライドは、ファイルを少し小さくして送る予定である。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
 19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
 評点)

科目名

40 健康科学

担当教員

鳥居 昭久・高橋 圭

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

40 名

◆集計データ結果について

全体にバランス良く、まずまずの結果であったと考えられる。

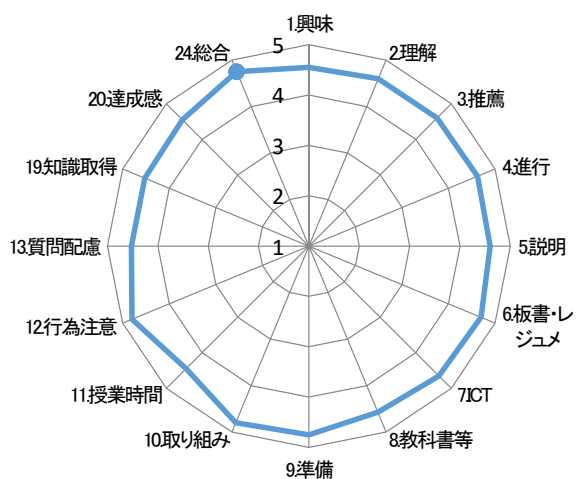
毎度のことながら、予習・復習時間が少ないのが気になる。この講義は、学習ノート作成を義務付けているので、ある程度の復習はしていると思われるが、そこから知識を深められると実力は上がる。その辺りを、次年度には促したい。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

概ね良好な回答が多かった。学生の学修意欲を損ねないような講義を継続したいと考える。

◆今後の改善に向けて

予習、復習の取り組みを促すような仕組みを検討する。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
評点)

◆集計データ結果について

総合評価が4.3であり概ね良好な結果であったと考える。講義の準備、意欲・熱意、授業時間、授業を妨げる行為への対応については中でも高評価であった。一方で、達成感、理解、進行、推薦についてはやや低めであった。目標を意識して取り組んだ学生が約60%、熱心に取り組んだ学生が約85%、予習・復習に取り組まなかった学生が約15%であった。これらのことから、多くの学生が予習・復習をし、熱心に授業に取り組む姿勢であったことが窺えた。毎回、授業の数日前に目標および予習に関する内容をGoogle Classroomにて配信したことがこの結果に影響したと思われる。理解、達成感については、小テスト結果で十分な成果に結びつかなかった者も少なからずいたことから低くなったと推察する。

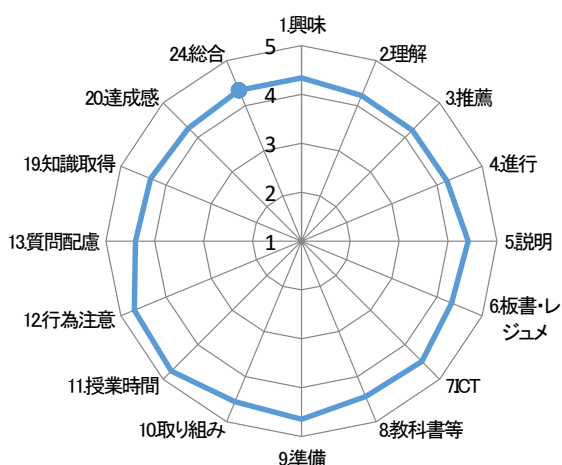
◆学生の自由記載の内容を検討した結果

約半数が「特になし」との回答であった。記載内容のうち肯定的意見として、グループワークがあったこと、授業数日前に授業目標を配信したこと、教員インタビューが挙げられていた。授業ではテーマに基づきグループでの意見共有やディスカッション、学んだことのアウトプットを行った。これらを通じて、他者の意見に触れ、視点の広がり等に繋がったことや学んだことの整理に役立ったようである。単元ごとに目標と予習内容を配信したことについては、上記の目標を意識した取り組みにも繋がり、狙いとする学習行動に繋がったと考える。

授業進行について、ノートへの記載を待ってくれたという意見と速かったという意見に分かれたが、スライドはテキストをまとめたものであり、書き写す必要性は高くないため、全体の進行上ある程度のところで次に進めたことが理由である。

◆今後の改善に向けて

全般的に概ね良好であったため、基本的には継続していく。小テストは開講期間の中間期と最終回の2回実施したが、もう少し回数を増やし、スモールステップにて知識確認をすることを検討したい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
評価点)

科目名

42 リハビリテーション社会論（1年）

担当教員

石川・木村・横山・松村・宮津・山田・濱田・松田・廣渡

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

38 名

◆集計データ結果について

横山:レーダーチャートはすべて4点台であり概ね良い授業であったと考えている。授業の到達目標に意識して取り組んでいたようで良かったが、ディプロマポリシーとの関連などについて知らずにいるようでもあり、残念ではある。

木村:本講義の評価からみて、大きな問題はなかったと判断する。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

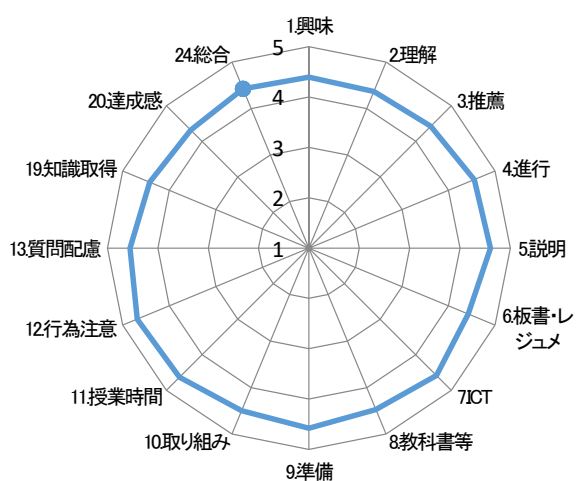
横山:特になし、の記載が概ねポジティブな内容のため、今後も継続していくが、何のための学習かについて今一度考えて欲しいと思う。

木村:大きく3つに分けることができる科目であるため、どの分野に関する記載であるかが明確ではないが、いずれもポジティブな表現であり、また今後の学びに繋がる様な感想も見られたため、良かったと思う。

◆今後の改善に向けて

横山:初回授業時にシラバスを配布して説明してきたが、今一度説明の仕方を工夫し、学習後に学生自身がどのように変容したのかを説明できるようにしたいと思う。

木村:講義の最初や時々、本講義の内容を学習する意味など、できるだけ伝える努力はしたが、まだ十分に伝わってない可能性がみえた。テストに合格するためにただ覚えるのではなく、学ぶ必要性を理解した上で学習することで、自分の知識や考えがより広がるため、そこはさらに工夫していきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
評点)

科目名

43 リハビリテーション社会論（2年）

担当教員

石川・宮津・松村・山田・横山・濱田・松田・廣渡

専攻・配当年次

PT・OT 2年

回答者数

13 名

◆集計データ結果について

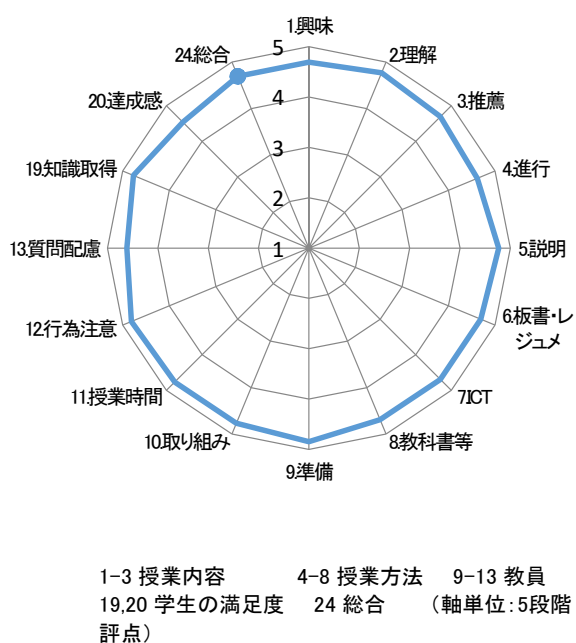
授業方法、授業担当教員の評価については全項目4.5以上であり概ね満足していたと思われる。実技での講義であったため、予習・復習の時間は誰もほとんどとっていないが、内容を理解する上では問題はないと思われる。目標等を意識して熱心に取り組んだとする割合が高く、みな、実技の取り組みは良かったと思われる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

学生の自由記載については、災害医療について、実践的かつ指導者の実績があり、知識として経験として、学修することができた。今後活かされると考えられるため、受講できて本当に良かったという意見があった。災害医療や防災教育には、多くの学生が関心を示していると思われる。赤十字のスタッフの実技が良かった、座学だけでなく実技を経験することで、実際の現場を想定できてよかったとする良い評価があった。

◆今後の改善に向けて

リハスタッフにとって災害医療や防災教育は必須であると思われるため、今後もこの授業は継続していきたい。赤十字のスタッフによる実技は実践的で分かりやすいために、今後も取り入れていきたい。座学だけでなく、実技を取り入れることで、より実践的な取り組みができるため、今後も実技は取り入れていきたい。



科目名

44 社会福祉学

担当教員

伊藤 正明

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

60 名

◆集計データ結果について

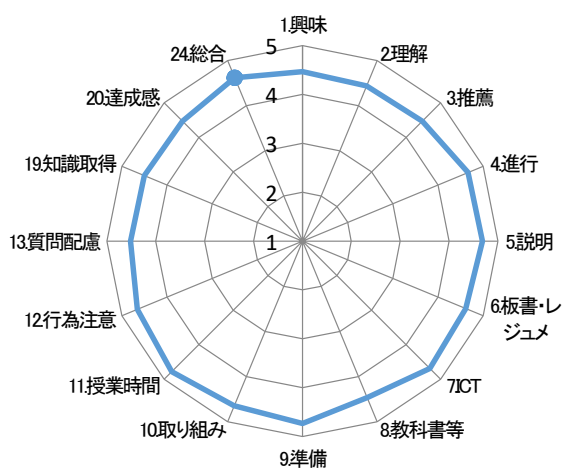
「社会福祉学」を担当し5年目、今年度は前期金曜開講(PT/OT別クラス)だった。
集計されたデータの「総合評価」は「4.61」であり、昨年度までと比較し高くなっている。各質問への回答のうち、最も高いのは「11. 授業の開始時間、終了時間をきちんと守っていましたか」(4.78)で、最も低いのは「2. 授業の内容は、あなたにとって理解しやすいものでしたか」(4.43)という結果だった。
授業時間内だけでなく、予習・復習への取り組み課題により理解が進むよう改善していこうと思う。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

グループワークおよび映像教材の活用が有効であったと考える。どちらもレポーターを増やしつつ、質問や感想から、さらにフィードバックしていけるよう試行していく。

◆今後の改善に向けて

今年度の学生からの授業評価結果と自由記述から、継続していくべき点と達成課題が明確になった。よりメリハリのある時間と場になるよう取り組んでいく。特に授業理解が深まるような予習・復習の課題設定を工夫していく。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評価点)

科目名

45 障がい者スポーツ概論

担当教員

鳥居 昭久・加藤 真弓

専攻・配当年次

PT・OT 2年

回答者数

25 名

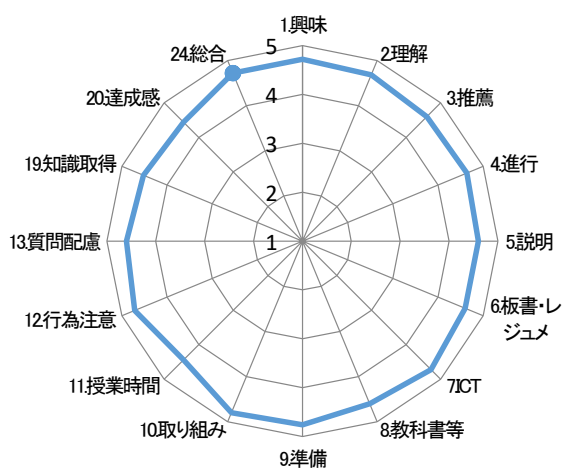
◆集計データ結果について

概ね、高評価でありバランスのよい結果であると思う。目標の認識や自己学習、質問などがやや物足りない印象を受ける。パラスポーツの世界は、色々な工夫ができる世界であり、もっともっと疑問を持って取り組んでくれると、より学習は深まると思う。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

回答してくれた学生の多くが、パラスポーツに興味を持ってくれたと思う。これが、この講義の体験で終わること無く、これからの学びや、卒業後の臨床における患者さんの長期ゴール設定までに繋がることを大いに期待したい。知識として知っているだけでは意味がなく、対象となる患者さんや家族に情報を提供し、そしてその人たちが生活の中で自然にスポーツに取り組める環境を作るのもPTやOTの大切な役割である。この講義を通して、その辺りの展開があることを期待したい。

◆今後の改善に向けて



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
評価点)

科目名

46 理学療法概論

担当教員

宮津 真寿美

専攻・配当年次

PT

1年

回答者数

45 名

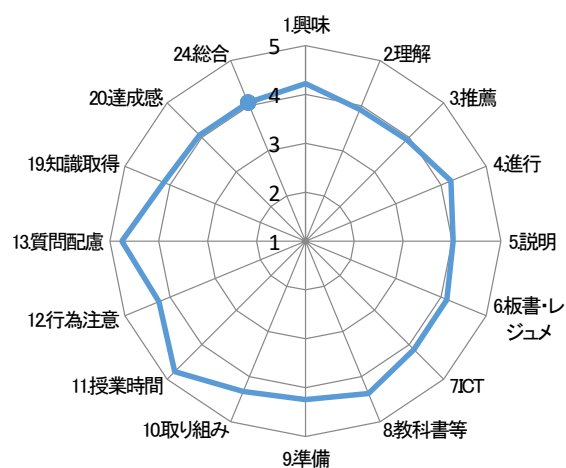
◆集計データ結果について

総合点が4.1点だった。4.0以下の項目が、理解と推薦で、それぞれ3.9であった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「先生が回ってきてくれたので、質問しやすかった。」「先生と一緒に考えてくれた」「レポートを書くことで自分で理解することができた」「発表が楽しかった」という意見がある一方、「レポートの量が多かった」「レポートで減点された理由を明確にしてほしい」などレポートに関する意見がある。

45人中34人は、特に意見がない。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
評価点)

◆今後の改善に向けて

知識を自分の中に落とし込めるよう、レポートにまとめる課題を4回出している。1年生はレポート作成に慣れていないこともあり、それを良い経験だと思う学生もいるし、苦戦している学生もいる。授業でも話しているが、理学療法士に必要な能力として、要点をまとめ、それをわかりやすく相手に伝える能力があり、卒業までに向上してほしいと思っている。レポート課題の意義を説明していきたい。

レポートが減点の場合はコメントを書くようにしているが、「減点された理由を明確にして欲しい」という意見が一件あった。コメントを読んでいない可能性があるが、減点に疑問があれば、その都度、質問するよう伝える。

科目名

47 理学療法研究法 I

担当教員

宮津・加藤・松村・臼井・木村・山田・齊藤・濱田・藤本

専攻・配当年次

PT 1年

回答者数

23 名

◆集計データ結果について

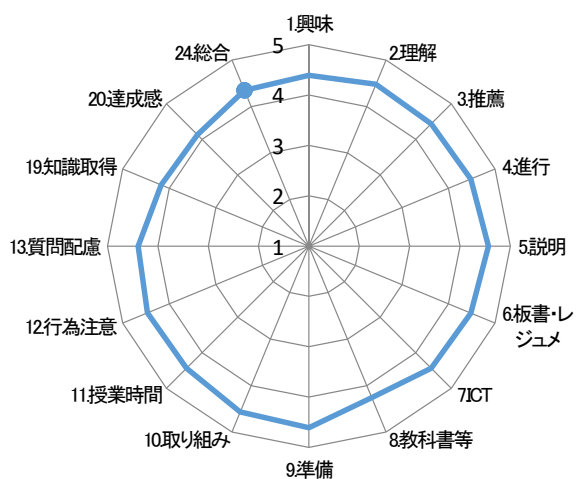
回答者数が23名である。総合4.3点で、その他の項目もすべて4.0点以上である。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「これから卒業研究をしていくのに、研究方法や研究の種類などを知り、よい道しるべになった」「先輩たちの研究を見聞きして、新たな視点や意見があることがわかった」「改善点はない」など良い意見しかなかった。

◆今後の改善に向けて

学生の評価も高く、良い意見しかないなので、このままの形で継続する。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階
評点)

科目名

48 理学療法研究法Ⅱ

担当教員

宮津・加藤・松村・臼井・木村・山田・齊藤・濱田

専攻・配当年次

PT

2年

回答者数

10名

◆集計データ結果について

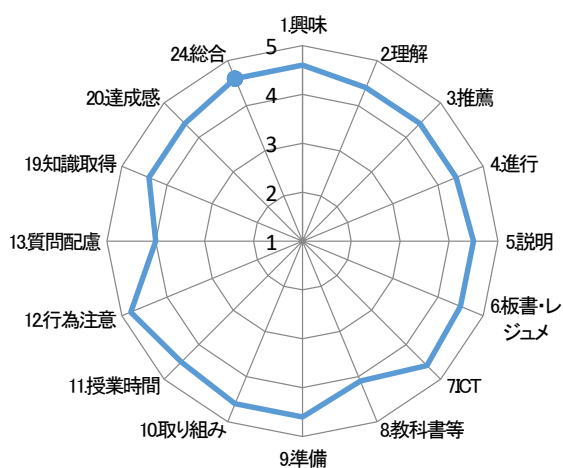
回答者は10名である。総合点が4.6点で、各項目すべて4.0以上であった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「自分の興味がある分野の研究計画をたてることができた」「早く相談に行くことの大切さがわかった。」「研究指導の先生のおかげで頑張れた」「研究を通して知識を深めることができた。」などの意見がある。

◆今後の改善に向けて

理学療法研究法Ⅱは、研究担当教員の指導の下、研究計画をたて、発表するところまで行う科目である。研究の意義や研究活動を通してのメリットを感じる学生が多い。今後の改善点はない。ただ、10名のみの回答であり、全員の意見ではない。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
評価点)

科目名

49 臨床運動学 (PT)

担当教員

松村 仁実・濱田 光佑

専攻・配当年次

PT

2年

回答者数

13 名

◆集計データ結果について

各項目は3点台後半から4点台である。理解の項目と行為注意の項目がやや低い結果となった。学生の受講態度の「目標等を意識」「質問」「熱心さ」などは、9割前後の学生が行えている。9割の学生が復習し、8割弱の学生が予習を行っている。7割弱の学生が授業の到達目標を理解し、ディプロマポリシーとの関連を理解して取り組んでいる。到達目標を達成できたと回答する学生は4割である。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

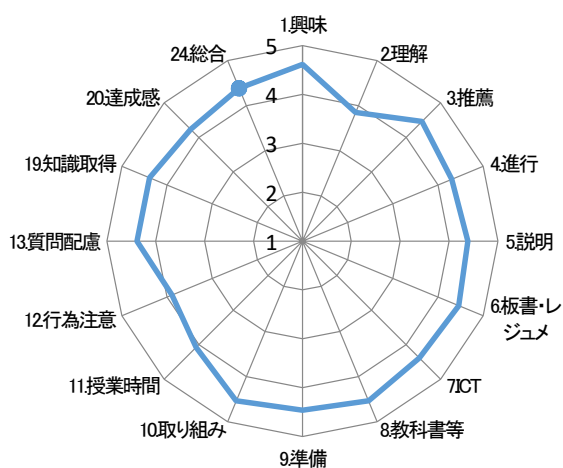
歩行分析の動画を使用した点やグループワーク形式での授業が進められてことを評価する意見が見られる。動画を使用することでイメージが持ちやすかったと考えられる。グループワークにより、自身では気が付かない視点に着目することで幅が広がったとの意見も見られた。また、達成感を得たとの回答も見られる。一方で、疾患の歩行の難しさからか、分析方法のポイントを知らなかったとの意見も見られる。

◆今後の改善に向けて

動画を使用することで、疾患特有の動作をイメージしやすくなるため、継続して利用をしていく。また、同時に、相対した学生に動作をさせ確認することも正常動作とその幅を知る上では重要である。その違いを通して理解を深めるように促していく。

グループワークを中心に進めたこともあり、授業時間中は雑多な雰囲気になる面は仕方がない部分である。テーマや各グループの課題を整理しながら進められるとよいと考える。

疾患の歩行分析などでは、各動画と併せてグループワークを通して、教員が見ているポイントを伝えるようにしている。系統立てて説明している訳ではないが、その必要性も含め今後の検討課題である。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
 19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評価点)

◆集計データ結果について

すべての項目で4点以上であった。授業の取り組みは回答者の6割以上が目標を意識し、熱心に取り組むことができていたことが分かる。全体として、復習する学生の割合が多かった。前回分の内容について、小テストを実施することを説明し実施していたが、1割程度の学生は復習時間の確保をしていない結果となった。DPとの関連性については約半数が理解はしておらず、到達目標を理解しない状況で受講していたことが分かる。

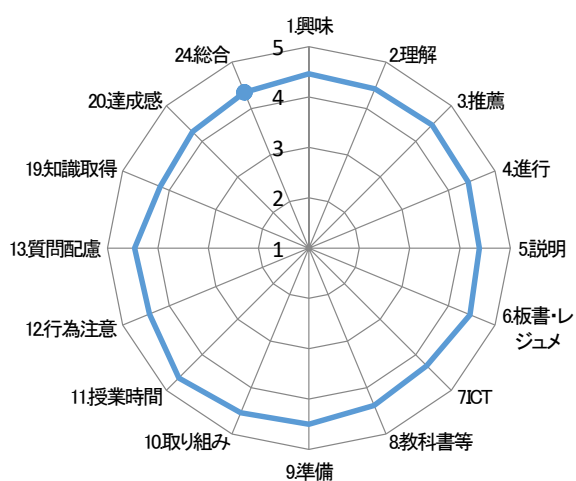
◆学生の自由記載の内容を検討した結果

グループワークの実施について、評価する記載が多くみられた。他者とのやり取りで理解を深めることができていた様子がうかがえる。引き続きグループワークを適宜取り入れていきたい。基本的に毎回小テストを実施しており、範囲は前回分の範囲としていた。小テストについて自身の取り組みを反省する記載もあれば、他科目の小テストも重なることで負担を感じているとの記載もあった。復習を促し、理解を深めることを期待している点から継続を考えている。授業内容の理解を適切に測れるような内容になるように見直ししながら実施していきたい。

◆今後の改善に向けて

科目のDPとの関連性や到達目標の理解をすることは、この科目の重要性を理解し、知識習得への意欲に繋がると考える。授業開始時に説明を加えるとともに、授業全体を通し、臨床との関連性を説明しながら、どのような力を養うべきか説明を行い、理解を深めるように促していく。

本科目では、基礎的な内容を整理し、これまでの学習の知識を繋げることも目的の一つである。グループワークでは、互いの意見を出し、さらにグループとしての理解を深められるような課題設定を工夫していきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
評点)

科目名

51 理学療法管理

担当教員

加藤・松村・臼井・山田・齊藤・石川

専攻・配当年次

PT

3年

回答者数

7 名

◆集計データ結果について

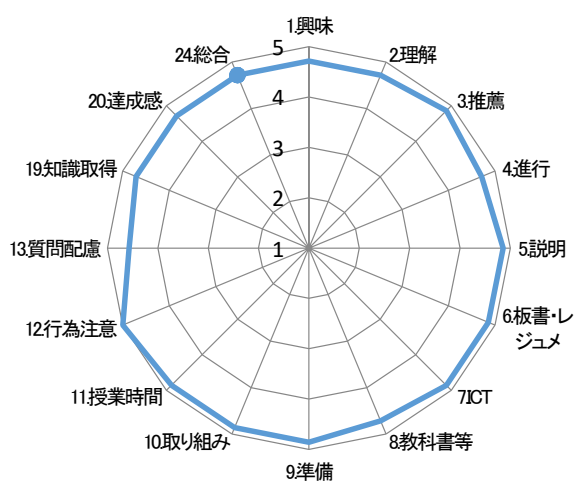
全ての項目で4.5点を超えており問題なかったと思われる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

就職前に知ることができて良かったと言う意見が多かった。今後も現在の講義内容を継続する。

◆今後の改善に向けて

オムニバス形式の講義で行った。講義内容や課題の設定の仕方は各担当教員に任されていたが、学生からの意見は特になかった。今年度が初開講の科目であるため、次年度も同様の形式で講義を行う。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
 19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
 評点)

科目名

52 理学療法倫理

担当教員

松村・宮津・木村・臼井・山田・濱田

専攻・配当年次

PT

3年

回答者数

10 名

◆集計データ結果について

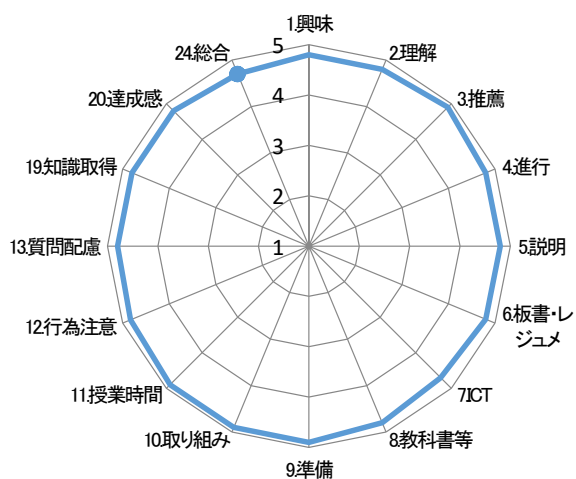
全ての項目で4.5点を超えており問題ないと思われる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

倫理的な事項について、就職する前に学ぶことができて良かったという意見が多かった。講義内だけでなく普段から倫理的なことが学べる機会があると良いという意見もあり、非常に重要な指摘であると感じた。

◆今後の改善に向けて

今年度から開講した科目であり、学生からの評価も良かったため、来年度も同様の講義形式で行う。他の科目でも倫理的な事項について触れられると良いと思う。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
 19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階
 評点)

◆集計データ結果について

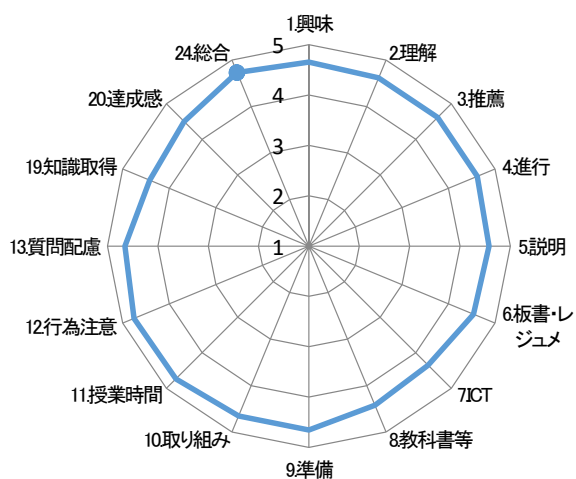
全ての項目で、4以上の評価であり、全体的に大きな問題はなかったと考える。
 受講者の皆さんも、自己評価として9割以上の方が「熱心に取り組んだ」と評価しており、それが授業だけでなく予習・復習の時間にも表れていると思う。ただ、30～40%の人が予習・復習「ゼロ」「1時間未満」と回答していることが少し残念だった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

多くの方が、「質問しやすい環境であった」と回答しており、授業の方法としても大きな問題はなかったと理解している。また、デモンストレーションや学生同士での学び合いも活用していたようで、良かったと思う。

◆今後の改善に向けて

「大変だったけど、臨床で直接使う技術を学べた」という自由記載があったが、授業中にも話したように、技術の修得には「正しく理解する」「繰り返し練習する」ということが重要である。そのためには十分な時間とは言えないが、今年の受講者の皆さんは「修得したい」という意欲が大きい人が多かったように感じられ、良い授業となった。今後もさらに正しく修得するために、正しく伝えることを意識していきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
 19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階
 評点)

科目名

54 検査測定法実習

担当教員

木村 菜穂子・山田 南欧美・齊藤 誠・濱田 光佑

専攻・配当年次

PT

1年

回答者数

30 名

◆集計データ結果について

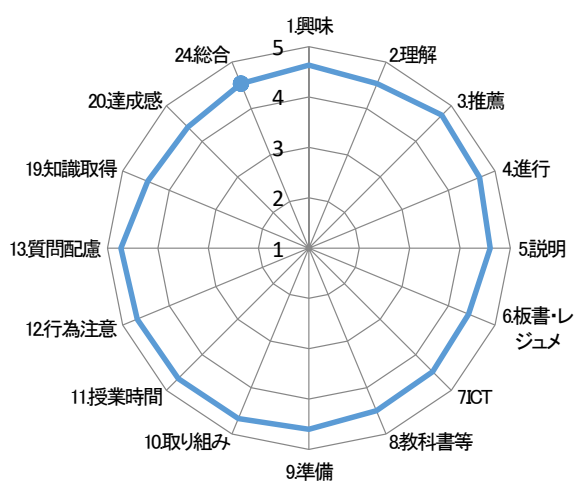
全ての項目で、4以上の評価であり、全体的に大きな問題はなかったと考えられる。
 受講者の皆さんも、自己評価として9割以上の方が「熱心に取り組んだ」と評価しており、それが授業だけでなく予習・復習の時間にも表れていると思う。ただ、復習時間について40%の人が「ゼロ」「1時間未満」と回答していることが、少し残念だった。授業でも伝えたが、技術の修得には「正しい理解」「反復練習」が重要であり、授業内だけでは時間が十分とは言えない。今後も継続して取り組んでいただきたい。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

多くの方が、「質問しやすい環境であった」と回答しており、授業の方法としても大きな問題はなかったと理解している。またデモンストレーションや学生同士での学び合いも活用していたようで、良かったと思う。

◆今後の改善に向けて

大きな問題はなかったことから、現在の形式で継続していくことを考えている。ただ、全員が十分に理解し、正しくできるようになったわけではないため、今後も、受講者の方たちが正しく理解し、しっかりと技術を修得できるよう、工夫を重ねていきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
 19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
 評点)

科目名

55 人体触察法実習

担当教員

松村・木村・山田

専攻・配当年次

PT

1年

回答者数

28 名

◆集計データ結果について

すべての項目4点以上であった。ICT、板書・レジュメに関する項目は他項目よりは低い点数であった。予習や復習については、個人差はあるものの全員が時間を確保して取り組むことができていた。回答者の7割弱が目標を意識して受講しており、9割を超える学生が質問をし、熱心に取り組むことができていたことが分かる。ただし、到達目標やDPとの関連性については、5割程度であった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

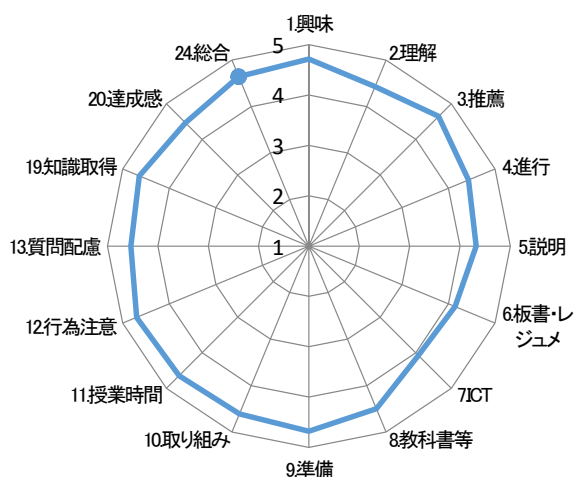
実際に各自が確認する作業を通し理解が深まったとの記載が多くみられた。実技の授業のため、デモンストレーションを行った上で進めたが、理解がしやすい、また、複数教員が教室内を巡回しているため質問がしやすかったとの記載がみられた。限られた時間内ではあるが、学生に対してその場でフィードバックできる授業展開であることが有効に行えている部分のため、継続していきたい。

事前課題について、説明不足のため効果的な予習にならないとする意見があった。ある程度丁寧に説明を加えているが、いざ課題を始めた際に分からないことが生じたと考えられる。問い合わせに応じることを説明に加えていきたい。

◆今後の改善に向けて

相手の体を触れ、実技を通して学ぶ科目である。患者を意識する一歩となる授業と考えている。その中で、「体験したことで学びとなった」との意見が多くみられた点は評価でき、今後も同様の授業形態で進めていきたいと考える。実技のため、ICTの利用場面は限られるが、工夫できる方法については今後も検討をしていきたい。

実技として学ぶ授業であり、時間をかけて学ぶ必要がある。知識と技術共に重要となるため、予習や復習に時間がかかる点は避けることができない。より有意義な学習時間となるよう、学び方についても教授していくよう工夫を重ねていく。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
評点)

科目名

56 理学療法評価法

担当教員

臼井 晴信

専攻・配当年次

PT

2年

回答者数

3名

◆集計データ結果について

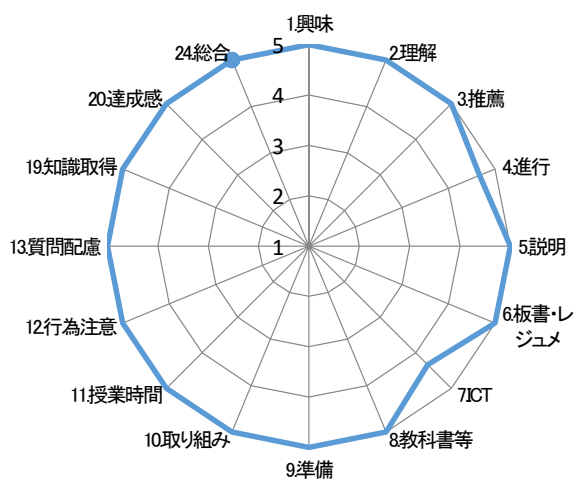
回答者数が少ないため結果について分析できない。回答した学生の評価は良かったため問題ないと思われる。3名中1名でICTについて「どちらともいえない」と回答していた。講義はスライドを使わなかった。パワーポイントを用いた講義に慣れているためかもしれない。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

臨床で活かせる知識を定着させるような関わり方に留意した。回答した学生は好意的に捉えていたと思われる。またグループワーク中心の講義だったが、学修効果があったと感じていたようだ。

◆今後の改善に向けて

今後もグループワーク中心の講義を継続する。ICTについては随時適切な方法を取り入れていく。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
 19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
 評点)

科目名

57 理学療法評価法実習

担当教員

臼井 晴信・松村 仁実・齊藤 誠

専攻・配当年次

PT

2年

回答者数

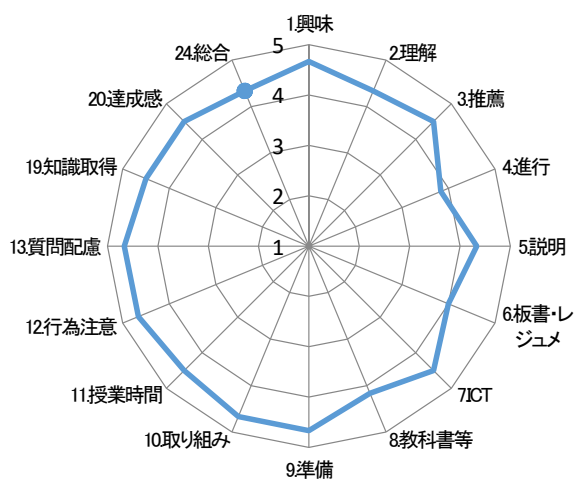
6 名

◆集計データ結果について

概ね4点を超えており問題なかったと思われるが、進行については「どちらともいえない」と回答した学生が多かった。グループワークが中心の講義形態だが、課題が多く時間が足りなかったのかもしれない。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

模擬患者の情報をグループで整理し、障害像を分析する形式であった。その中で多くの学びを得たという意見があった。一方、他の実技試験と日程が重なっていたりしたこともあり、学生はかなり負担を感じていたと思われる。講義内容は臨床実習に行くために必須の内容であるため、発表などの日程が試験日程と重ならないようにするなどの工夫が必要かもしれない。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
評点)

◆今後の改善に向けて

今後も現在の内容を踏襲して講義を行う。模擬患者の情報をグループワークで分析することによって、臨床実習に繋がるようにする。「質問の仕方を考えた方が良い」という意見について、意図がわからないが、学生が教員に常に質問しやすいような状況を作っておくことは重要であると考えます。

◆集計データ結果について

各項目3点台後半から4点台である。板書レジュメの項目が少し低い点となった。9割を超える学生が熱心に取り組んだと回答している。ただし、質問は4割弱の学生にとどまった。到達目標は7割程度の学生が意識し取り組んでいる。8割前後の学生が予習・復習の時間を設けていた。復習に時間をかけている学生が多くみられた。

授業の到達目標やディプロマポリシーとの関連を理解している学生は4割程度、到達目標を達成できたのが5割程度との回答である。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

2名の教員で分担し講義を展開しているため、それぞれの教員に対して記載されている。共通する点としては、毎回、前回の内容の小テストを実施しており、それについて「勉強になった」「難しかった」「授業と異なる範囲と感じた」などがみられた。小テストの実施により復習時間の確保に繋がっていると考えられる。

スライドについて、教員によっては見にくいとの意見があり、分かりやすい資料の提示が必要である。

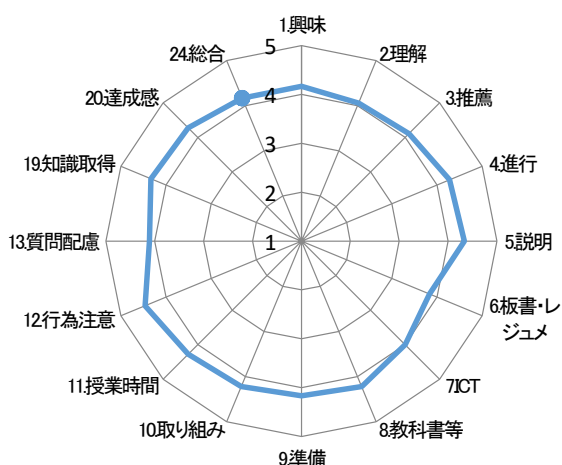
授業の展開方法では、一部教科書を利用し自己にてまとめる形をとったが、評判は悪い。まとめるべきポイントを提示しているが、まとめたものを提示されることを望む学生との間にズレが生じたと考える。

◆今後の改善に向けて

理学療法士になるにあたり、主要な科目である。学習時間の確保は必要であり、学生も熱心に取り組んでいることから、その点は理解されていると考える。また、毎回の小テストが復習時間の確保に繋がっているため継続していく。授業範囲と小テストの内容の違いを指摘する意見もあるが、毎回の範囲が広いことが理由の一つと思われる。授業でもいくつかのポイントを絞り展開することが必要だと考える。そのポイントに合わせ自己学修を促すことで学生の学びにも繋がると考える。

スライドを使用しての授業展開のため、提示する資料にも工夫を加え、容易に見直しができ理解が深まるものを準備していくことが課題である。

授業方法については、自己学修的な要素については予習課題として提示し、それを踏まえて授業内で解説するといった方法で改善できると考える。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評価点)

科目名

59 中枢神経系障害理学療法治療学実習

担当教員

松村 仁実・濱田 光佑

専攻・配当年次

PT

2年

回答者数

3名

◆集計データ結果について

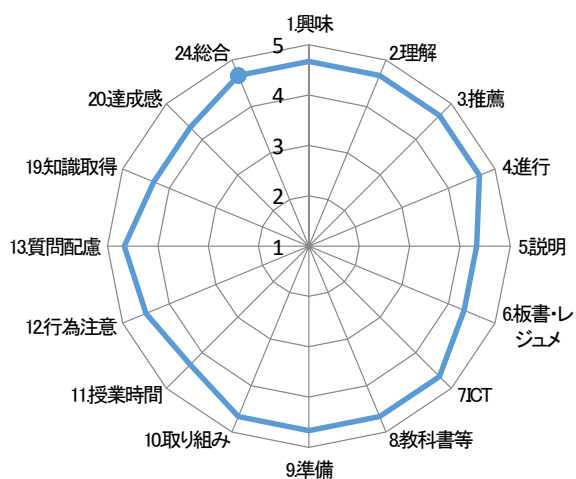
集計データ結果から全ての項目において4.0以上と高い評価を得た。本科目は実習科目の為、学生に各種の評価、治療の実践を交え能動的な学修を促した。学生の主体的な学修を促したことにより、概ね理解は深まったが、その一方で疾患のイメージが曖昧なままとなり、担当教員からの説明が不足していると評価する学生もいた。今後はより疾患の理解を深めた上で、評価方法、治療方法を想起できるように動画等を積極的に導入し対応する。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

自由記載の内容は限定的であったが、より専門的な実習において修学する事を難しく感じるといった意見があった。本科目及び前期科目の中枢神経障害理学療法治療学において、中枢神経疾患の基本的な知識をより定着させ、学生の疾患に対する理解を深める必要性がある。また、授業時に実施していた小テスト等は学生の知識の復習として作用していると考ええる。

◆今後の改善に向けて

今後の改善として、本科目及び前期科目の中枢神経障害理学療法治療学における基本的知識の定着を図る必要がある。また、本科目においては、できるだけ症例や疾患に対する具体的なイメージを形成してもらうため、動画等を使用し修学を促していく必要がある。また、評価方法等はその目的や意義を理解する事が重要であることから、様々な症例を提示し、学生自身が主体的に考え、行動に移せるように継続的に支援していく必要がある。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
評点)

科目名

60 運動器系障害理学療法治療学

担当教員

齊藤 誠・藤本 大介

専攻・配当年次

PT

2年

回答者数

15 名

◆集計データ結果について

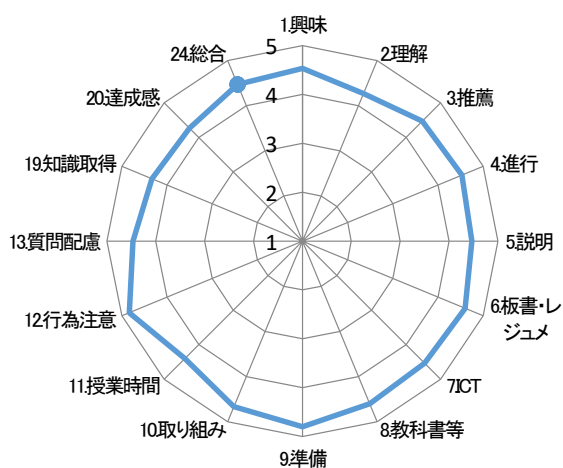
本科目は後期の開講科目である「運動器障害理学療法治療学実習」に向けて、病態生理を中心に解説した。全体的には良好な評価結果であったと認識している。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

本科目は、事前に動画資料を配信し、自由に視聴するような形式をとった。それについては良かったとするコメントが多かったので今後も継続していきたい。

◆今後の改善に向けて

全体的には良かったとするコメントも多く、著明な問題も認められなかったもので、基本的な内容は変わらずに継続していきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
 19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評価点)

科目名

61 運動器系障害理学療法治療学実習

担当教員

齊藤 誠・藤本 大介

専攻・配当年次

PT

2年

回答者数

3 名

◆集計データ結果について

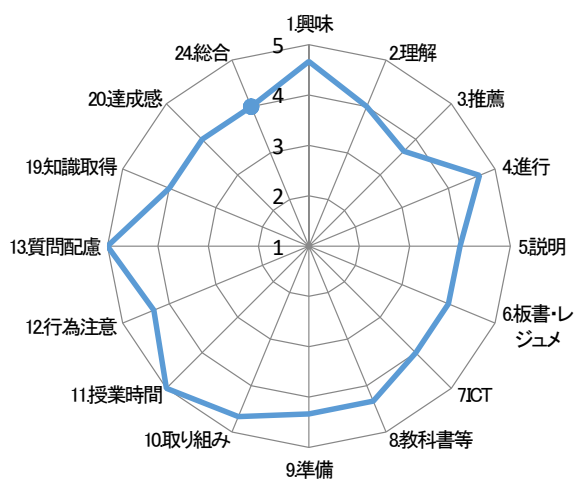
点数としては良好であるが、回答数が少なく判断は難しい。少数であっても意義を感じてくれた学生がいたことは嬉しく思う。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

本科目は論理的思考の重要性を訴え、演習を通して学ぶことを意識した。一人で行うことは難しかったという意見もあったので、フォローする方法も検討していきたい。

◆今後の改善に向けて

臨床現場において論理的な思考ができることは非常に重要であると考えている。今後も演習を通して臨床推論能力向上を促していきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
 19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
 評点)

◆集計データ結果について

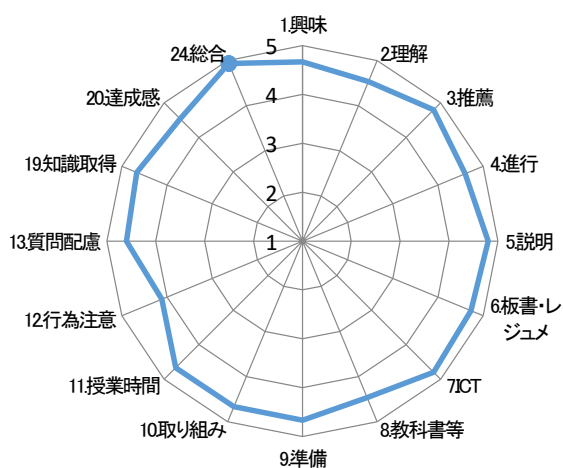
全ての項目で4点以上で問題なかったと思われる。理解や行為注意がやや低かった。内容が難しく理解するのに難渋した学生がいたと思われる。行為注意については予習を行っていない学生などに対して強く注意することをしなかったことがあった。予習は成績評価に入れていないが予習をしないと講義の理解が難しくなる。そのため学生本人の学修意欲が低ければ行わない学生もいると思われる。その点について不公平に感じた学生がいたかもしれない。しかし特に記載はないのでわからない。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

授業資料や講義構成に関してポジティブに捉えている学生が多かった。内容が難しいという意見もいくつかあった。難しい内容を学生が修得できるように引き続き工夫する必要がある。

◆今後の改善に向けて

講義については座学としてスライドを使った講義形式の時間が長かった。内容が難しく自分で考える必要がある事項が多いため、来年度以降は学生同士で考える時間を増やそうと思う。具体的には、復習課題としてのレポート量を少し減らし、講義中に討論する時間を増やす。その討論した内容を発表させ、それらの内容を元に解説をすることで知識の修得に繋げたいと思う。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評価点)

科目名

63 内部疾患系障害理学療法治療学実習

担当教員

臼井 晴信・宮津 真寿美・杉山 成司

専攻・配当年次

PT

2年

回答者数

4 名

◆集計データ結果について

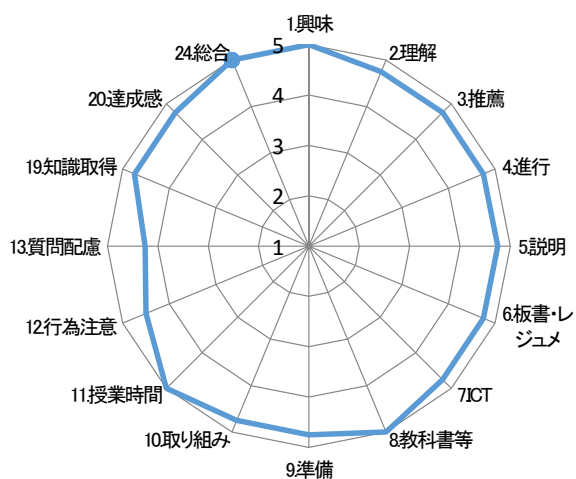
回答者数が少ないためわからない。質問配慮についてやや点数が低い、半数は5点をつけており配慮ができていなかったかどうか不明である。ただ、質問しやすい状況を常に作っておく必要はあると考える。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

授業中に自分たちで考えた運動プログラムを実践し、データを分析してポスター形式で発表するという演習を行っている。ポスター発表について好意的に捉えていた学生がいたのはとても良かったと思う。学生の良い学びの機会になったと考える。

◆今後の改善に向けて

学生が主体的に学ぶための方法をさらに模索していく。体力プログラムなどの演習は継続し、ガンのリハビリテーションや腎臓リハビリテーションの分野など知識を伝えることに終始してしまいがちな分野も、学生が主体的に学べるように工夫していく。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
評点)

科目名

64 小児疾患系障害理学療法治療学

担当教員

藤本 大介

専攻・配当年次

PT

2年

回答者数

8 名

◆集計データ結果について

興味、理解、質問配慮、知識取得で低い結果であったと受け止めた。本科目は、科目の特性上、関心のある履修者が限られてしまうものの、少しでも興味を持ってもらうように方向づけることを考えて、講義構成を考えていた。しかしながら、今回のような結果であり、十分に省察する必要があると感じた。

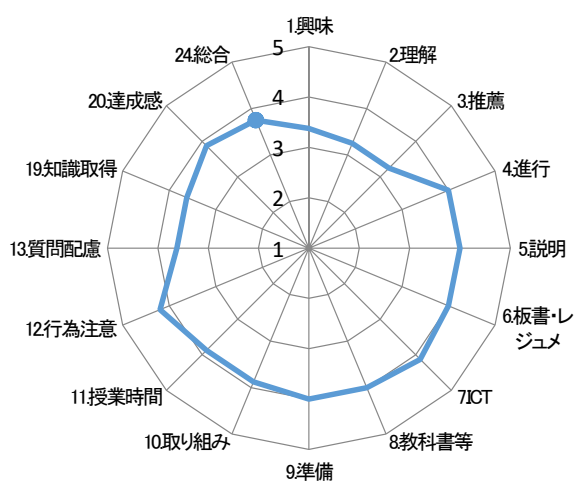
◆学生の自由記載の内容を検討した結果

授業の内容、配布資料の内容が理解できない、という記述があった。質問を行える配慮が足りないことが想像されるものの、知識の教授法に問題があると考えた。

小テストの実施は学習習慣を身につける上で有用である、という記述があり、学習の方向付け、自主学習を促進させる働きかけの必要性がうかがわれる。

◆今後の改善に向けて

興味、理解を助けるため、学習するべきものは具体的に提示すること、理解を深めるために履修者間で議論をすることを講義構成で意識する。また、質問が行える配慮を小テスト内であったり、講義後の振り返りシートの活用であったり、講義内に設ける、といったことを考えていく。



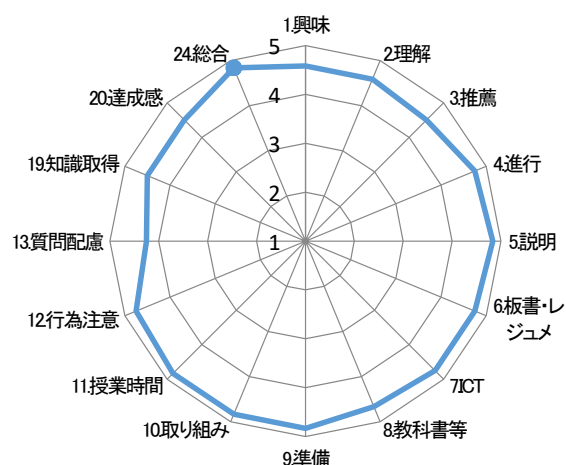
1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
 19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
 評点)

◆集計データ結果について

小児領域の理学療法は興味を持っている学生が少ない分野であることが多いが、全体的な満足度は高く、学生のレベルに沿った授業展開ができたのではないかと考えている。ただし回答者が12名ということもあり、関心度の低い学生にはまだまだ理解を促すことができなかった可能性があり、今後も改善すべきと考える。配布資料に関しては、スライド資料を穴あき式にして提供し、授業の集中度は高める工夫ができたのではないかと考え、今後も継続していく予定である。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

概ね良好な回答であったと認識している。実技を通して具体的に体で覚えることで、学生が苦手意識を持つ小児期の運動発達について身近に感じ、苦手意識を克服してくれればと思う。小児期の疾患については、分かりにくいものも多いため、今後も視覚教材を活用して、学生の理解を深めていく授業展開を心掛けたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評価点)

◆今後の改善に向けて

今年度から養成校の中でも小児期理学療法について窓口となる教員が配置され、ともに授業づくりをすることで、継続性のある展開が可能になっていると感じた。今後も「治療学」と「実習」の連続性を保ちつつ、教科書での学習では補いきれない国家試験の出題範囲について、授業の組み立てを行っていくことを考えている。特に国家試験の出題範囲として、小児整形外科、小児精神科、小児科病理学など、幅広く出題されるようになっているため、その内容を充実させていくとともに、医学的なトピックスも紹介できるように授業の組み立てを行う。

科目名

66 老年期障害理学療法学

担当教員

木村 菜穂子

専攻・配当年次

PT

1年

回答者数

23 名

◆集計データ結果について

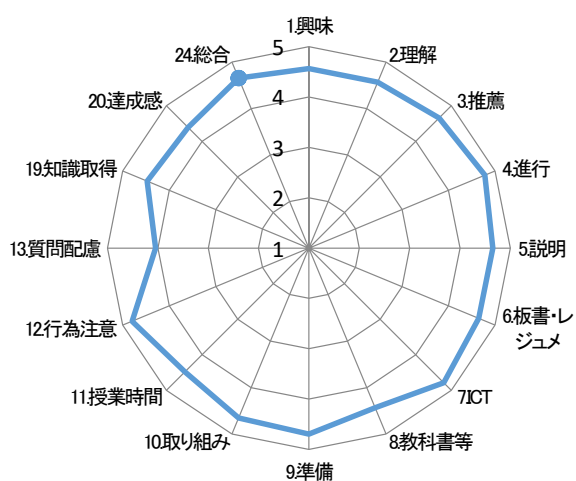
全て4以上の評価であり、講義としては大きな問題はなかったかと思う。ただ、アンケートの回答者が受講者の半分程度であり、残念に思う。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

1年後期の開講であり、基礎科目と関連付けて理解できるように工夫している。「例えがあってイメージしやすかった」などの意見が多く、比較的好意的に捉えているようで良かったと思う。

◆今後の改善に向けて

予習・復習は2割程度の人がゼロの回答だった。しかし8割以上の人が「目的をもって」「熱心に」授業に取り組んだと自己評価しているため、興味を持って受講していたと考えられる。さらに興味を持ってもらえるよう、講義内容の工夫を続けていきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
評点)

科目名

67 日常生活活動学

担当教員

藤本 大介

専攻・配当年次

PT

2年

回答者数

12 名

◆集計データ結果について

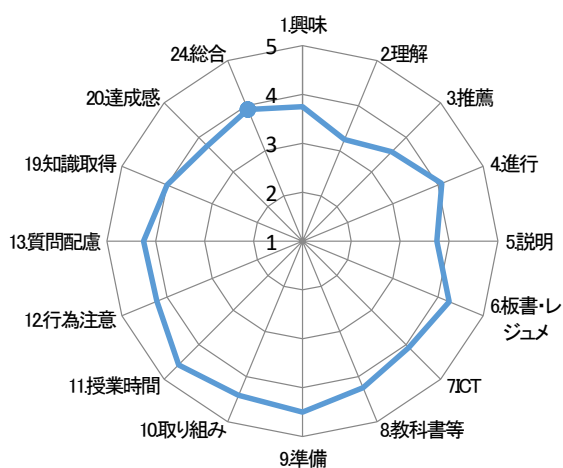
集計データ結果から、本科目に対する学生の興味、理解が必ずしもポジティブなものであったとは言えない結果であった。説明の項目も低値であり、授業方法に課題があることが想定される。また、本科目に対して学生の達成感が十分に得られていないことも読み取れた。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

福祉用具について調べ、発表するグループワークに関するポジティブな意見がいくつかあった。グループワークの運営については、自身が課題を感じる部分ではあったが、ブラッシュアップを図りたいと考えている。授業での説明について、わかりやすいという意見やわかりづらいという意見があり、課題を感じた。

◆今後の改善に向けて

学生が興味を持ち、理解できる説明を行えるよう、さらに工夫していく必要がある。具体的には、具体的な説明、具体例を提示していくことをよりブラッシュアップすることを検討している。また、グループワークの内容、授業構成を今後検討し、より学生が理解しやすい、興味を持ちやすい授業形態を模索していく。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
評価点)

科目名

68 日常生活活動学実習

担当教員

加藤 真弓・藤本 大介

専攻・配当年次

PT

2年

回答者数

6 名

◆集計データ結果について

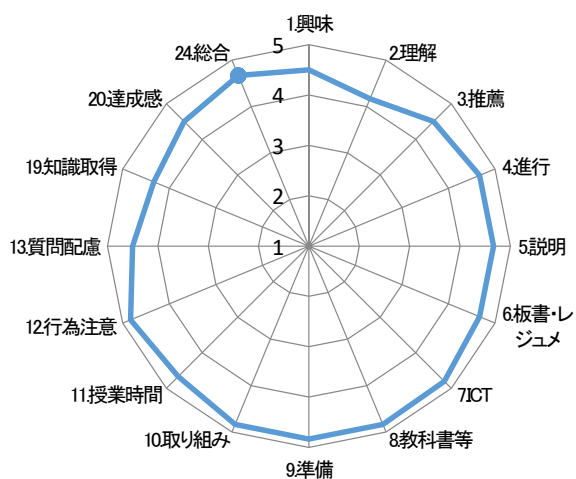
総合評価は4.6であり、多くの項目にて4.5以上で概ね良好な結果であるとする。その中でも、「理解」、「知識取得」が他の項目と比較し低い値であった。本科目では、症候学、治療学等の他科目の知識活用が必須であるため、不十分と感じるのではないかと考える。学生自身が理解したことや知識に関してアウトプットし、それに対しフィードバックして確認をする等の工夫が、今以上に必要かもしれない。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

肯定的な意見が多かった。「他の教科では学ばない内容を多く含んでいたため、とても面白かったです。特に印象的だったのは実技についてです。実際の症例を交えて、寝返りなどの動作の指導方法や介助方法を学ぶことができ、より具体的な思考が得られました。」という意見もあり、既存の知識を使い、事例を通して考え、実技として実践することの取り組みは継続していきたい。

◆今後の改善に向けて

大きな改善の必要はないかと考える。時間の都合上、学生が授業中に表出したことに対してすべてフィードバックすることは困難であるが、次年度は「理解」や「知識取得」ができた、より感じることができるよう工夫をしていきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
 19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階
 評点)

科目名

69 義肢装具学 (PT)

担当教員

山田 南欧美

専攻・配当年次

PT

2年

回答者数

36 名

◆集計データ結果について

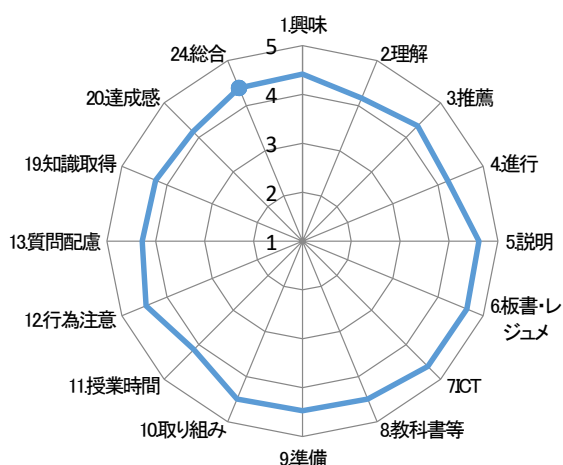
全ての項目で4点以上の評価を得られており、総合評価においても4.3点であったことから、概ね高い評価を得られたと考える。昨年度は授業の開始・終了時間の遵守において3点台とやや低い評価であったが、今年度は4点台になっており、改善することができたと考える。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

説明が分かりやすかったという意見が多くみられた。義肢装具は学生のうちは馴染みのないものであり、学内に保管している実物をなるべく授業で使用するように心掛けたことが、これらの意見に繋がったと考える。また、異常歩行などを教員が実演して見せるなど工夫をしたため、それについても動きがわかって良かったとの意見がみられた。プリント等授業資料についても図や写真を多くするように心掛けた結果、資料が見やすかったとの意見を得ることができた。

◆今後の改善に向けて

昨年度から教科書を変更していたが、今年度はさらにブラッシュアップした資料を準備することができ、授業のわかりやすさに繋げることができた。来年度もさらに資料をブラッシュアップさせながら、学生の理解が深まる授業を展開していきたいと考える。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
 19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評価点)

科目名

70 義肢装具学実習（PT）

担当教員

山田 南欧美・西井 千博

専攻・配当年次

PT

2年

回答者数

4 名

◆集計データ結果について

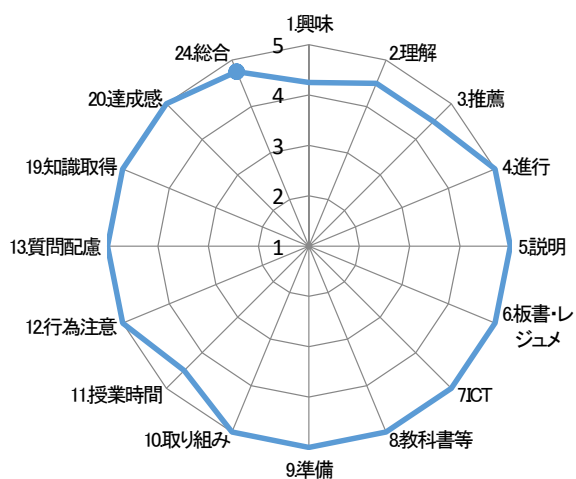
回答者数は少ないものの、全ての項目において、4点以上と高い評価を受けることができた。達成感5点、総合評価も4.75点であり、学生のうちは馴染みがない義肢装具について、授業を通して十分に学びを得てもらえたと思う。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

本科目では義肢装具士を招き、義肢装具の実物に触れることのできる授業回を設けている。そのおかげで、実際に義肢装具を体験することができて、より理解が深まったとの意見がみられた。

◆今後の改善に向けて

今年度も例年と同様の内容で授業を展開したが、概ね高い評価を得られたことから、来年度以降も同様の内容にて授業を行っていく予定である。ただ、義肢装具の種類等、年々新しいものも増えていくことから、資料内容については、常に最新の情報を盛り込むことができるよう配慮していく。また、本科目の国家試験問題の難易度も年々上がっていることから、授業で得た知識を国家試験問題に応用することを、授業内で促していきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
 19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階
 評点)

科目名

71 物理療法学

担当教員

臼井 晴信

専攻・配当年次

PT

2年

回答者数

35 名

◆集計データ結果について

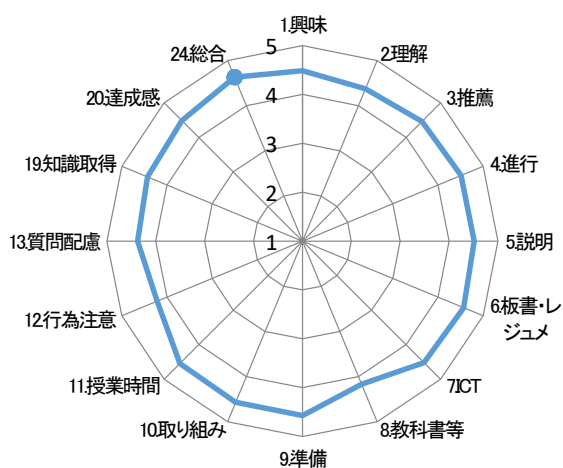
どの項目も4点以上であり、授業内容には問題なかったと考える。授業中に行った実験についてレポートを課したり、講義に関係ある内容について小テストを行うことで復習を促したりしたが、予習、復習を全く行わなかったと回答した学生がいた。課題の意図が伝わっていなかった可能性がある。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

2コマ連続の講義のうち、1コマは座学での学習を行い、もう1コマは物理療法機器を用いた実験などを行った。その点について好意的に捉えている学生が多く、楽しく取り組み考えることができたという意見があった。

◆今後の改善に向けて

今後も実験や体験を多く採り入れた授業構成は継続しようと思う。小テストやレポート課題などを課している意図を説明し、講義時間外に有効な学習ができるように働きかけたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
評価点)

科目名

72 物理療法学実習

担当教員

臼井 晴信・濱田 光佑

専攻・配当年次

PT

2年

回答者数

14 名

◆集計データ結果について

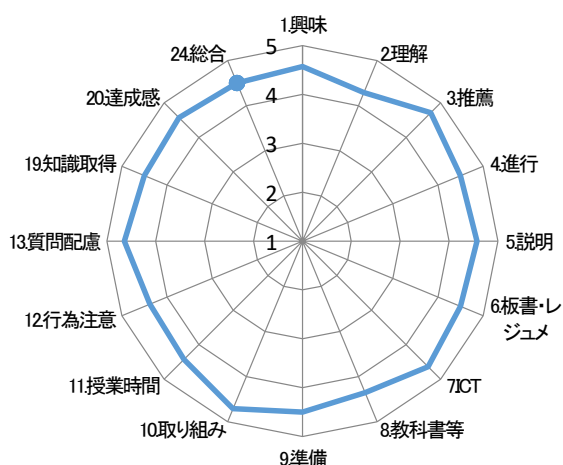
概ね良い評価だったため講義内容について大きな問題はなかったと考える。予習を全く行わなかったと回答している学生がいるが、予習がレポート課題として課されていることもあり不可解である。単純に回答のミスなのか、予習として捉えていなかったのであれば問題ないが、真面目に取り組まなかったことも想定される。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

実験を行って分析するという講義形式で、物理療法の考え方だけではなくデータの扱い方なども学べた学生がいて、講義の狙い通りであった。一方、グループワーク中心の講義であり、実験やデータ分析、発表準備などにおいて学生間で取り組み方に差が生まれ不公平感を感じている学生がいた。その点について成績評価や実験中の関わりなどによって改善すべきであると考ええる。

◆今後の改善に向けて

上記の学生間の差が生まれている点を明確に評価すると同時に、参加しようしない学生に対する注意や促し、成績への反映などを検討し、次年度から取り入れる。しかし、真面目に取り組むことによって学生が学べることは多く、恩恵も多くなる。そのような主体的に行動できている学生がさらに学習意欲を持ち継続的に学ぶことができる関わりも重要であると考ええる。成績評価への反映だけではなく、学生の自己肯定感を高めモチベーションを上げるような関わりを心掛ける。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
 19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
 評価点)

◆集計データ結果について

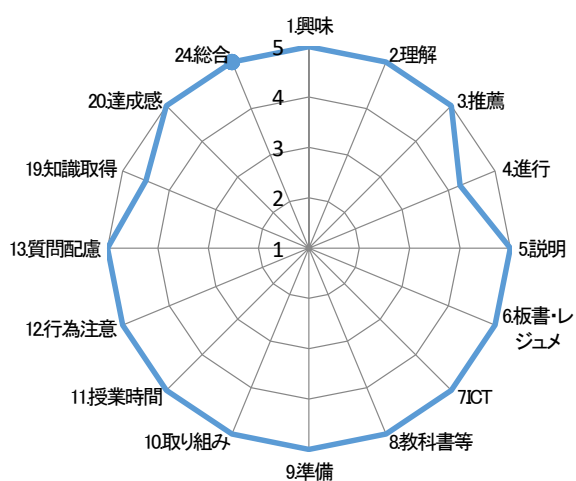
回答者数は限定的であったが、集計結果からはいずれの項目も非常に高い評価を受けた。神経生理学的アプローチに関する実習を主体とした講義であったが、知識の取得に関しては主に中枢神経系疾患に対する理解度や臨床実習経験の有無から個人差が生じていると考えられる。また進行の項目に関しては、神経生理学的アプローチ（PNF法、認知神経リハビリテーション）の基礎や概念的な説明に一定時間を要したため、実習時間が少ないと感じる学生がいた可能性がある。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

自由記載の内容からは、今後の臨床に繋がる実習、実技を経験できたことに対して肯定的な意見が収集された。一方で、講義時間数が限られていたため各神経生理学的アプローチに関する基礎領域の紹介と体験に留まっており、もっと時間をかけて理解を深めたかったとの意見を得た。

◆今後の改善に向けて

神経生理学的アプローチとしてPNF法、認知神経リハビリテーションについて実習を交え講義を行った。基本的な理論の理解を促し、技術の体験と実践を行ったことに対する評価は高かった。一方で、講義時間が限定されており、実技に関しては基礎的な手技の体験に留まった。これは想定範囲である。今回の体験を通して、就職後に知識及び技術に対する好奇心・向上心を持ち、研鑽するきっかけを目指す目的を含んでいるためである。今後は、本科目にて興味や関心を深めた学生に対し、学生自身による更なる知識、技術の探求に繋がるように講義を行ってきたい。また、対象学生の神経生理学的アプローチに対する理解を深めるていくため、他の科目との連携を取りながら講義内容を検討したい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
評点)

科目名

74 理学療法特論Ⅱ（関節運動学的アプローチ）

担当教員

齊藤 誠・鈴木 惇也

専攻・配当年次

PT

3年

回答者数

7 名

◆集計データ結果について

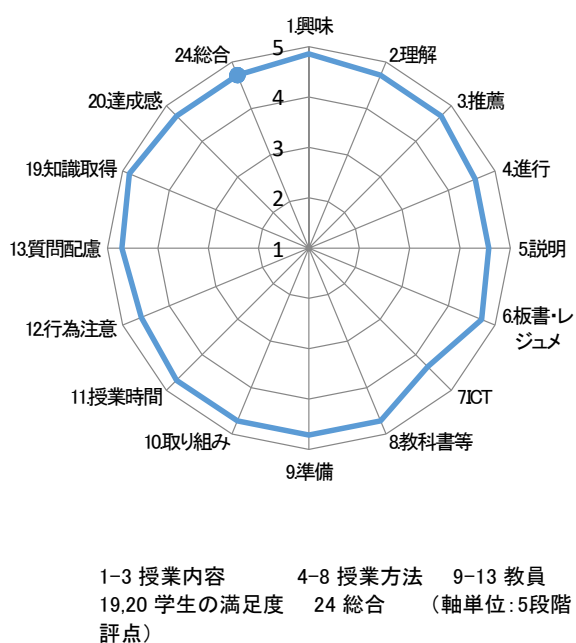
全体的に高い点数を獲得することができた。臨床実習を終えた学生を対象とした科目であり、臨床に向けた講義、実技を行ったことが、今回の結果になった要因であると考えている。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

外部講師の方の講義内容が非常に良かったとの意見が散見された。実際に臨床現場で働いている方からお話を伺うことは参考になることも多く有意義であると思われる。

◆今後の改善に向けて

本科目は臨床実習を修了した学生を対象としており、臨床現場で少しでも役に立つ知識、技術が習得できることを目標に講義を実施している。興味を持って学習してくれた学生も多く、今後も基本的な内容は変わらずに実施していきたい。



科目名

75 理学療法特論Ⅲ（筋生理学的アプローチ）

担当教員

加藤 真弓・宮津 真寿美・川村 皓生

専攻・配当年次

PT

3年

回答者数

3 名

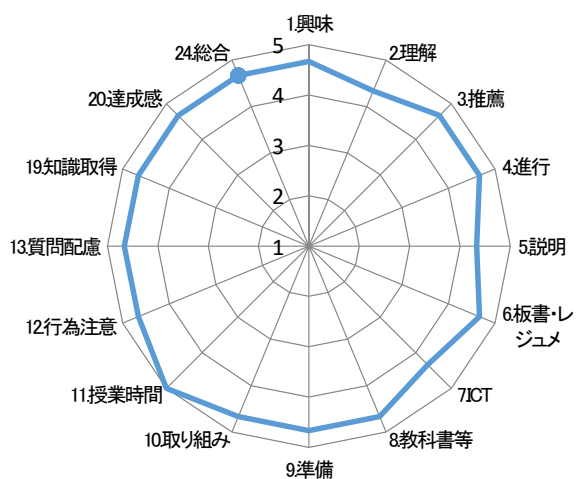
◆集計データ結果について

回答者が3名であり、総合点4.6点以上で、他の項目もすべて4.0以上だった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「複数の先生の授業でとてもためになった」という意見のみだった。

◆今後の改善に向けて
特にない。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
評点)

科目名

76 理学療法特論Ⅳ（スポーツ障害理学療法）

担当教員

藤本 大介

専攻・配当年次

PT

3年

回答者数

5 名

◆集計データ結果について

理解、説明、進行の項目がやや低い結果であったと受け止めた。限られた時間で教授したい内容を伝えることとなり、説明、進行が拙くなってしまう可能性がある。このため、履修者の立場に立つと、理解不足に陥ってしまったのではないかと想像する。

履修者にとっては、興味のある領域であるので、それをより育めるような、また、学術的な関心を高められるような授業構成になっているか、今一度、吟味する必要があると考える。

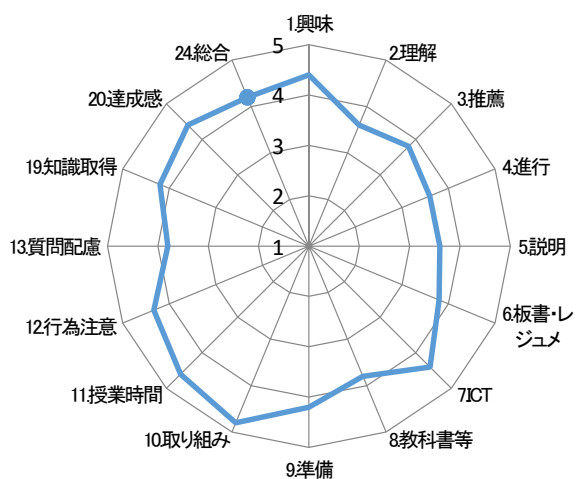
◆学生の自由記載の内容を検討した結果

本科目の関心の一つは、実技であり、必修科目ではあまり取り扱わない内容を含んでおり、講義中にその内容を盛り込むことができ、履修者の満足度も一定程度あったように受け止めた。

授業の内容が単調に進んでいるような印象、という記述があり、上述したように教授したい内容を過度に盛り込んでしまったため、このような印象を履修者に抱かせてしまったのではないかと推察した。ただ、単独の意見であるため、解釈に注意を要する。

◆今後の改善に向けて

今後は、教授する内容を重点化し、その内容を具体例とともに紹介する、または双方向性に議論できるような授業構成を検討したい。また、文献等も紹介し、講義中に教授することができなかった内容については、興味を持つ履修者が講義外に学習を促進することができる配慮を検討したい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 （軸単位：5段階
評点）

科目名

77 生活環境論

担当教員

木村 菜穂子

専攻・配当年次

PT

2年

回答者数

6 名

◆集計データ結果について

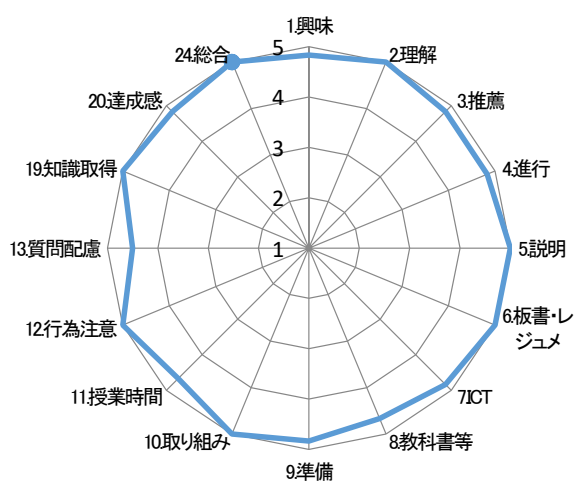
いずれの項目も4以上と、高い評価をいただいた。ただ、このアンケートの回答者数が6名であり、そのほとんどが「熱心に授業に取り組んだ」と自己評価しているため、講義内容自体に興味を持って取り組んだ学生からの意見が主となっているものと考えられる。興味それほどなかった人たちは、どのような評価をしているのか、ぜひ知りたかった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

自由記載も、よい評価をしていただいた。この分野に少しでも興味を持ってもらいたいという思いから、具体例を示すなどの工夫をしているが、それらが受け入れてもらえたことを嬉しく思う。

◆今後の改善に向けて

このアンケートに対する回答からは、特に改善の必要性は感じられなかったため、現在の方向性を保ちつつ、より興味を持ってもらえるよう、内容を吟味していきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
 19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階
 評価)

科目名

78 予防理学療法学実習

担当教員

加藤・臼井・山田・濱田・齊藤・藤本

専攻・配当年次

PT

2年

回答者数

5名

◆集計データ結果について

【発達領域】

「興味」、「授業時間」、「ICT」が他の項目に比べて低かったが、興味を持てる授業展開か、否かについて十分検討する必要がある、と受け止めた。

【介護予防領域】

回答者数が5名と少ないこと、回答内容は両領域を含んだものであるため、十分な検討はできないことを前提に検討する。興味を持てる授業展開の検討、実習後レポートを紙媒体ではなくデータにて提出する方法を検討してもよいかもしれない。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

【発達領域】

「臨床実習に参加する前に高齢者や子どもと接する機会があることはとてもありがたく、勉強になった。」という意見があり、本学の特徴を十分に反映した科目であることが学生の視点からもうかがわれ、本科目の意義が認められる。

【介護予防領域】

意見の中には、コロナ禍であり、BA.5対策強化月間により高齢者事業が一時中止となったこと等、イレギュラーな対応が多かったという問題が考えられる。PT専攻とOT専攻の学生参加の要件が異なる点については、次年度に向けて検討したい。ただし、履修科目が違うため十分な検討が必要と思われる。

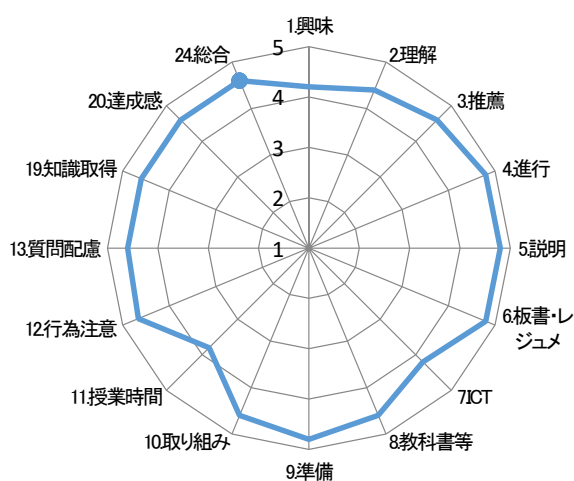
◆今後の改善に向けて

【発達領域】

実習という科目の特性上、対象者の状況に左右されるものの、学生が学ぶ視点を想像した授業展開にするなど、今後も改善していく必要がある。

【介護予防領域】

環境による要因に関しては、次年度は随分とクリアされると思われる。専攻間の対応の違いについての確認・検討をしていき、興味と目的を持って取り組めるよう工夫をしていく。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
評点)

科目名

79 地域理学療法学

担当教員

木村 菜穂子

専攻・配当年次

PT

2年

回答者数

34 名

◆集計データ結果について

多くの項目で4以上という評価であり、概ね大きな問題はないと思う。「質問配慮」の項目が若干低い評価だったが、受講者からの質問に対して対応しなかったことは、授業中・授業後を含めてなかったため、どんな対応を求めているのか分からず、困惑している。

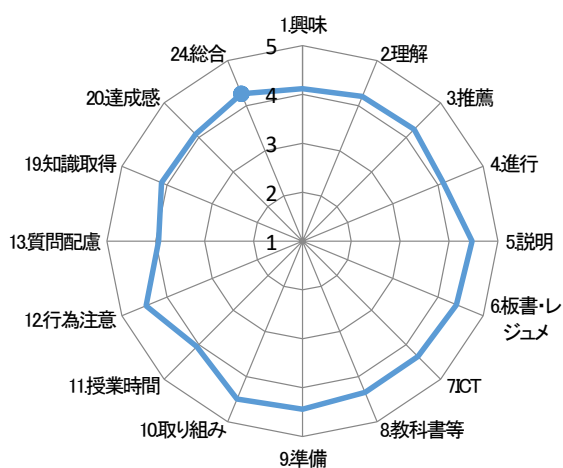
◆学生の自由記載の内容を検討した結果

私自身の経験や臨床での話を盛り込んでの講義スタイルは比較的好意的に受け入れていただけており、「興味が持てた」「理解しやすかった」という記載は嬉しく思う。

「2コマの講義だけは厳しい」というコメントもあったが、そのためにも具体例やちょっとした臨床での話などを入れている。また「講義終了時間が延びる」というコメントもあったが、キリがいいところまで進めておきたいということから、数回5分程度の延長をしたことがある。できるだけ、時間通りに終わるように心掛けたい。

◆今後の改善に向けて

本科目は、主に介護保険制度が中心となるため、受講者が興味を持てるように学修の必要性を説明したり、社会人になるにあたり知っておくべき関連制度の説明などを加えたりするなど、工夫をしている。1年後の臨床実習、2年後の就職の際に医療従事者として必要なことを学んでほしいと、私自身が経験したことを失敗も含めて話している。今後も大切なことを少しでも受講者に理解していただけるよう、さらに伝える工夫をしていきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
評価点)

科目名

80 臨床実習 I（見学）（PT）

担当教員

松村・加藤・宮津・木村・臼井・山田・齊藤・濱田・藤本

専攻・配当年次

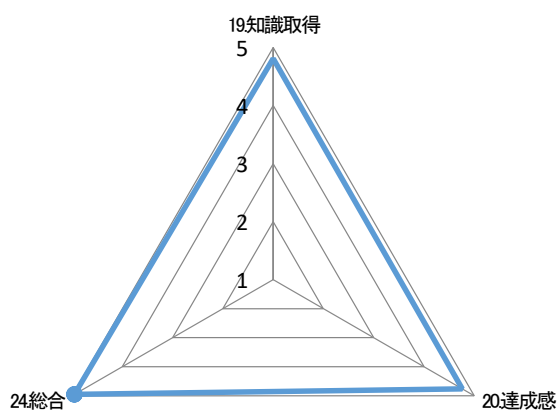
PT

1年

回答者数

21 名

◆集計データ結果について

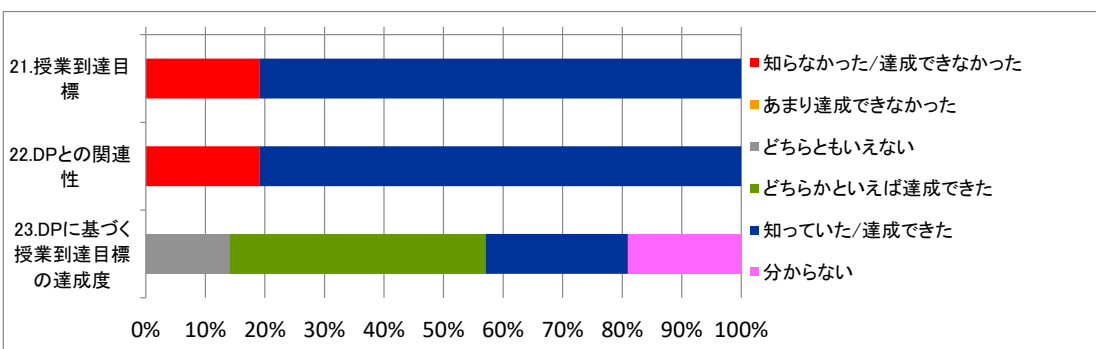
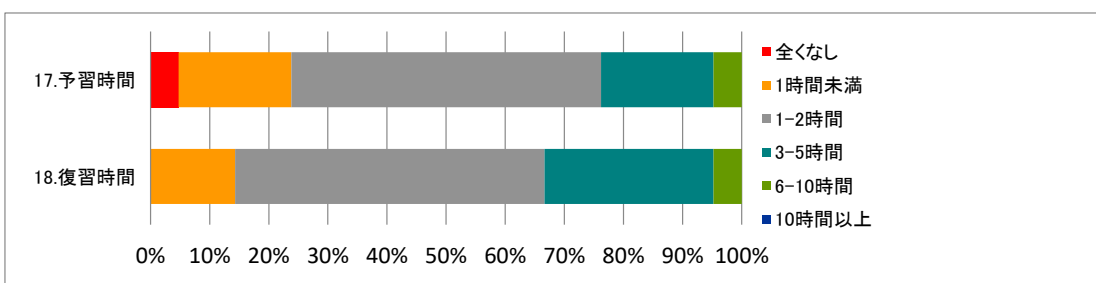
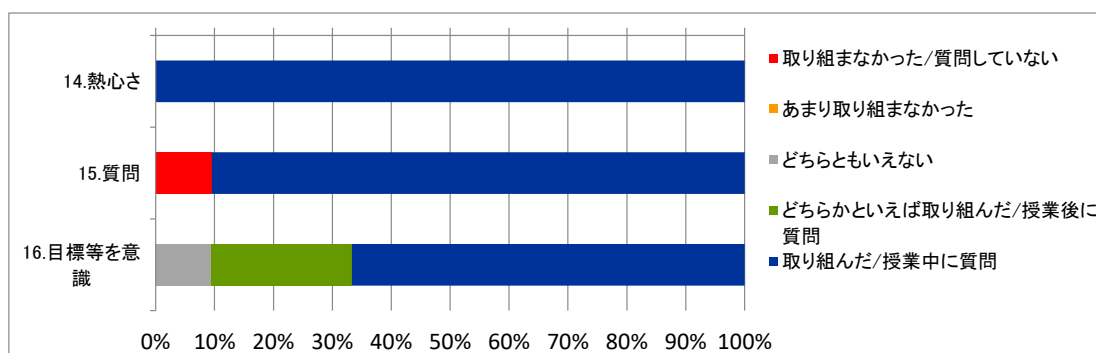


19 学生の満足度(知識習得)

20 学生の満足度(達成感)

24 総合

(軸単位:5段階評点)



科目名

81 臨床実習Ⅱ（地域）（PT）（1年）

担当教員

松村・加藤・宮津・木村・臼井・山田・齊藤・濱田・藤本

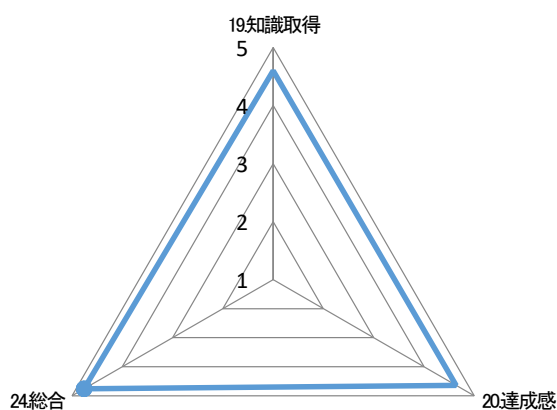
専攻・配当年次

PT 1年

回答者数

25 名

◆集計データ結果について

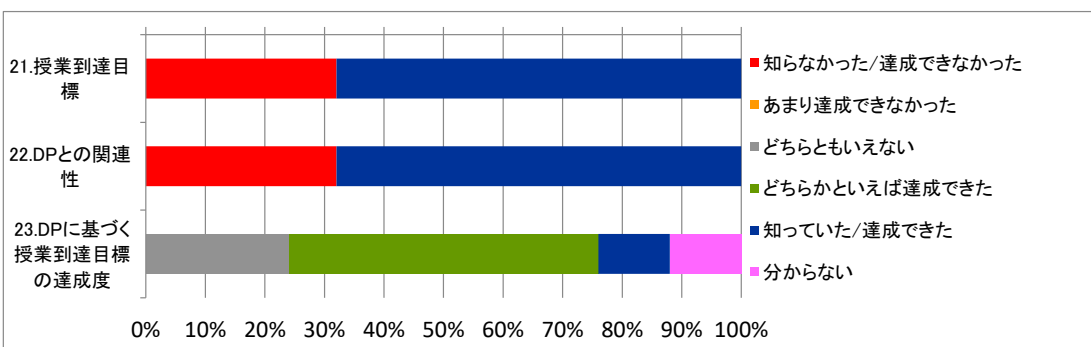
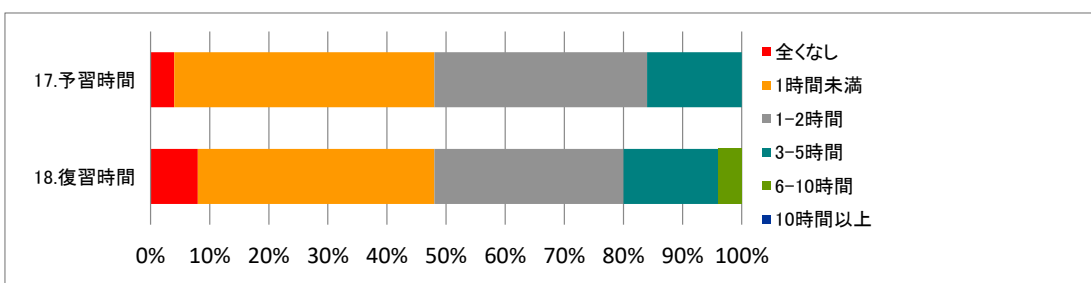
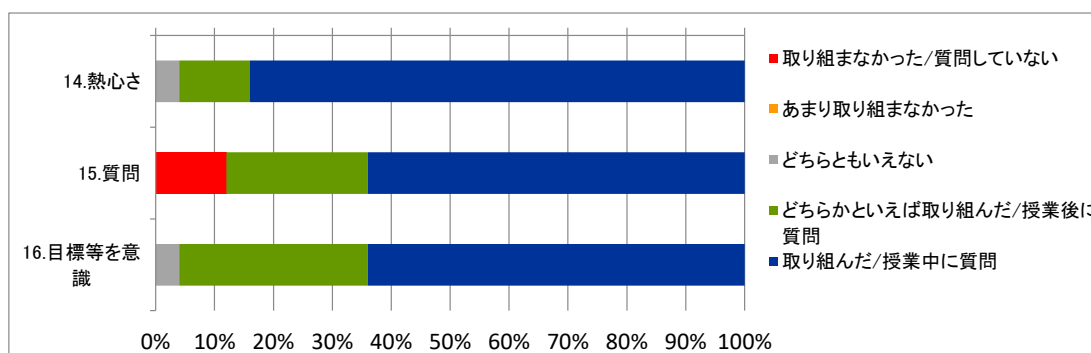


19 学生の満足度(知識習得)

20 学生の満足度(達成感)

24 総合

(軸単位:5段階評点)



科目名

82 臨床実習Ⅱ（地域）（PT）（3年）

担当教員

松村・加藤・宮津・木村・臼井・山田・齊藤・濱田・藤本

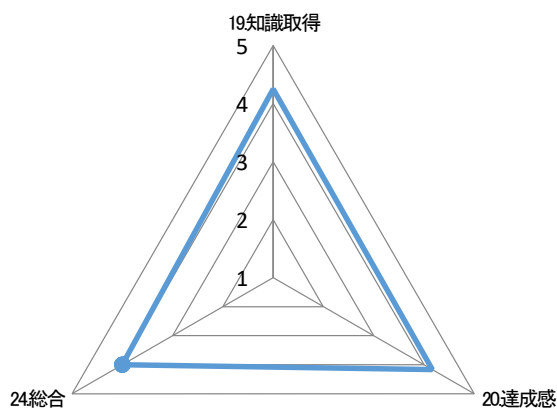
専攻・配当年次

PT 3年

回答者数

24 名

◆集計データ結果について

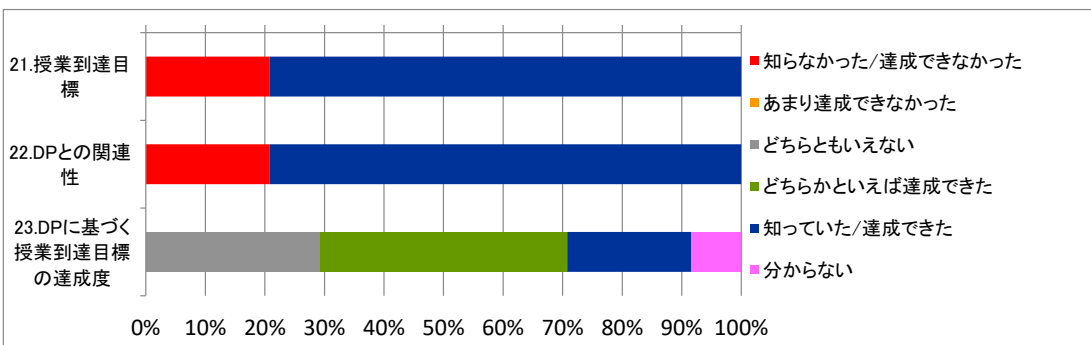
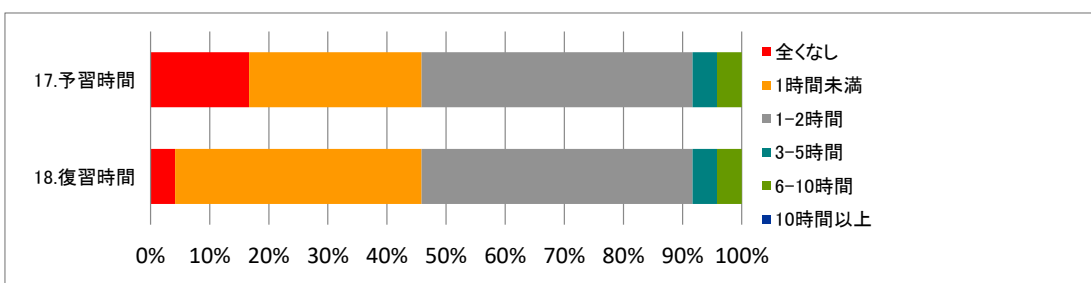
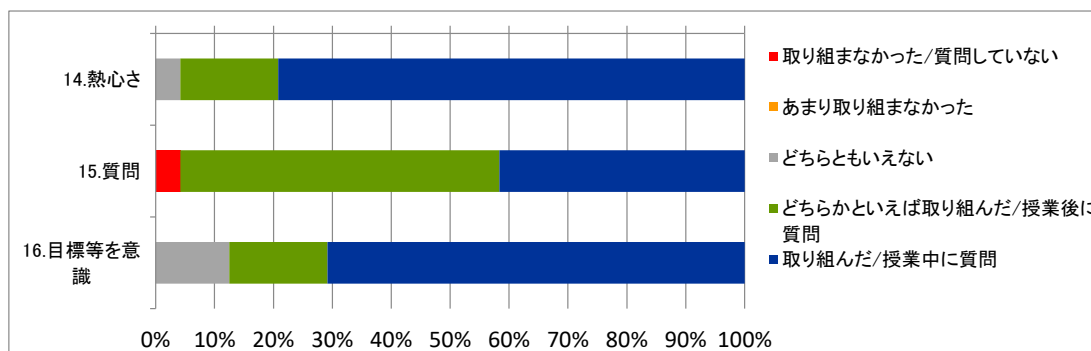


19 学生の満足度(知識習得)

20 学生の満足度(達成感)

24 総合

(軸単位:5段階評点)



科目名

83 臨床実習Ⅲ（評価）（PT）

担当教員

松村・加藤・宮津・木村・臼井・山田・齊藤・濱田・藤本

専攻・配当年次

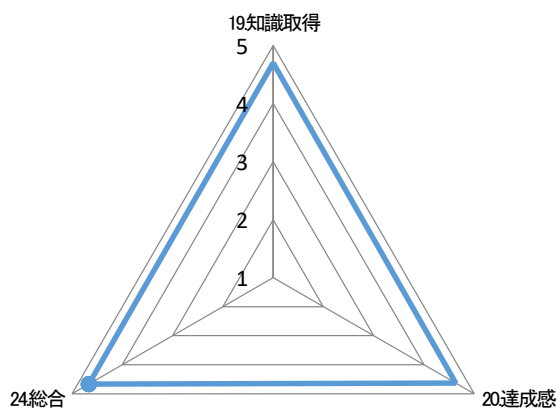
PT

3年

回答者数

30 名

◆集計データ結果について

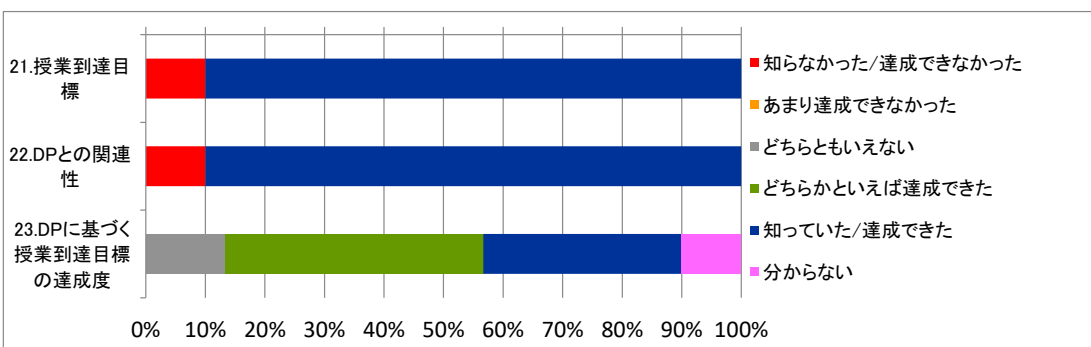
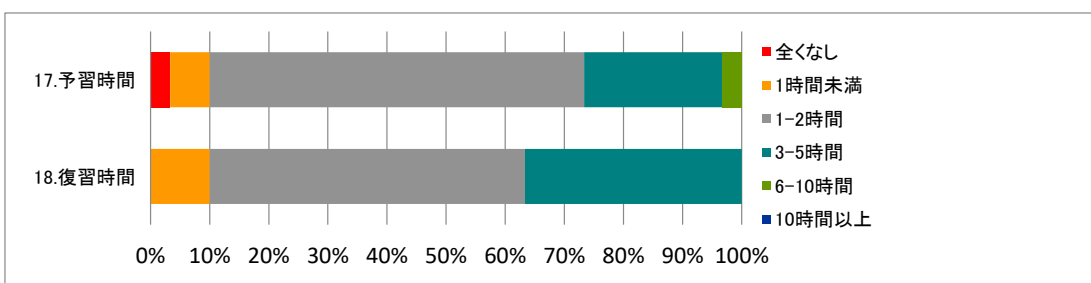
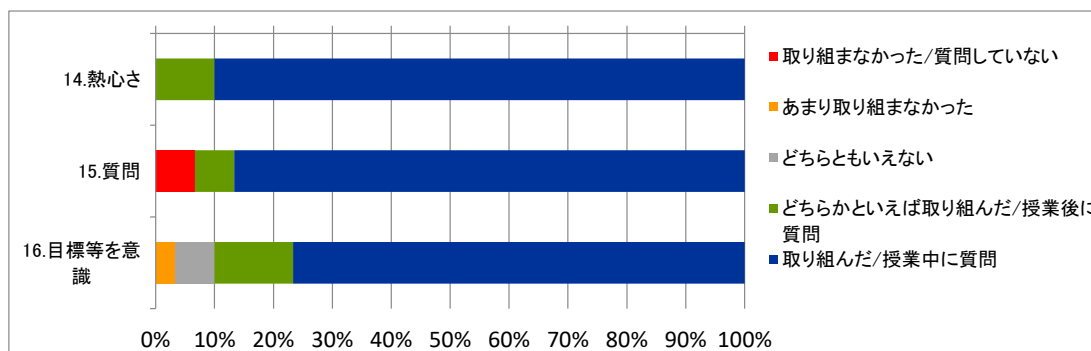


19 学生の満足度（知識習得）

20 学生の満足度（達成感）

24 総合

（軸単位：5段階評点）



科目名

84 臨床実習Ⅳ（総合1）（PT）

担当教員

松村・加藤・宮津・木村・臼井・山田・齊藤・濱田・藤本

専攻・配当年次

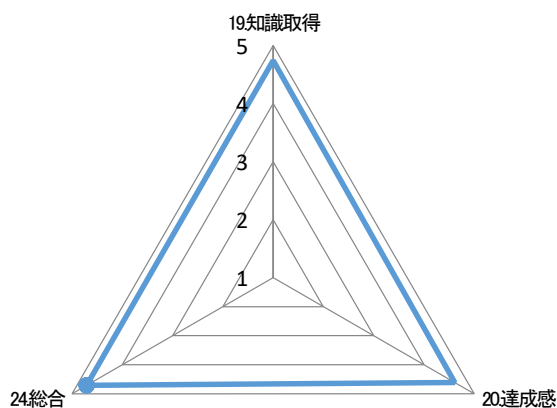
PT

3年

回答者数

31 名

◆集計データ結果について

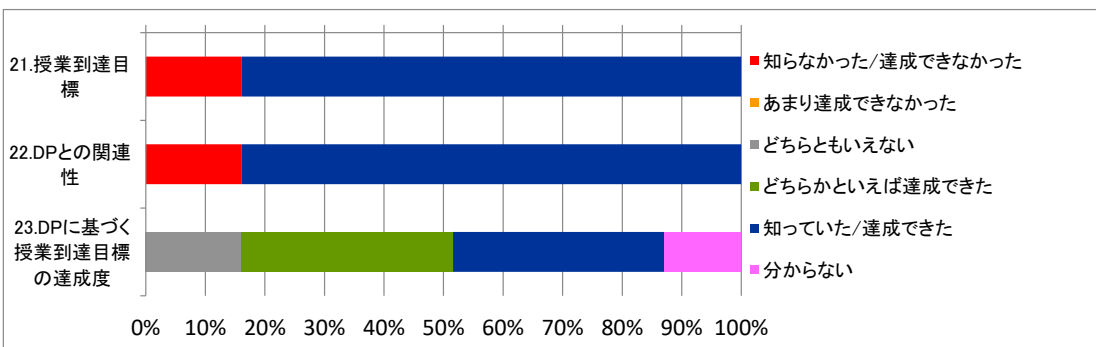
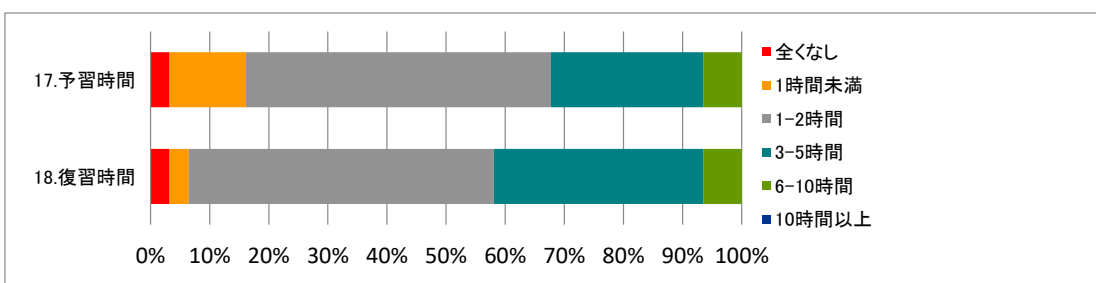
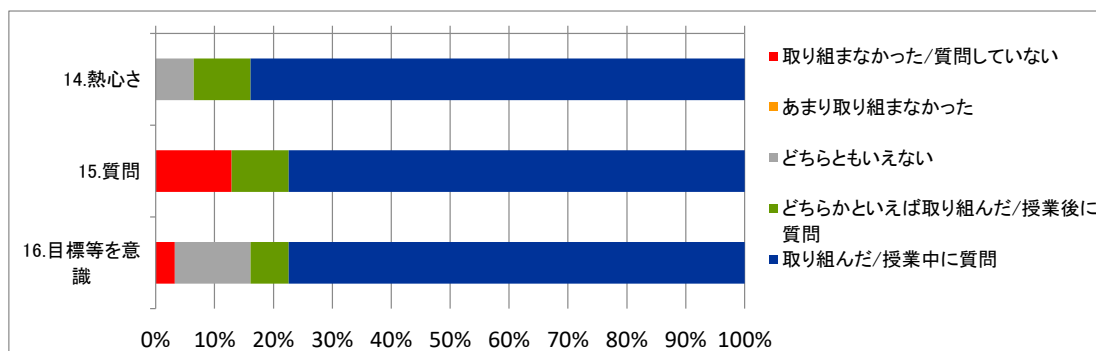


19 学生の満足度(知識習得)

20 学生の満足度(達成感)

24 総合

(軸単位:5段階評点)



科目名

85 臨床実習Ⅴ（総合2）（PT）

担当教員

松村・加藤・宮津・木村・臼井・山田・齊藤・濱田・藤本

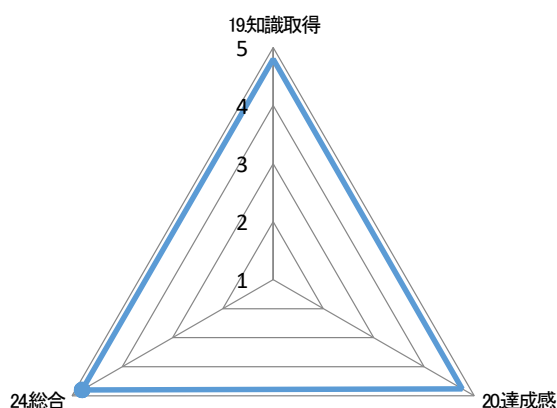
専攻・配当年次

PT 3年

回答者数

25 名

◆集計データ結果について

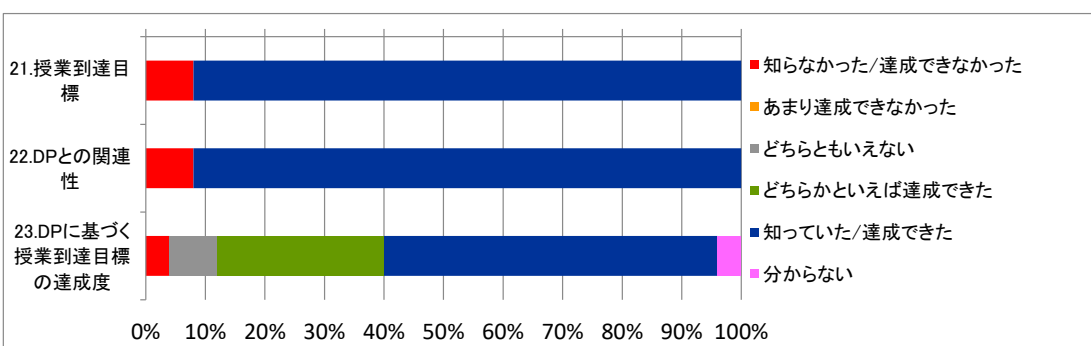
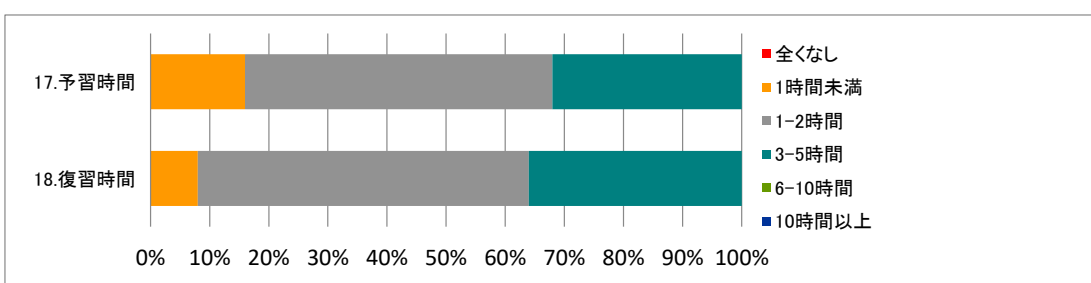
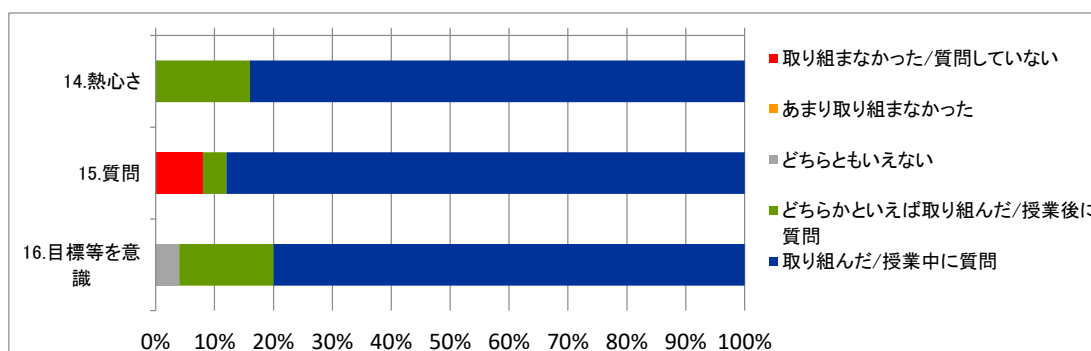


19 学生の満足度(知識習得)

20 学生の満足度(達成感)

24 総合

(軸単位:5段階評点)



科目名

86 卒業研究（PT）（3年）

担当教員

加藤・宮津・木村・松村・臼井・山田・齊藤・濱田

専攻・配当年次

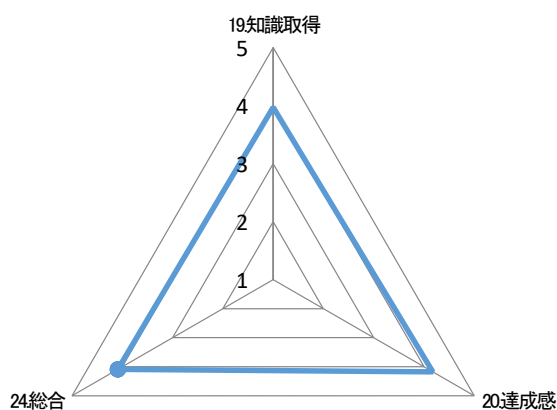
PT

3年

回答者数

34 名

◆集計データ結果について

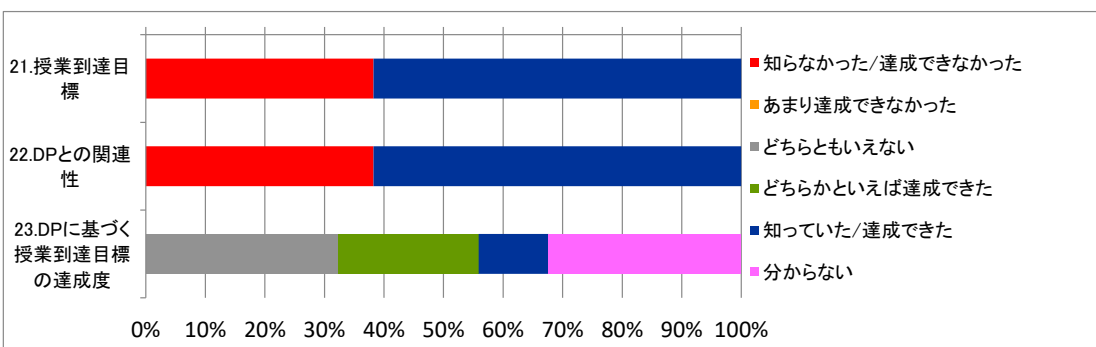
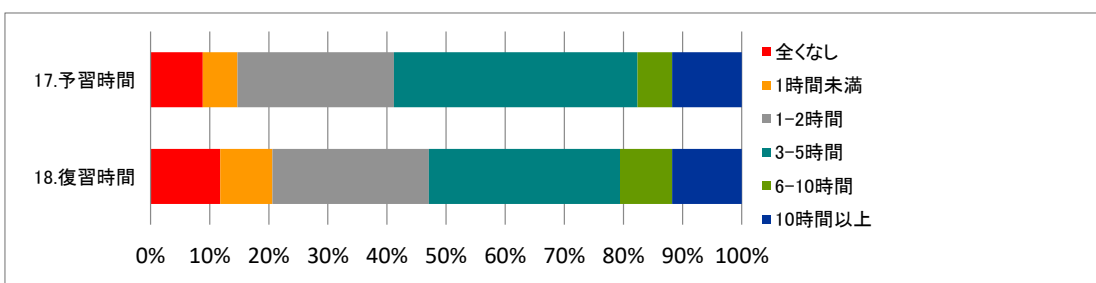
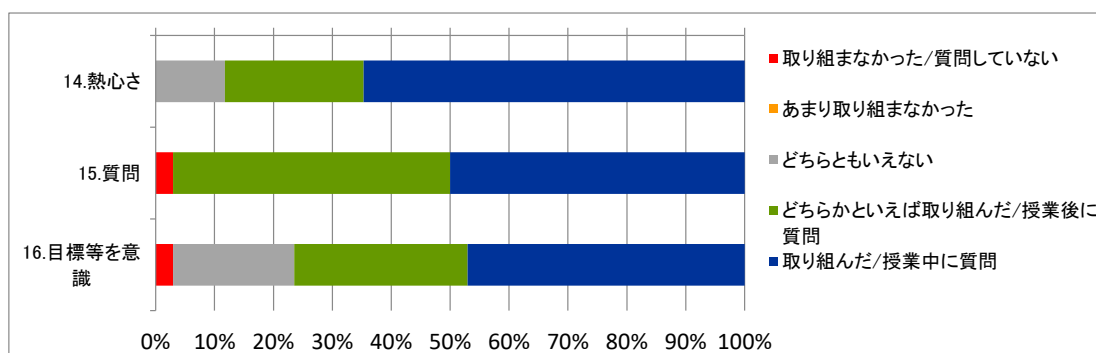


19 学生の満足度（知識習得）

20 学生の満足度（達成感）

24 総合

（軸単位：5段階評点）



科目名

87 総合演習（PT）（3年）

担当教員

石川・加藤・松村・宮津・木村・杉山・臼井・山田・齊藤・濱田・藤本

専攻・配当年次

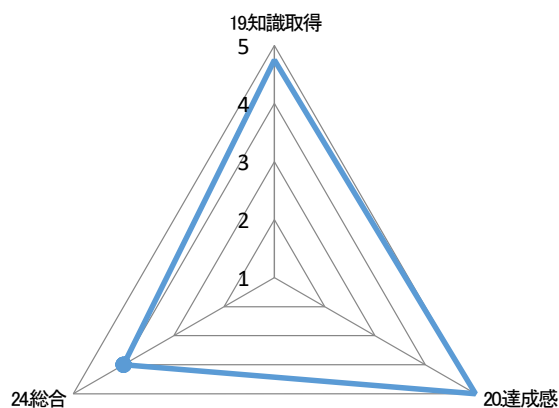
PT

3年

回答者数

4 名

◆集計データ結果について

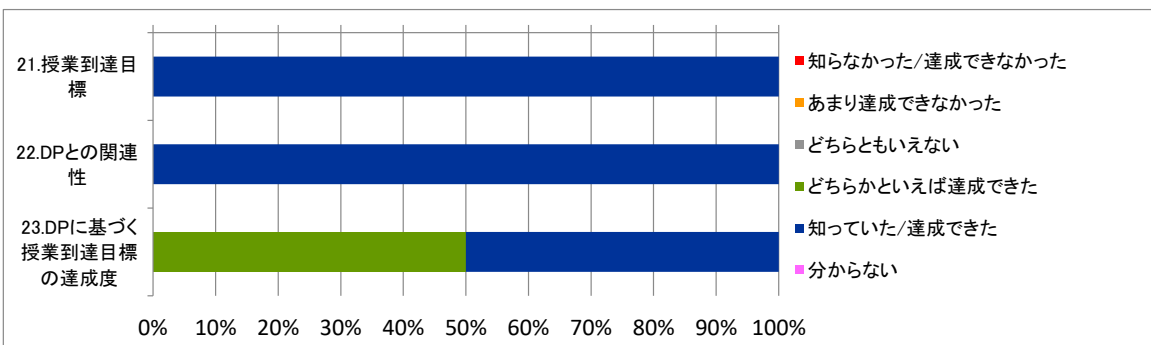
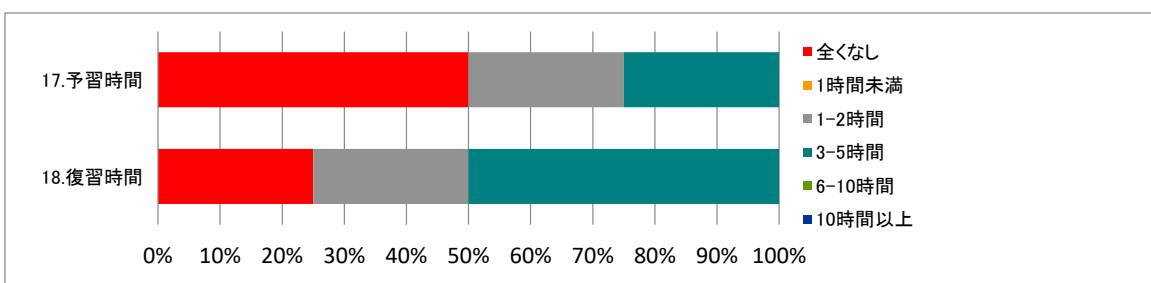
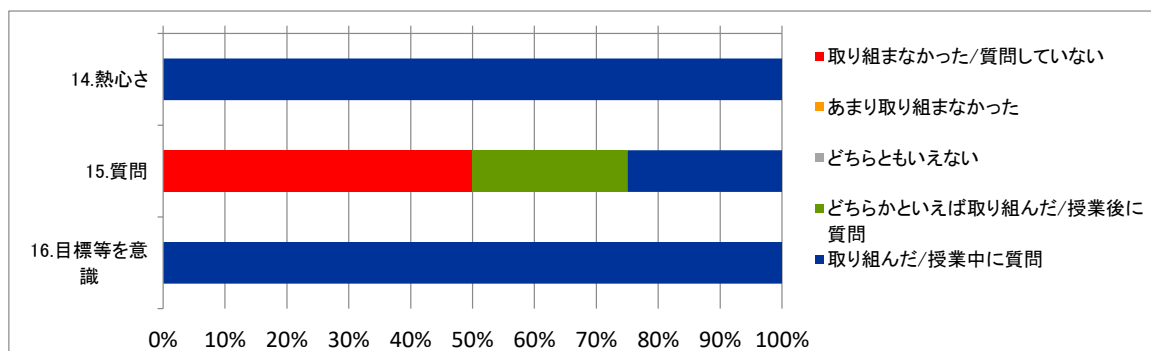


19 学生の満足度(知識習得)

20 学生の満足度(達成感)

24 総合

(軸単位:5段階評点)



科目名

88 作業療法概論

担当教員

廣渡 洋史

専攻・配当年次

OT

1年

回答者数

23 名

◆集計データ結果について

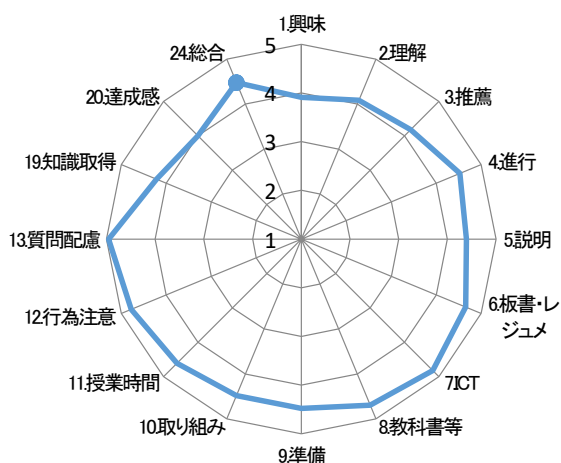
概ね高評価であったことに安心している。その中でも知識取得、達成感、興味、理解の点が低値だったことについては改善する点かと思う。特に、興味が低値であるのは本科目の特性なのではないかと思う。これまで受けてきた教育にはない「作業療法」という限られた中での歴史や発展の経緯について興味がわきにくい点は理解している。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

概ね授業が楽しかったという意見が多く、安心している。ただし、グループワークでの進捗に格差があり、暇をもてあます場面があったことは把握している。その点は別のメニューを検討している。一人だけ講義を増やして欲しいという意見があったが、本科目の特性上、一方的な授業となると学生が眠ってしまうことが想像できる(経験上)のでそれは避けようと思っている。

◆今後の改善に向けて

本科目は、作業療法の歴史やその中心的人物について、膨大な情報を整理する内容があり、学生として授業に集中しづらい部分がある。現在の授業方法は、学生の主体的行動に繋がっているように思われるので、その点を維持しつつ、進捗状況による弊害の解消に努めたいと思う。また、作業療法士になりたいという思いが強くなるような教材を用意して参りたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
評価点)

科目名

89 臨床運動学 (OT)

担当教員

渡邊 豊明

専攻・配当年次

OT

1年

回答者数

13 名

◆集計データ結果について

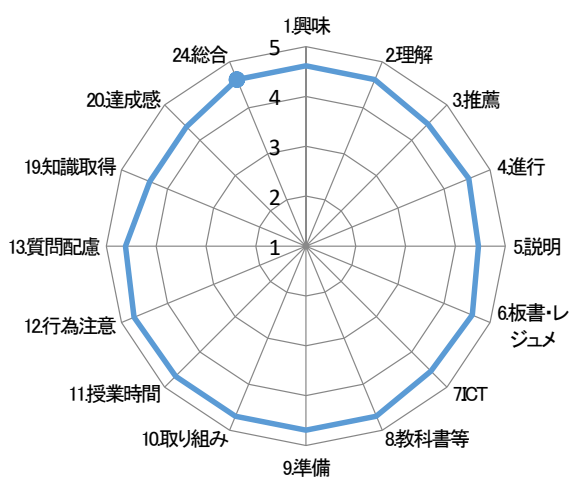
総合は4.6で、平均は4.3～4.7であり、高い評価を得ることができた。知識取得や達成感では全体に比べてやや低い4.38の評価であった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

課題の提出フォームで指示がわかりにくいことがあった。学生が理解しやすい指示に改善し、入力のタイミングなど明確にアナウンスをしていきたい。

◆今後の改善に向けて

座学であるが、実習形式で動作を学び、各回で課題を提示した。そのため、考えながら授業に取り組むことができたと思われる。臨床運動学は応用的な学びが多いため、知識の習得や達成感が湧きにくい可能性が高いが、学生目線でわかりやすい授業内容を考えていきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
 19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階
 評点)

科目名

90 基礎作業学

担当教員

松田 裕美

専攻・配当年次

OT

1年

回答者数

18 名

◆集計データ結果について

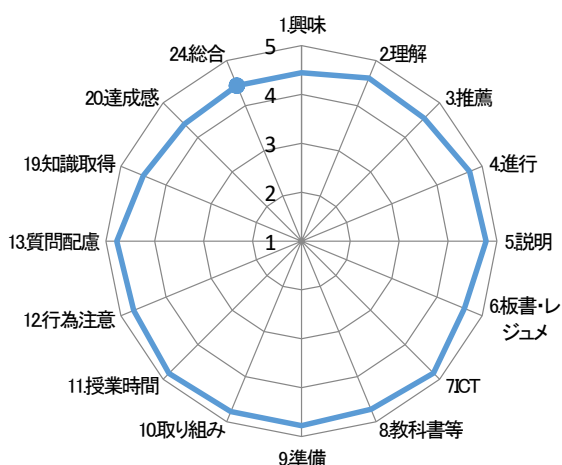
受講生の約8割の学生からの回答を分析する。全ての項目で5段階評点中4.3以上の得点がみられ、概ね本科目の目標は達成できたと考えられる。特に、ICTの活用や説明などを含む授業評方法では4.7以上の得点がみられたことから、学生にとっても授業へ取り組みやすい環境を提供できたと考えられる。一方で、達成感など学生の満足度や質問の有無については、一回の授業の中での可視化した目標設定やGoogleフォームでの質問の聴取以外にグループでのディスカッションなどを通じた質問の場の設定など工夫を行うことで改善に努めていく。また、予習復習時間については、回答者の約半数が「全くなし」と回答をしているため、予習復習の要点などについても授業内で取り扱う必要性を感じた。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

自由記載の内容は概ねポジティブな意見が多くみられた。特に、「グループ活動があり、集中しながら授業を受けることができました。」などとグループディスカッションを用いた取り組みやGoogleフォームを用いた授業の要点のまとめや振り返りの共有を行った点に対するフィードバックが多くみられた。グループディスカッションについては今後も継続して実施し、さらに前回の授業内容の振り返りについてもグループで実施するなどして、より各授業内容の繋がりを意識した介入を実施していきたいと考える。

◆今後の改善に向けて

本科目は1年次の前期に開講する科目であるため、初めて作業療法について学修する学生の基礎の科目の一部であると考えられる。概念的な理解にとどまらず、作業療法で扱う理論が実際の生活場面の中で具体的にどのように用いられているのかをグループディスカッションなどを通し、具体的な理解が進むよう教科書以外にも図表や動画など可視化した教材を用いて教示していくことを目標とする。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
 19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名

91 基礎作業学実習

担当教員

松田 裕美・森下 章生・後藤 秀樹

専攻・配当年次

OT

1年

回答者数

12 名

◆集計データ結果について

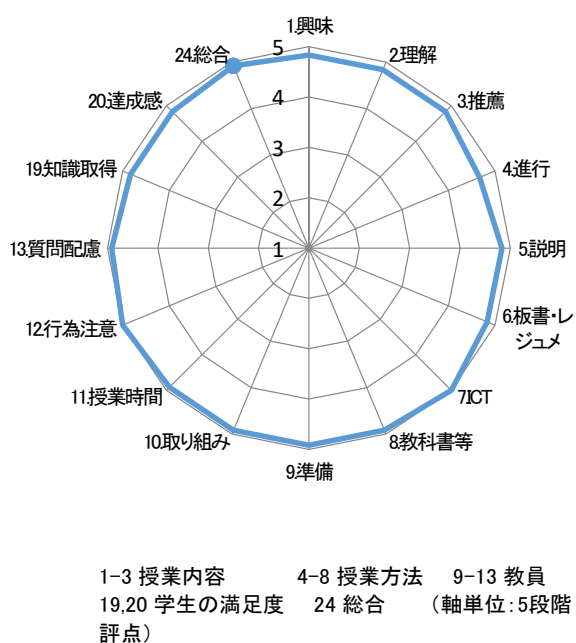
受講生22名中12名(54.55%)の回答を分析する。全項目の平均は4.88(SD=.081)であり概ね高評価であった。学生の意識として、目的意識や熱意をもって授業に取り組めた、質問ができた7割強の学生が回答しているため、今後も学生自身が主体的に行動できる環境づくりに努めていく。一方で、DPとの関連、授業到達目標では回答者の3割ほどの学生が「質問していない、知らなかった」と回答があった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

学生の自由記載にも概ね肯定的な回答がみられた。特に「藤細工や陶芸、革細工など普段あまり馴染みのない作業を通して、作業療法でどのように行うのか、どのような効果があるのかを自分達で体験しながら出来た点が良かった。」との意見からも、本科目が今後の臨床実習などに繋がる準備段階として位置づけられていると感じた。また、グループワークを取り入れた授業形態に対しても肯定的な意見が散見されたため、今後もグループワークを通じた学びを後押ししていく。

◆今後の改善に向けて

DPとの関連、他の科目との関連などを教示する機会を意識的に作ることで、本科目の位置づけが明確となることが考えられる。よって、今後はガイダンスだけでなく、適宜授業の中で上記について教示していく必要がある。作業種目については学生にとって新奇性があり、治療にて応用的に用いることができる作業を今後も提示する必要があると考えられる。



◆集計データ結果について

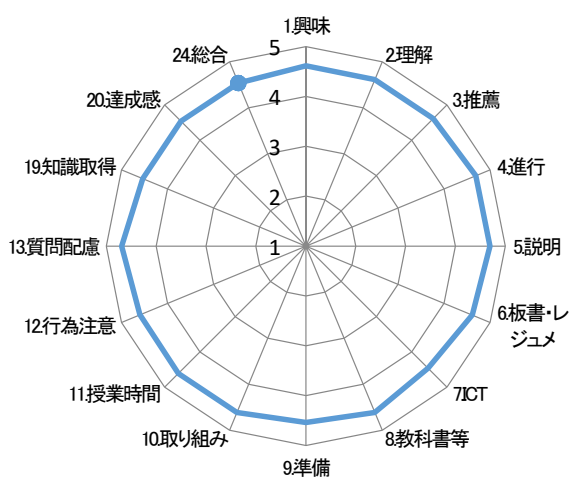
概ね高評価であったので安心した。いずれの項目も同程度の値でムラのない評価であったが、質問する機会が少なかった点、予習や復習の機会が少なかった点は今後の課題であることが読み取れる。今回は作業療法倫理と関連する部分もあったことと、臨床実習でそれなりに作業療法士の業務を経験したことで、管理業務の理解に繋がったとみている。授業の特性上、若い学生諸君にとって管理とは何かは少々難題であったことは歪めないが、学生なりに将来の作業療法士像をイメージして社会の仕組みとともに医療・保健・福祉での業務について考える機会を提供できたように思われる。グループワークを取り入れることで他者の意見を尊重しながらそれぞれの意見を出し合うこと、それらを十分に検討する雰囲気となるよう心掛けたが、それらが小難しい本科目の難点を克服できたように感じている。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「一番楽しい授業であった」という意見は教員として最高の褒め言葉として受け止めている。その点では「楽しい」が授業内容の理解に繋がるという自身の授業方針に合致でき、非常に満足している。テストをもう少し難しくしても良いのではという意見もあるが、知識よりも考え方への導きについて問うた内容であり、最低限必要な知識の確認の意味より想定した内容であった。ただ、教科書は管理という特性上、学生にとってすべての項目が理解しやすい内容でないことは承知していたので、今後はそれらをいかに理解しやすいように解説するかを課題としていきたい。自由意見では特になという意見が約半数あったので、意見として表出できるような授業内容を心掛けたいと思う。

◆今後の改善に向けて

上記にも記したが、本科目は、学生諸君にとっては少し小難しい、固い内容の多い授業である。そのため、全てを網羅することは困難であるが、重要なポイントはイメージしやすいように工夫する必要があると考えている。そのため、自身の過去の経験や他資料の経験談等を盛り込み、それによって各学生の考えをグループワーク形式で引き出し、それを基に新たな考えを生み出し、想定に盛り込むことができるような工夫が必要であると考えている。また、今回の意見であったように、「楽しい」は授業の理解にとって大きな促進剤となる故、多くの学生が楽しめるような工夫をしたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
評点)

◆集計データ結果について

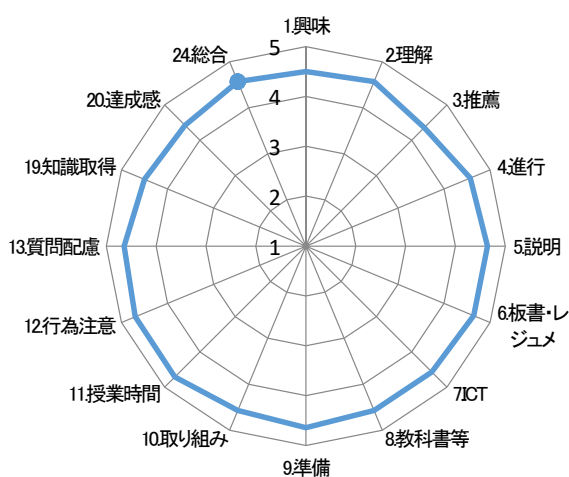
概ね高評価で安心している。授業始めに作業療法における「倫理」というと学生からは難しそうという意見が多かったように、本来はそれをお伝えするのも理解するのも苦労する内容かと想像できる。そんな中、学生諸君はグループワークを通して自分なりに発展させて考え、理解できたように感じる。但し、作業療法士としての倫理は医療人としての根幹を成す部分でもあり、ひとつ間違えると医療から逸脱するとともに損害賠償等の法的な問題に発展する可能性もある。その点では、今回、事例を踏まえながら理解していく作業は重要であったと思われる。内容的に予習が難しい点は歪めないが、復習はできるだけ実施してもらえようようにすることが今後の課題かと思われる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「社会人になってから大切な知識」、「必要になったらもう一度振り返りたい」といった意見は、少し遠いと思っていた堅苦しい内容ではあるものの、学生自身にとって重要であるという理解を促せたのだと思う。また、作業療法管理と本科目の共通点が多かったことから、流れとして最終的に倫理の内容の重要性を理解しやすかった一面もあったかと思われる。但し、専門的で分かりづらい部分もあったとあるように、その他資料としての補助材料を用意する必要がある。楽しく発言しやすい環境であったという意見の通り、堅苦しい内容であるが故にそのような環境は重要かと再認識している。意見として半数においては特に意見の記載がなかったため、意見が言えるような内容にする必要がある。

◆今後の改善に向けて

概ね高評価であったため、大きな変更の必要性はないと考えている。受講学生が3年生であることもあり、臨床実習等で作業療法士としての倫理が少し身近に感じられるとも思われるので、できるだけ多くの事例を集めて授業の題材を増やしていきたい。目標等の意識、質問の機会が少ない部分もあったので、それらを明確にしていくこと、質問できる雰囲気作りをしていきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階
評点)

科目名

94 作業療法評価法

担当教員

清水 一輝

専攻・配当年次

OT

1年

回答者数

18 名

◆集計データ結果について

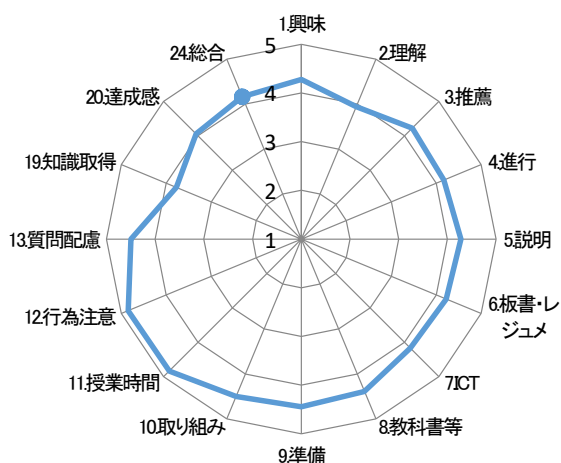
おおよそ4.0以上の回答であったが、「19知識取得」の設問では4.0を下回る結果であった。「2理解」においても低値であった。学生同士のグループワークを主に授業を構成していたが、各回の目標や達成度などを確認できると良かった。また、予習、復習をほとんどの学生が行っていないことから、学生の理解度が十分でなかったと思われる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

グループでの学習に対する肯定的な意見がある一方で、教科書での学習など教員からの知識の教授を望む意見もあった。本科目ではグループ学習を中心に、学生には学び方を身につけることも大きな目的として実施したことを伝えている。一定の学びがあったことが伺えるが、学修内容の評価を適切に実施し、不足分を教授するなどの対応が必要であった。

◆今後の改善に向けて

今後もこの科目においては、グループでの学習を中心に、主体的に学ぶ姿勢を身につけていけるように授業を構成していきたい。しかしながら、学修への取り組み方がまだ身についていない学生にとっては知識の修得が十分にできない可能性もあるため、各回で修得すべき知識の目標やその評価を適切に設定し、学修の支援をしていけるように対応したい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
 19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
 評価点)

科目名

95 作業療法評価法実習 I

担当教員

渡邊 豊明・清水 一輝

専攻・配当年次

OT

1年

回答者数

10 名

◆集計データ結果について

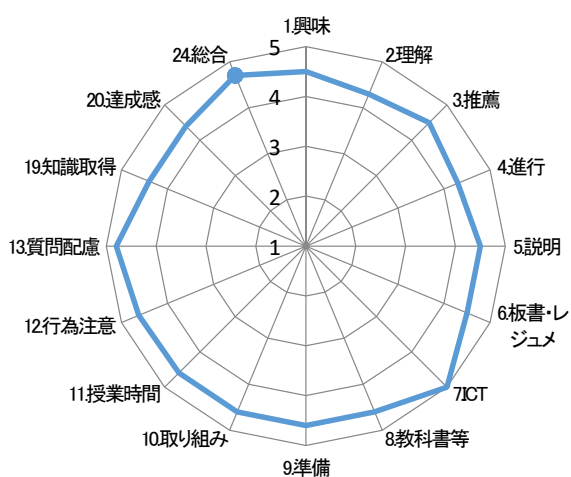
本科目は、ICTで5、質問配慮で4.8と高得点であった。理解や進行で4.3、知識取得や達成感で4.4とやや低めの点数であった。総合得点は、4.7と高い得点を示していた。科目の予習なしが6人存在しているが、復習はほぼ全員が実施されていた。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

概ね良いコメントが多く、今後も学生が理解しやすい学習環境を整えていきたい。

◆今後の改善に向けて

予習していない学生が多く存在したため、予習箇所をわかりやすく事前に説明し、予習を促していきたい。理解については、復習の時間をとることや質問の時間を確保して、理解度や達成感を高めていきたい。実技試験が大きな割合を占めており、学生が放課後に残って勉強がしやすいよう、教室の手配や勉強時間に同席できるよう心掛けていきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
評点)

科目名

96 作業療法評価法実習Ⅱ

担当教員

横山 剛・松田 裕美

専攻・配当年次

OT

2年

回答者数

16 名

◆集計データ結果について

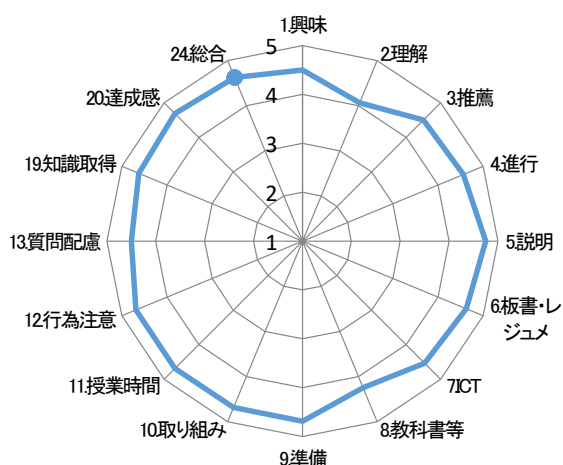
受講生の約5割の学生からの回答を分析する。全ての項目で5段階評点中4.0以上の得点がみられ、部分的に本科目の目標は達成できたと考えられる。特に、達成感では4.6の得点がみられ、基礎的な面接技術を修得することができたと考えられる。一方で、予習復習時間については、回答者の半数以上が「全くなし」と回答をしているため、予習復習の要点などについても授業内で取り扱う必要性を感じた。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

学生の自由記載では、「基礎的ではありましたが、面接の方法や質問の仕方、どのように会話を広げれば聞きたい話を引き出せるかなどを考えながら実践できたので、とても良かったです。また、フィードバックでは親身になって話を聞いて頂けてとても良かったです。」などとフィードバックに対する記載が多くみられた。一方で、フィードバックに対し、「すごく熱意は感じられたがフィードバックで泣いて帰っている子がいたので、もう少し伝え方などの工夫があるといいと思った。」との意見も見られ、多様化する学生に応じてフィードバック方法や内容を変容させていくことが求められる。

◆今後の改善に向けて

OSCEの1つに医療面接が位置付けられている。本科目でも、作業療法のプロセスや手段の1つとして必要な面接技術について、学生同士の面接の実践を通して学修する機会となる。そのため、実施方法の検討を行いながら今後も継続していくことが望ましいと考えられる。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
 19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆集計データ結果について

すべての平均が4.7以上であり、概ねバランスの取れた評価であった。学生の意識として、熱心に取り組んだか(14)、目標を意識したか(16)では、多くの学生が「取り組んだ」「どちらかと言えば取り組んだ」と回答した。一方で、質問(17)は、約8割の学生が「していない」と回答した。予習・復習時間を少しでもとった学生が6.5割であった。全員課題や小テスト対策をしていたはずであるが、ここに時間として計上しなかった学生が3.5割いたことになる。なお、本アンケートの回答率が例年以上に低いいため、全体の意見を反映しているわけではないことは念頭に置く必要がある。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

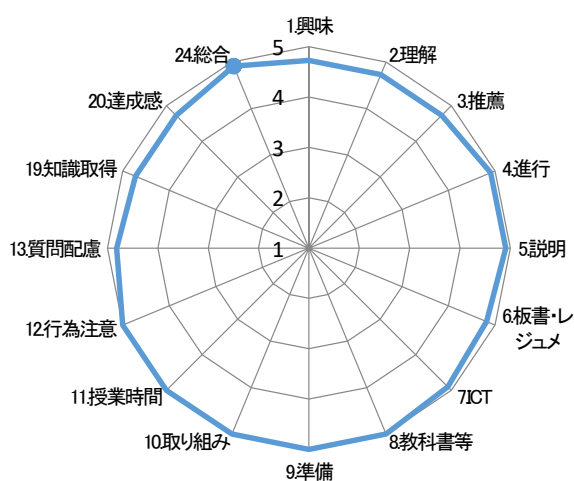
授業の方法については「グループワークをしすぎなかった所。しすぎると雑談が始まってしまうと思うので、適度にグループワークを挟んでいた点が良かったと思う。」「周りやグループで話し合っ理解を深める事ができた点が良かった。」「小テストや課題を毎時間やることにより、理解が深まり知識取得に繋がった」「色ペンで一緒に塗ることで理解が深まった」など、グループワークを取り入れたり、視覚的に理解を深める取り組みを評価する意見が挙がった。

また、教員の説明については「説明がとても分かりやすかった」「わかりやすかったです。覚えるのが大変ですが頑張ります。」との肯定的な意見が挙げられた。

◆今後の改善に向けて

本科目は、身体障害領域の作業療法を学ぶ、入門編の位置づけである。今までに学んだ解剖学、生理学や運動学の知識が臨床でどのように繋がっていくかを学生は理解する必要があり、特に脳神経系に関する復習には時間を割いた。図や別途資料を用意したり、演習を交えたり、課題の中で作業療法との繋がりを考えてもらったり、小テストで基礎知識を復習したり、様々な方法を駆使して学生理解の促進を試みている。課題へのコメントには、学生の知的好奇心や向学心を引き出すようなことを加えるようにも心掛けている。

一昨年度から本科目の配置が1年次となり、解剖・運動・生理学の基礎知識が不十分な状態での受講となったため、基礎的事項の復習や丁寧な解説を心掛けた。前述の通り、今年度は、本アンケートの回答率が例年になく低く、受講生全体の様子を反映しているわけではないため、反省点が見えづらいところではあるが、筆記試験の記述問題では、根拠を示しながら解説する、という力が十分でない学生が少なくないようであった。今後はこの点に着目しながら授業を構成していきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
評点)

科目名

98 精神障害作業評価学

担当教員

松田 裕美

専攻・配当年次

OT

2年

回答者数

17 名

◆集計データ結果について

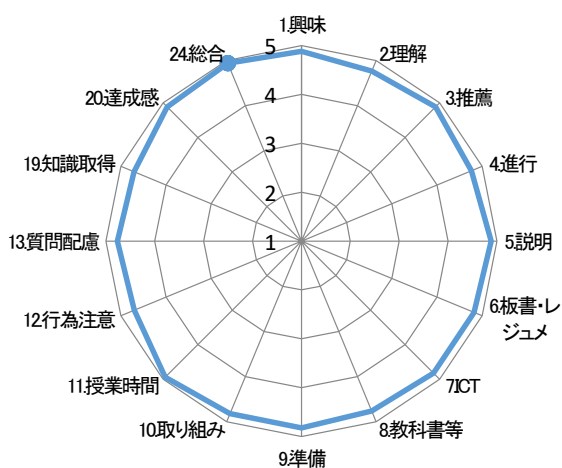
受講生の約5割の学生からの回答を分析する。全ての項目で5段階評点中4.7以上の得点がみられ、概ね本科目の目標は達成できたと考えられる。特に、総合評価では、4.9以上の得点がみられた。基礎的な精神科作業療法の評価の知識などを実際の国家試験問題を踏まえたことで、学生にとっても目的が明確で取り組みやすかったのではないかと考えられる。一方で、予習復習時間については、回答者の半数以上が「全くなし」と回答をしているため、予習復習の要点などについても授業内で取り扱う必要性を感じた。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

自由記載の内容は概ねポジティブな意見が多くみられた。特に、「症例検討を通して実際の国試問題に触れることができたのがすごくよかったと思う。精神の勉強を解剖生理と関連付けて勉強できたこともすごく勉強になった。」などと実際の国家試験問題に基づいたグループディスカッションに対するフィードバックが多くみられた。また、精神科作業療法に対する関心や興味が持てたとの意見もあり、他の精神科作業療法を扱う科目の導入としてうまく位置づけることができたのではないかと考えられる。

◆今後の改善に向けて

本科目は、2年次の前期に開講しており、可視化されにくい精神障害に対する作業療法を学ぶ導入の役割を担う科目であると考えられる。よって、身体障害に対する作業療法プロセスの類似点を具体的に示していくことも重要であると考えられる。また、精神医学の知識を踏まえた授業構成など他の関連科目と紐づけた理解となるよう努めることで、学生の理解度や学習に対する動機の向上に繋がると考えられる。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
 19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆集計データ結果について

総合評価は4.3となった。各項目は、4前後の評価であった。昨年度同様に感染症対策に伴いオンラインと対面を組み合わせて授業を行った。授業内容項目の「理解」に対して、小児分野をよりイメージしやすくなるような取り組みが必要であるとする。今後、特に「興味」「理解」などの向上を目指したい。

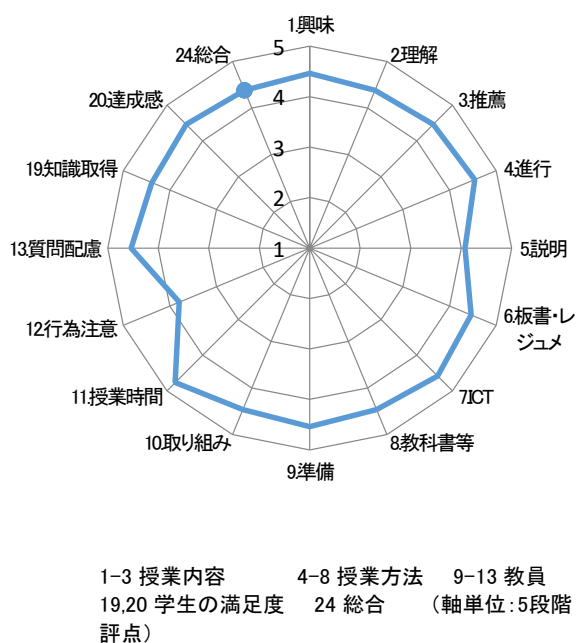
復習時間は学生の約30%が1時間未満取り組んでいることから、「知識取得」に繋げたい。授業開始時に小テストを実施しており、Googleフォームで質問を受け付け、適時回答を実施した。授業達成目標は約80%が知っていることから、「達成感」に繋げたい。今回の集計データを参考にして、次年度に活かしていきたい。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

実施内容については、シラバスに記載されている内容で進めていた。実践形式を行ったことで理解が深まったコメントが見られた。症状を理解する上で実際に体を動かしながら取り組んだ事で理解が深まったようである。声が聞き取りづらいというコメントがあるため、講義時にボリュームの確認を行いたい。今後も実践形式を継続して、満足感や達成感を増やせるように努めていきたい。

◆今後の改善に向けて

次年度から、小児のイメージがしやすいように適時オープンな教育リソースを活用したいと考える。授業テーマは疾患別も取り入れて、症状の理解を深め知識向上に努めていきたい。資料の配布や小テストの実施は、学習機会を作る時間に繋がっている事が考えられるため、今後も継続して実施していく予定である。講義時に授業目標を共有できるように心掛けたい。講義について分からない点など質問できる時間をつくり、こちらから問いかける等を行い授業理解を高めるとともに知識定着、授業満足度を向上させていきたい。



科目名

100 作業療法研究法

担当教員

廣渡・横山・加藤・渡邊・清水・松田・外倉

専攻・配当年次

OT

2年

回答者数

16 名

◆集計データ結果について

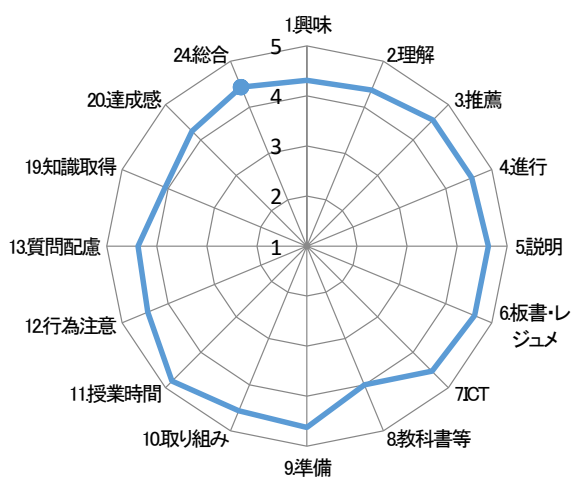
概ね評価が高く安心した。その中でも教科書等、知識取得がやや低値であった。教科の特性上、まずは基本的な事項をおさえるため資料中心で行ったことと、実践編としてではなく基本的な知識の修得を目的としていることが起因していると思われる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

ネガティブな意見はなく、学生が各々真剣に取り組んでくれたという印象がある。研究という言葉で初めから難しいと決めつけている部分があるが、そうではなく、臨床における疑問を素直に形にしていくことが伝わったのではないかとされる。また、各先生の研究に関わるお話も研究内容が多彩であることも良い効果となったように思われる。

◆今後の改善に向けて

概ね良い評価であったので、その点は踏襲していきたいと思う。ただ、その中でも低値であった部分は見直しをしていきたい。資料で示したものの応用については、テキストのどの部分に該当するかを伝えるようにすることも重要である。また、知識取得は実践がないため、どうしても行き届きにくい部分であるが、実例を検討することで少しでもその部分を補填できるよう努力したい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
 19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
 評点)

科目名

101 作業治療学理論

担当教員

清水 一輝

専攻・配当年次

OT

2年

回答者数

11 名

◆集計データ結果について

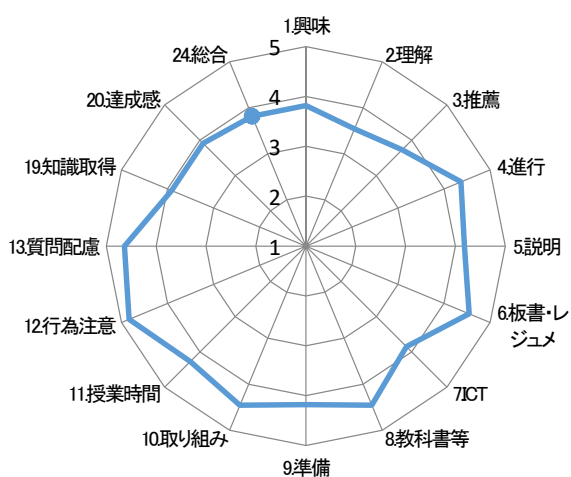
いくつかの項目で4.0を下回る結果となった。学生からの自由記載にもあったが、グループ毎に理論について学習し発表する講義内容であったことから学習成果を十分に感じられなかった学生が多くいたと予測される。また、予習や復習の時間が全くないと回答した学生が3割以下であり、そこからも学習の動機付けの不十分さがあったと考えられる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

肯定的な意見として、自ら学ぶ授業形態により学習効果が高かったというコメントがあったものの、上記の通り学生毎に学習成果の差が生じていたことがうかがえるコメントがあった。作業療法実践者として、自ら学び学習する姿勢を身につけてもらえることを期待しているが、その理解を十分に促すことができなかったと考えられる。

◆今後の改善に向けて

作業療法理論は作業療法実践においてとても重要である。しかしながら、その理解をするためには本科目の限られた授業時間だけでは到底難しい。本年が初めての講義担当であったものの、受講者にどこまでの理解を促すべきであるかの基準に曖昧さがあったと振り返る。今後に向けて、知識として得られる学習目標だけでなく、具体的な態度目標等を設定することで、学生に期待する学習行動など明確にし、学生の学習の動機付けができるように授業の運営をしていきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
評点)

科目名

102 作業療法治療学実習

担当教員

渡邊・廣渡・加藤・清水・外倉・横山・松田

専攻・配当年次

OT

2年

回答者数

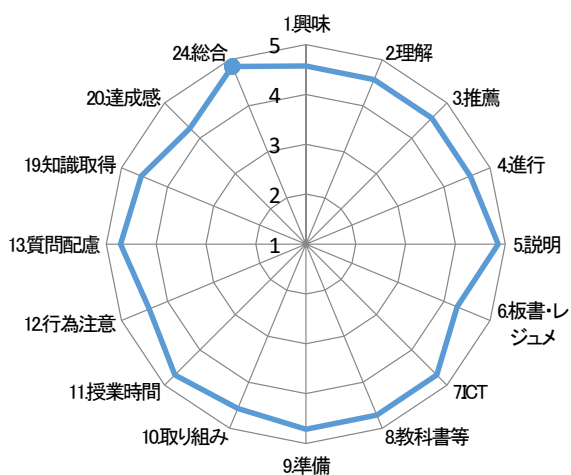
7名

◆集計データ結果について

総合で4.8と高い評価を得ることができた。しかし、回答者が7人と少なく、全体の評価を反映していない可能性がある。高評価の中にも少し点数が低めの項目がある。6板書・レジュメは4.28、12行為注意は4.4であった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

教員によって少し教え方などが違ったという意見があった。できるだけ教科書の示すやり方を統一し、混乱が起らないように対応していきたい。



1-3 授業内容

4-8 授業方法

9-13 教員

19,20 学生の満足度

24 総合

(軸単位: 5段階

評点)

◆今後の改善に向けて

実技試験前に実施した内容を忘れていたケースが多いように感じた。そのため、定期的に復習をできる機会を設けたい。また、実習に向けた大切な知識も加え、総合的に実習に向かえる土台が築けるように授業の計画をしていきたい。配布資料は評価用紙だけであったが、必要な知識が補えるように追加資料も検討していきたい。実習中に私語が目立つ場面があったと思われるため、時々引き締めながら授業を進めていきたい。

科目名

103 身体障害作業治療学 I

担当教員

廣渡 洋史

専攻・配当年次

OT

2年

回答者数

16 名

◆集計データ結果について

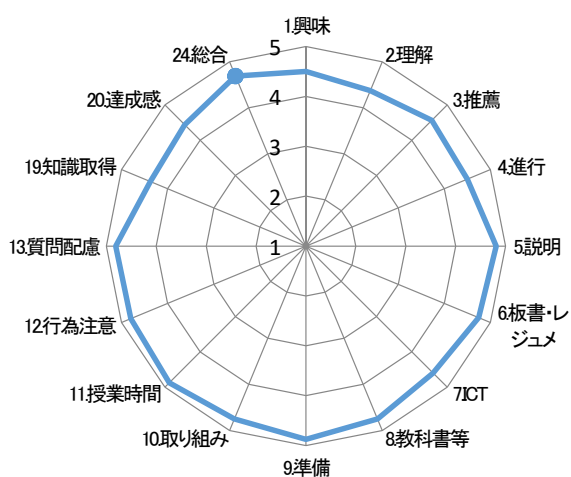
概ね高評価で安心している。その中でも低値であったのは知識取得、達成感、理解である。これらは数値的には高値ではあるものの欲を出して少しでも良いものにしていきたい。特に、本科目は治療に焦点を当てているため、基本的な運動学・解剖学の知識が必要となる。そのため、治療の内容を理解するまでにはある程度の復習も必要であると考えられる。その点では、学生の努力もお願いしたところだが、随時予習・復習のポイントも指南していきたいと思う。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

授業内容に興味を持ったという意見、臨床に出た際の話が良かったという意見、手術の画像などが臨床を感じ取れたという意見などがあり、様々な資料や症例提示に興味関心をもつことができたように思われる。一人、理解が難しかったという者もいたが、授業時間に多くの疾患を取り扱う関係上、どうしても時間的制約が出てきてしまうと考えている。今回もそうであったように、自主学習等で賄える部分は賄ってもらえるよう伝えていきたい。

◆今後の改善に向けて

先にも述べたが、授業の時間とその内容に時間的制約がある。そのため、ある程度読めば理解できる内容、覚えておくポイントが分かりやすい部分は、伝えている通り、予習・復習でカバーしてもらうほかないと考えている。また、これも伝えているが、理解できない場合はできない時点で、教員へどういう形でも良いので申し出ることが重要かと思われる。引き続き、それらについても説明して授業を進めていきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
評点)

科目名

104 身体障害作業治療学Ⅱ

担当教員

渡邊 豊明

専攻・配当年次

OT

2年

回答者数

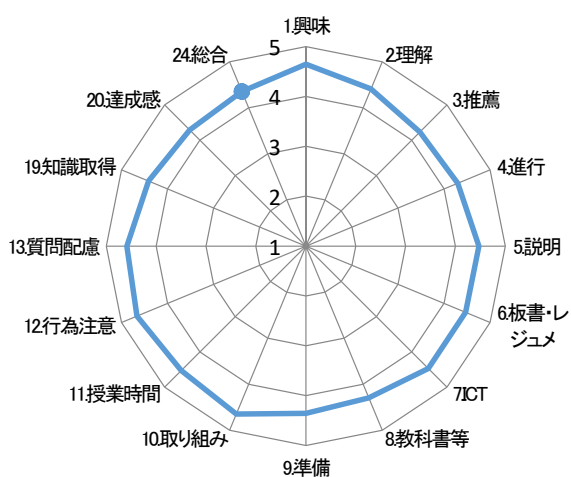
17 名

◆集計データ結果について

興味、取り組み、行為注意は4.6以上と比較的高い点数だったが、推薦、進行、教科書、達成感で4.2とやや低く総合は4.3だった。熱心さは、全員がどちらかといえば取り組めたという回答であった。予習復習は半分程度の学生が実施していた。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

授業の進行の遅れによって、授業が延長したケースがあった。休憩を採り入れることは良いことだが、延長しないように進行に気をつけながら実施していきたい。また、声の大きさも配慮するように、前列の人が不快にならないように注意する。スライドの誤字が少しあったため、次回からは、講義前に確認し、修正等に時間をとられないようにしていく。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
評点)

◆今後の改善に向けて

初めて担当する科目で、授業準備をしながらの授業となってしまった。来年度は、予習と準備時間がしっかりと取れるため、全体の流れを計算しながら実施していく。授業の後半のディスカッションは反応が良かったため、座学に捉われず、意見交換できる場を増やしていきたい。

科目名

105 身体障害作業治療学実習

担当教員

外倉 由之・長井 多美子

専攻・配当年次

OT

2年

回答者数

7 名

◆集計データ結果について

総合4.86であり、概ね良い評価であったと思われる。目的などを意識し、熱心に取り組んでいる学生や質問ができている学生を回答でみられたことは良かった。集計で良かった点については、今後も継続して実践していきたい。

しかし、予習・復習をしていないと回答した学生が多くみられることや質問の少なさもあった。そのため、各授業で予習・復習に取り組みやすい課題や説明する時間を設けていく必要性を感じた。

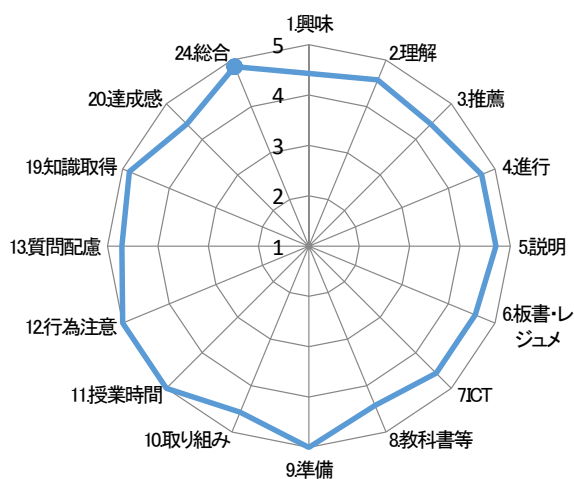
授業到達目標やDPとの関連性については、回答者の半数が意識を持ちながら授業に取り組んでいた結果に繋がっていたため、各授業で学生に到達目標などが伝わるような講義を継続していきたい。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

実際の評価や治療について、教科書だけでなく動画や実演を多く用いたことで「実際の声かけの仕方や、見るべきポイントなどがわかりやすく学べた」「吸引実習や看護師の仕事については、なかなか体験出来ないことだと思うので、貴重な経験ができてよかった」「一生使っていく技術が学べたので良かった」といった肯定的な意見に繋がったと思われる。今後も、模擬事例を通して作業療法介入についての理解をより深められるよう、動画やプリントなど参考資料を適宜使用していきたい。

◆今後の改善に向けて

今後も、学生が主体的に取り組める形での講義を継続していきたい。しかし、学生の予習・復習時間が不十分であったため、必要な時間が確保できるような課題設定や説明をしていき、より知識が定着できるよう工夫をしていきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
評点)

科目名

106 精神障害作業治療学

担当教員

横山 剛

専攻・配当年次

OT

2年

回答者数

12 名

◆集計データ結果について

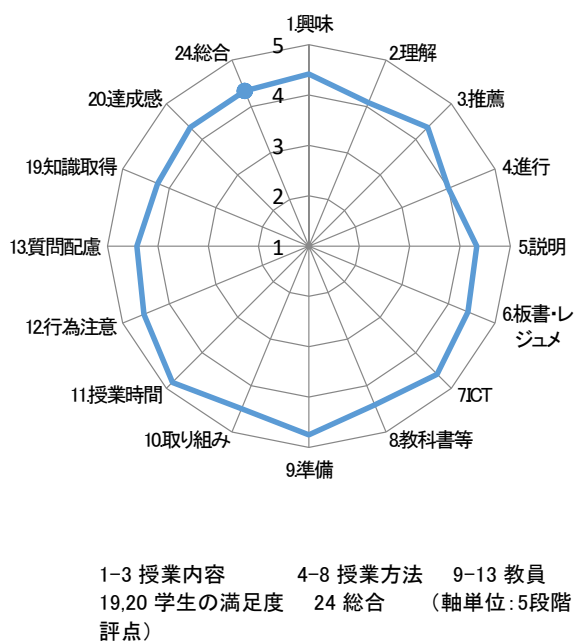
レーダーチャートは4点台であり、学生に好評な授業であったと考える。学習は暗記だけには因らないことを実践的に理解していただくためにわざわざこのような授業設計としている。そのことを初回授業時にシラバスで説明し、皆さんの理解のもとに進めてきた授業であった。そのことを学生方が十分に理解していると信じているが、グループワークの難しさを告げる中で、「全く質問していない」と回答した学生が回答者中3割強、「全く予習していない」と回答した学生が回答者中1割強いたのは残念な結果である。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

単なる丸暗記の授業とはしない授業を設計したが、そのように受け取っている学生が見られたことは幸いである。グループワークの難しさを感じているが、そもそも学生がグループワークをどういうものであると考えていたのか教えて欲しい。またこれまでは他人と「分かち合う」という作業がそれほど困難ではなかったのかもしれないが、今回、同質性の高い集団で困難さがあつたのであれば、今後、年代や生活背景が大きく異なる作業療法対象者との関係づくりを進める作業がどれ程のものとなるのか、想像してみて欲しい。その時は、作業療法対象者の方に原因を帰属することはできない。今、そしてこれからの、そのことについての備えをしていって欲しいと願う。

◆今後の改善に向けて

単なる丸暗記の授業とはしないことを継続していく。学生にしてみれば、当然このような授業を受けたことがほとんどないことを予測はしている。分からないことや、困難なことが出てくることは織り込み済みである。恐れずに学習を継続して欲しいと願い、実践していく。



科目名

107 精神障害作業治療学実習

担当教員

横山 剛・松田 裕美

専攻・配当年次

OT

2年

回答者数

8 名

◆集計データ結果について

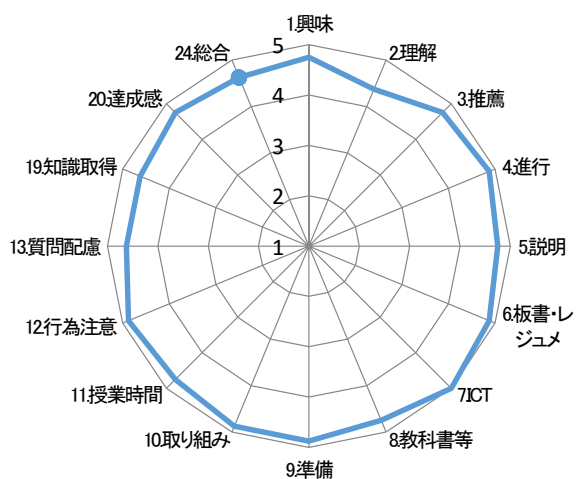
レーダーチャートの各項目は4点台であり、学生に高評価を得られたと考えられる。「質問を全くしない」と回答している学生が2割を超えており、また予習時間が「全くなし」と回答している学生が3割を超えていた。実際は、授業時間外に各自に対して担当教員がフィードバックする時間を設けていることや、面接評価の計画を立案などをしていたことから、「全くない」ということはあり得ないであろうと考えられる。何か誤解をしているように思われる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

面接評価というものを、教科書的に理解しただけでは全く通用しないものであることを痛感したのだと思う。より良い評価をするためには、評価者としての学生自身が思っていること、考えていること、さらには被面接者の主観にも触れて整理しなければならないことを理解されたのだと思う。「よかった」という感想は私は良いと思うが、ここで学んだことを今後どう利用していくかが重要であると思うので、継続した取り組みをして欲しいと思う。そうでなければ単なる丸暗記の学習と変わりはないと思うからである。フィードバックの場所についての指摘があったが、十分に配慮しているつもりであったが、配慮が足りなかったと反省している。

◆今後の改善に向けて

実際に面接評価をやり遂げた時に、これで良かったのだと思うのが最上であると思う。やる前から、難しいとかやれない、とは思わずに行えた学生が今年度は多かったのではないかと思います。その辺りについても教員同士で振り返りをして、今後も継続していきたいと思っています。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
 19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
 評点)

◆集計データ結果について

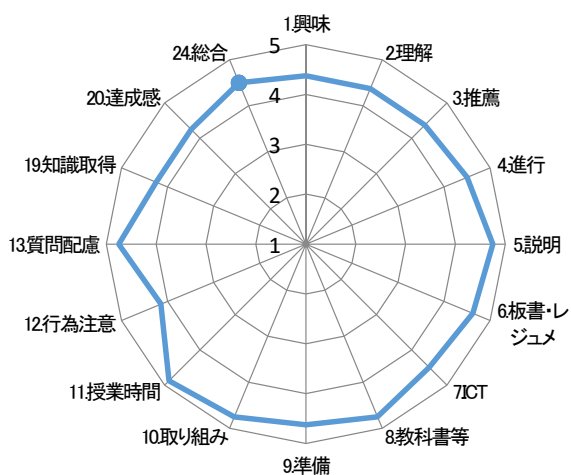
総合評価は4.5となった。各項目4前後の評価であった。感染症対策を行い対面授業に取り組んだ。「授業到達目標」「DPとの関連性」では、知っていたが約80%だった。授業到達目標を把握する事、学生と共有する機会を増やし今後も「達成感」の向上に繋げたい。予習時間や復習時間について、授業開始時に前回講義内容の復習で小テストを実施しており、約30%の学生が1時間未満の時間を予習や復習に使っていた。学生の意識では、目標を持って取り組んでいる学生が大半を占めているが、質問をしていない学生が70%だった。Googleフォームで質問を受け付けているが、こちらから問う方法も検討していきたい。今回の集計データを参考にして、次年度に活かしていきたい。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

実施内容については、シラバスに記載されている内容で進めていた。「レジュメを利用して分かりやすかった」、「障害児の特徴が疾患別で分かれていて、整理しやすかった」というご意見もあったため、今後も継続してレジュメを活用して取り組みたい。講義に加えて、グループワークを取り入れた。「グループワークで話し合うことで理解が深まって良かった」、「グループワークで疾患の理解が深まった」など前向きなコメントが見られた。事例を通して多様な視点を共有するように取り組んだ事で理解が深まったようである。今後もグループワークを継続して行なっていきたい。Googleフォームで問い合わせのあった質問や小テストの解答を説明する時間を設けたことで「振り返ることで理解が深まった」など振り返る時間が有意義となっている意見があった。今後も継続していきたい。

◆今後の改善に向けて

講義中のグループワークは学生同士で様々な意見を知る機会に繋がっている事が考えられるため、今後も継続して実施していく予定である。グループワークに関しては、取り組む前に目的を説明してから実施する。目的を把握した上で、取り組む事で学生の授業達成度の向上に努めたい。今後、グループワークでは実例を交えながらフィードバックして治療やリハビリプログラムの考え方について理解を深めるよう努めたい。また、狙いや目標など説明する時間を設けて授業目標を学生が知る機会を増やしていきたい。講義について分からない点などに関して質問できる時間をつくり、理解を高めたい。各授業で到達目標を学生と共有するように取り組み、授業満足度の向上に努めたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
評点)

科目名

109 発達障害作業治療学実習

担当教員

松田 裕美・清水 一輝

専攻・配当年次

OT

2年

回答者数

10 名

◆集計データ結果について

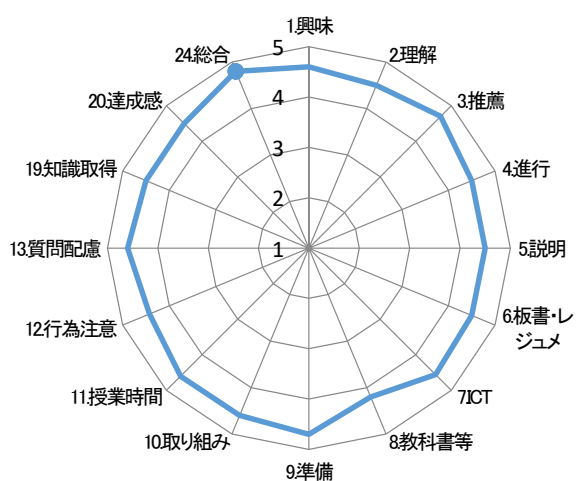
受講生35名中10名(28.57%)の回答を分析する。全項目の平均は4.55(SD=.134)であり概ね高評価であった。学生の意識として、目的意識や熱意をもって授業に取り組めたと6割ほどの学生が回答しているため、今後も学生自身が主体的に行動できる環境づくりに努めていく。一方で、質問やDPとの関連、授業到達目標では回答者の2割ほどの学生が「質問していない、知らなかった」と回答があった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

学生の自由記載にも概ね肯定的な回答がみられた。特に「こども園の先生から直接フィードバックをいただけたことは、他職種連携の観点から見ても貴重な体験だった。ゆうあいこども園との結びつきがある本学の特徴を最大限生かした授業だった。」との意見からも、本科目が今後の臨床実習などに繋がる準備段階として位置づけられていると感じた。また、実際の幼児期の園児との関わりによって、より実践的な知識の獲得に繋がったと考えられる。

◆今後の改善に向けて

DPとの関連、他の科目との関連などを教示する機会を意識的に作ることで、より学生にとって本科目の位置づけが明確となることが考えられる。よって、今後はガイダンスだけでなく、適宜授業の中で上記について教示していく必要がある。幼児期に提供する遊びの選定については、学生にとって負担感の強い作業であったことが推測される。よって、今後は作業種目の選定方法の変更など対応を行うことも必要だと考えられる。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
 19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階
 評点)

◆集計データ結果について

すべての平均が4.4以上であり、概ねバランスのとれた評価であった。ただし回答率がこれまでになく極めて低いため、この結果をもって好評だったとは言うことはできない。本科目は今年度初めて受け持つ科目であったが、本科目の授業準備や進行で重点を置いたことは、①わかりやすく、後に活用できるレジュメを作ること ②グループでの演習で、学生自身が問いを立て、根拠に基づいて能動的な知識を探索する機会を増やすこと ③調べたことを、他者とすり合わせつつ、短時間の中で他者にわかりやすく報告するという経験を積むこと の3点である。①については、臨床実習や国家試験を念頭に置き、ポイントをわかりやすく示すことを意識した。また②③については、臨床での実践を念頭に置き、日々更新される情報を正確な情報源から探索し、他者とすり合わせるという経験の積み重ねの大切さを学生に理解してもらうことを意識して毎回の授業を組み立てた。

学生の取り組みについてはほぼすべての学生が質問14、16に「取り組んだ」あるいは「どちらかといえば取り組んだ」と回答していた。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

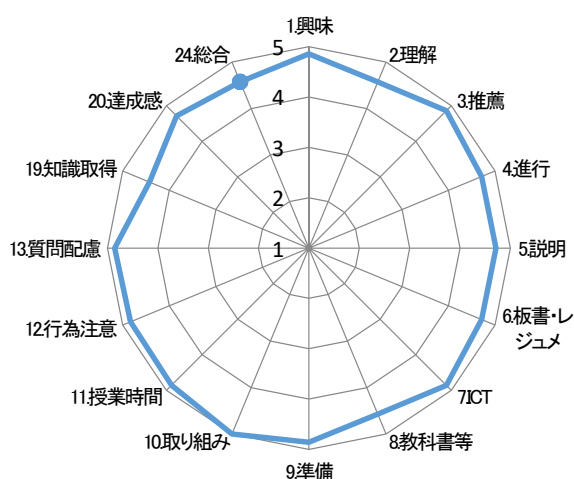
グループワークに関しては「班ごとに取り組むことで、それぞれの班からわかりやすく、見ていて飽きないレジュメのまとめ方を理解することができた。」「自分たちでテーマをひとつ決め、その事について調べ、発表するというのが少し大変だったが、みんなの発表を聞くのがとても楽しくて良かった。」と肯定的な意見が挙げられた。

授業の内容についても「授業の内容は分かりやすく、とても楽しかった。」「説明がとても分かりやすく、どうしてこうなるのかという根拠もレジュメに示してくださるので、理解が深まった。」と肯定的な意見が挙げられた。学生の発表をそのままにせず、次の週に教員がまとめたものを解説し、大きな方向性を示したことが、学生の理解の一助となったと考える。

◆今後の改善に向けて

今年度初めて受け持った科目であったため、試験問題作成を含め、すべて手探りであったが、概ね学生に受け入れられた内容となったと考えられる。しかし、前述したとおり回答率が著しく低く、回答者全員が、一定時間復習をしていたというような学習意欲の高い層の学生たちと考えられるため、次年度に向けての教員の反省材料にすることは難しい。

一方で持ち込み可とした定期試験では、解答の根拠を十分に記述できる学生に限られており、「問いを立て」「正確な情報源を能動的に探索し」「根拠を持って検討し」「他者とすり合わせる」という臨床的技能の獲得には程遠いという印象であった。今後は学生のこれらの能力向上に資する授業を組み立てていきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
評点)

科目名

111 日常生活作業学 I

担当教員

外倉 由之

専攻・配当年次

OT

1年

回答者数

24 名

◆集計データ結果について

総合4.83であり、概ね良い評価であったと思われる。目的などを意識し、熱心に取り組んでいる学生が多数みられたことは良かった。集計で良かった点については、今後も継続して実践していきたい。

しかし、予習・復習をしていないと回答した学生が多くみられることや質問の少なさもあった。そのため、各授業で予習・復習に取り組みやすい課題や説明する時間を設けていく必要性を感じた。

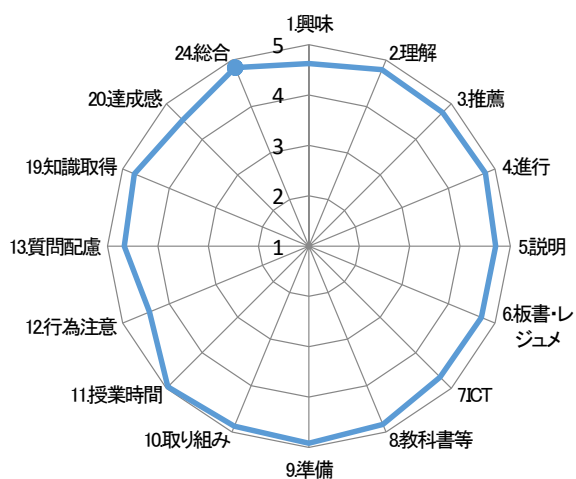
◆学生の自由記載の内容を検討した結果

教科書だけでなく、補足的なプリントや実際の道具を紹介し、体験することで学生が興味を持つことに繋がったと思われる。特に、自助具に関する点は「興味を持つことができた」、「作業療法を身近に感じた」、「理解を深めることができた」といった肯定的なコメントが多くあった。

本科目は作業療法士にとって重要な概念である日常生活活動の基礎を作業療法の視点から理解することを目的としており、学生の理解を深めるため随時演習を用いたことが自由記述に反映されていたため、今後も演習を活用し、実践していきたい。

◆今後の改善に向けて

今後も、学生が主体的に取り組める形での講義を継続していきたい。しかし、学生の予習・復習時間が不十分であったため、必要な時間が確保できるような課題設定や説明をしていき、より知識が定着できるよう工夫をしていきたい。また、授業到達目標を知らない学生もみられたため、授業毎に到達目標を意識できるような授業を実践していきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
評点)

科目名

112 日常生活作業学Ⅱ

担当教員

清水 一輝

専攻・配当年次

OT

2年

回答者数

20 名

◆集計データ結果について

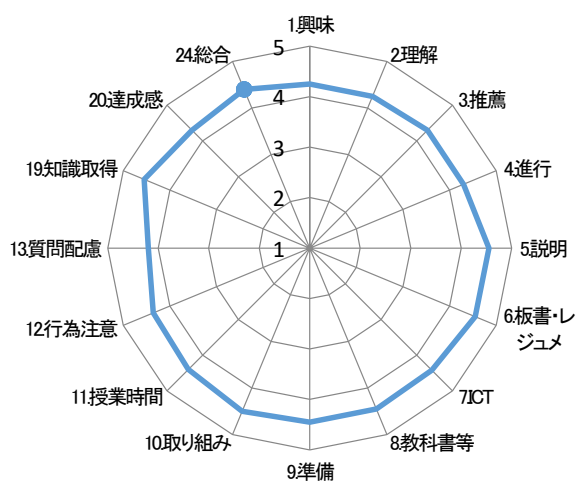
全ての項目で4.0以上であり、概ね良い評価であった。しかしながら、予習・復習をしていないと回答した学生が半数を超えており、質問もしていない学生が多くあったことから、学生の理解が深まるような課題を設定していく必要があると考えられる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

グループで学ぶことや、実際に評価を体験することを通じて学ぶことに対する肯定的な意見が多くあった。本科目のADLに関連する評価について、実践を通して学ぶ構成にしている点は良かったと思われる。

◆今後の改善に向けて

基本的には今後も同じ形での講義を継続していきたい。ただし、学生の予習復習を促せるような課題を適宜設定し、講義内での学びだけでなく、自己学修での知識の定着を支援していけるようにしていきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
 19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
 評点)

科目名

113 日常生活作業学実習

担当教員

加藤 真夕美

専攻・配当年次

OT

2年

回答者数

33 名

◆集計データ結果について

すべての項目で平均が4.6以上であり、バランスの良い評価であった。本科目では①トランスファーや車椅子操作などの基本的な技術をその場で修正しながら徹底的に身に付けてもらう、②各疾患の特性によるADL上の特徴を、自身で調べたり体験したりしながら身をもって理解してもらうという、臨床実習に向かうための技術獲得の場という位置づけを重視している。

随時、技能評価試験を行い、その都度フィードバックしているためか、14「熱心さ」、15「質問」は多くの学生が「取り組んだ」「どちらかといえば取り組んだ」を選択した。一方で、復習時間が1時間未満もしくは全くないという学生が過半数であり、実技練習の促進に課題が残る結果となった。

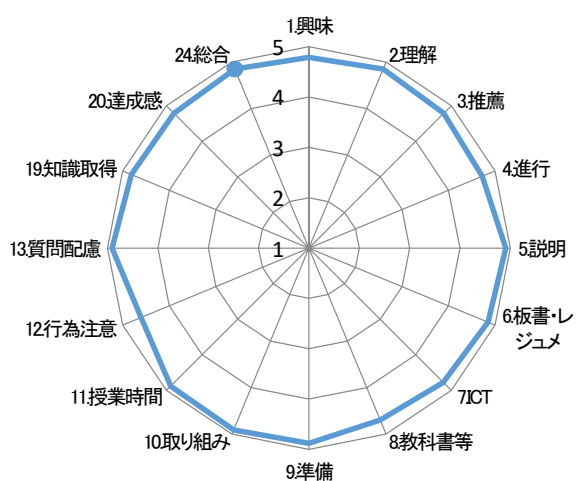
◆学生の自由記載の内容を検討した結果

移乗介助実技については「現場で役立つことを多く学べた」「実践的にできたため学習の定着が早くとても良かった」など有意義に学習が進んだ様子が現れていた。教員の教え方については「手本を見せてから各自ペアで行うことで理解しやすかった」「全部解説するのではなく生徒が自分で考えるようにしていたのがよかった」「その場でフィードバックしてくださり間違いをその場で正すことができた」と、見本プラス即時フィードバックを心掛け、学生個々に向き合おうとした教員の意図は伝わったようである。

また、今年度新たな試みとして取り入れたげんき大学卒業生へのインタビュー体験は、「充実した時間だった」などと肯定的に捉えた意見が多く挙げられた。

◆今後の改善に向けて

養成校指定規則の改正に関係して、臨床・クラシックやOSCEの導入など、臨床実習を取り巻く状況が大きく変化しており、昨年度の授業評価レポートでは「技術の獲得はもちろん、臨床・クリニカルリーディングを身に付けてもらえるような内容を継続していく予定である」と結んだ。今年度は前述の通り、清須市民げんき大学の卒業生へのインタビュー体験を取り入れており、社会で活躍されている高齢者から直接話を聞くことで「人が社会の中で生活するとは」ということへの気づきや、これまでの生活歴との関連性など多くのことの繋がりを意識できた学生が多かったようである。今後は更に作業療法士としての役割への気づきに繋がるよう、授業を発展させていきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
評点)

◆集計データ結果について

すべての平均が4.2以上であり、概ねバランスのとれた評価であった。ただし回答率がこれまでになく極めて低いため、この結果をもって好評だったとは言うことはできない。本科目の授業準備や進行で工夫していることは、①わかりやすく、後に活用できるレジュメを作ること ②演習を取り入れること ③関連論文を学生一人一人に探してもらうこと の3点である。①については、臨床実習や国家試験を念頭に置き、ポイントをわかりやすく示すことを意識した。また②についても同様に、臨床実習や国家試験で体験を活かせるよう、できる限り多くの演習を限られた時間の中で盛り込んだ。③はCOVID-19感染拡大の状況下であったため、昨年度から検索項目を減らす配慮をしているが、じっくり1つの論文に向き合う時間ができたことはメリットかもしれない。

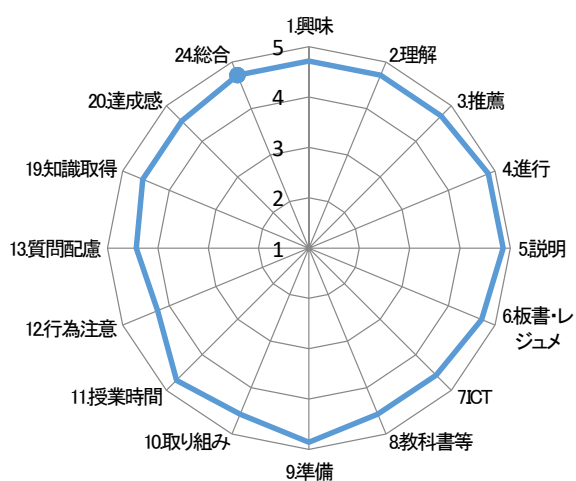
学生の取り組みについてはすべての学生が質問14、16に「取り組んだ」あるいは「どちらかといえば取り組んだ」と回答していた。復習時間が1-2時間の学生が多く、これらの学習意欲の高い層の学生たちが、このような授業評価に期日通りに提出したと思われる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「高次脳機能は難しかったが、OTの実践報告書などを基に調べていく中でどういう疾患なのか知ることができ、勉強になった。」「高次脳機能障害という理解しづらいものの評価を実際に行ったり、各自で事例を調べたりすることで凄く頭に入りやすかった。ただ授業を聞くだけでは絶対に覚えられなかったから、この形式での授業は続けてほしい。」など、演習形式や実践報告の探索は、学生の能動的な理解を促せたようである。

◆今後の改善に向けて

毎年、高次脳機能の領域に対し、「難しいからイヤだ」ではなく「難しいからこそ面白い」と思ってもらえるような、高次脳機能の入門編としての位置づけの授業が展開できたらと思い、授業を進めている。昨年度の授業評価アンケートでは「論文のまとめ方の指南やレジュメを穴埋めにしてほしい」との意見が挙がっていたが、今年度は改善要望の意見は挙がらなかった。前述したとおり回答率が著しく低く、回答した学生の多くが学習意欲が高いと考えられるため、次年度に向けての教員の反省材料にすることは難しい。一方で、他の要件で個別に話す中で、「高次脳に興味があった」と話す学生が複数おり、担当教員としては嬉しいことであった。今後も学生の興味を引き出すような仕掛けを考えていきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
評点)

科目名	115 義肢装具学 (OT)
-----	----------------

担当教員	廣渡 洋史
------	-------

専攻・配当年次	OT	2年	回答者数	12 名
---------	----	----	------	------

◆集計データ結果について

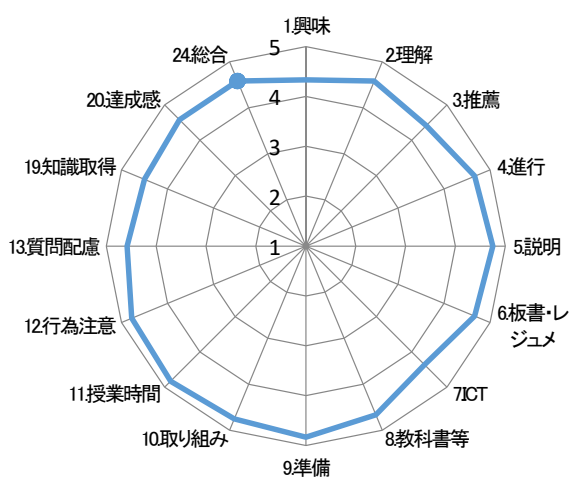
概ね、高評価であったので安心している。その中でも、興味・ICTの項目が若干ながら低値であった。興味という点においては、義肢の特性上、この授業で初めて見聞きする内容であることが影響しているように思われる。また、実際の作製者は義肢装具士であるため、少ない授業時間数で中々実感が湧いてこないことも影響していると考えられる。昔ながらの装具は、実際の臨床でも目にすることはないものの国家試験には出る可能性があることから学生諸君にとって今すぐに取りかかる必要性を感じない点が見受けられた。ICTの活用については、授業内容の特性において動画のみで事足り、それよりも実際に触ることが重要と考え、あまり使用しておらず、今後もその方針は変わらない。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

いずれも良い評価と思わせる内容であったので安心した。やはり、意見の中にも義肢装具に馴染みがないという意見があり、実物と動画により義手の動きについての理解が深まったという意見もあった。特に、複式コントロールケーブルの能動義手はその構造が複雑で、その力源と作用との関連性を理解させることは重要である。実際に義手を装着することが、それらの機構を理解するのに最も効果的ではあるが、切断者でないと構造上困難である。よって、少しでも手に触れて動かすこと、見ることで、実際に切断者の画像を見て理解することが重要であることを再確認できた。また、義肢装具学は国家試験にも必ず出題されることから、それを意識した内容の評価もあった。今後も、それらの基本的な教授方法が必要であると思われる。

◆今後の改善に向けて

本科目の今後の改善についてはフルモデルチェンジというよりもマイナーチェンジとして捉えていけば良いと考えている。特に重要な点は、本科目が勉学の動機に繋がりにくいという特性があることである。あまり見聞きする内容ではなく、臨床でも取り扱うことが少ない内容であるが、国家試験には出題されること、義肢・装具それぞれ膨大な種類があること、義肢には分解された部品（パーツ）の名称や役割などがあること、それらが、授業前後の予習復習時間の低値に繋がっているものと思われる。また、3年生になると義肢装具学の知識や理解していた部分が薄れている印象がある。どうしても運動学・解剖学・生理学が中心となっていくことで他の科目の復習ができない現状を考えると、少しでもその記憶の糸口を太く大きくしていきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
 19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
 評点)

科目名

116 義肢装具学実習 (OT)

担当教員

廣渡 洋史

専攻・配当年次

OT

2年

回答者数

8 名

◆集計データ結果について

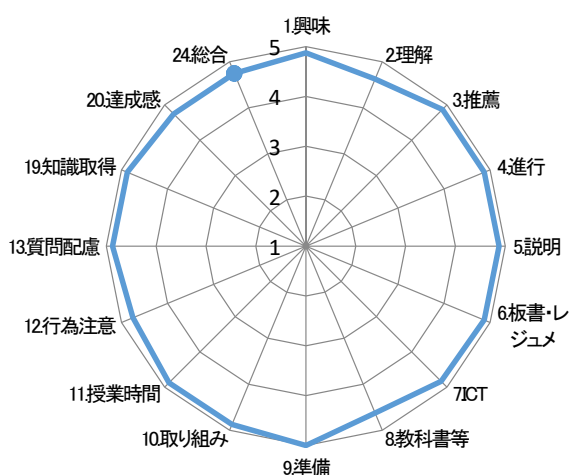
概ね好評価であったので安心した。この授業の特性上、準備が非常に重要で装具前の道具や環境の準備は手間もかかるため、皆が協力して準備する必要があったが、協力し合って準備できていたように思える。本科目では教科書は参考程度とし、作り方は見て覚えるよりも作ってカラダで覚えることを再三伝えていたので、教科書そのものの使用はそもそも想定していない。理解度においては、授業の時間的制約とスプリント指導ができる教員の数に由来するもので、複雑な工程を1スプリント1回のみの作成では致し方ないと思っている。これらは、レポートにより、方法手順と失敗事項を詳細に記録し、いつでも読み返すことができるよう指導し、卒後の期待として予め学生諸君に表明している次第である。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

教室環境の点以外は高評価で安心した。装具でも作業療法士が関わる部分が多く、実際に作成することが将来あり得るという緊張感と責任感を伝えることができたと思われる。また、臨床では時間が無い中作成する必要があり、実際にすぐに作成できて修正ができることと、先入観は捨て、その場でその対象者の手の障害をイメージしながらそれにあった装具を考えることの必要性をお伝えできたと思われる。質問がしやすい雰囲気の中で楽しく学ぶことができたという意見があるが、自分たち学生同士で楽しむことが一つの記憶となりスキルに繋がっているものと考えている。コロナ禍による環境設定に想定外な部分があり、今回の学生人数と換気(窓や換気の機器)の監視・換気への着手によって授業が中断することが多々あったことは大いに反省する部分であった。

◆今後の改善に向けて

本科目の今後の改善についてはフルモデルチェンジというよりもマイナーチェンジとして捉えていけば良いと考えている。本科目の特性上、予習と復習がしづらい部分は仕方ないが、それぞれのスプリントは形や機能は違うものの、作成環境、作成に必要な物品、作成の基本的な手順やチェックアウトは同様であるところが多いので、その中での失敗を一つの経験として失敗を繰り返さない・工夫をすることを予習として授業の前に再確認する時間を作るよう促す必要がある。また、復習してはできるだけ授業中にメモをとること、また、授業が終わり記憶の新しい時にすぐにメモや記録をすることを引き続き指導せねばならない。これらを形にしたレポートが卒後に装具を作るときに忘れかけた知識・技術を思い出す契機となるよう促す必要がある。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
評点)

科目名

117 リハビリテーション関連機器

担当教員

渡邊 豊明

専攻・配当年次

OT

2年

回答者数

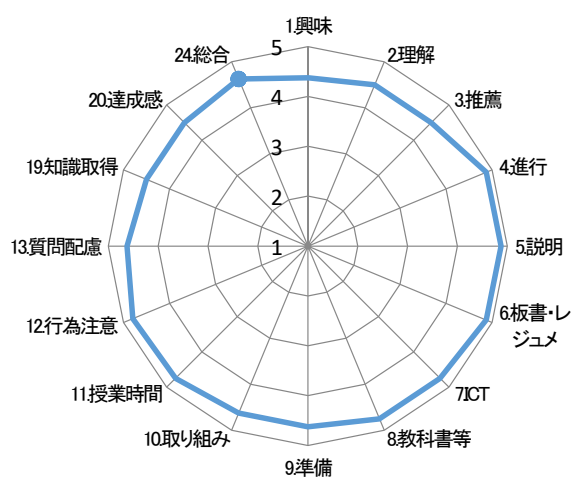
8 名

◆集計データ結果について

進行、説明、レジュメ・板書などで4.87と高い評価であり、総合では4.62であった。授業の到達目標などの理解や認識の乏しい学生がいるため、しっかりと説明をする必要がある。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

特記なし。引き続き、わかりやすい授業に努めていきたい。



1-3 授業内容

4-8 授業方法

9-13 教員

19,20 学生の満足度

24 総合

(軸単位:5段階

評点)

◆今後の改善に向けて

リハビリテーションで重要な科目であり、できるだけイメージできる動画や資料を準備し継続していきたい。

考える力を養うために、グループディスカッションや自己課題を引き続き実施していきたい。

トヨタハートフルプラザでの実習は、とても意味のあるものであり、実感も得られるため、こちらも継続していきたい。

授業では、適時、休憩を入れながら、授業に集中しやすい環境を整え、行っていきたい。

科目名

118 地域作業療法学

担当教員

渡邊 豊明

専攻・配当年次

OT

2年

回答者数

18 名

◆集計データ結果について

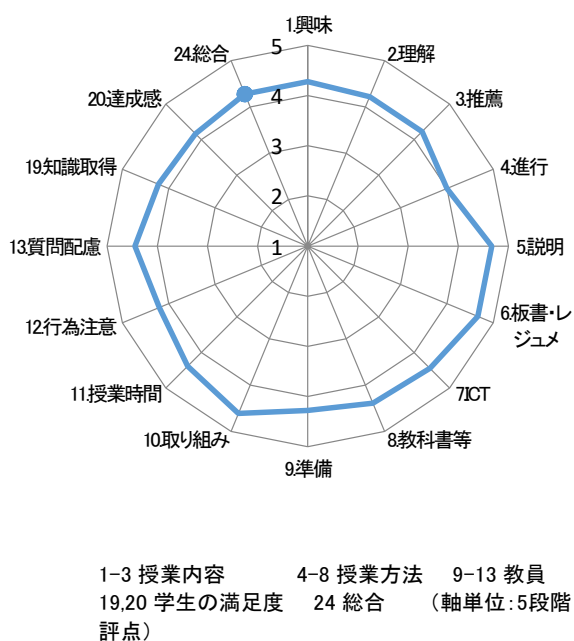
本科目は総合4.28であり、進行で4と比較的低めの得点であった。説明は4.6と高い得点を示していた。半分程度の学生は予習や復習に時間をとっていない状況であった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

授業の進行に問題があり、計画的な進行ができていなかった。その日の授業内容を提示し、学習目標を明確にすることで学習の理解度は高められると思われる。雑談が多く、不愉快な思いをする学生がいたため、授業内容を充実させ、雑談は少なめにすること、休憩はしっかりと休憩時間とすることを心掛けたい。レポート提出時間は、前日までに提出しておくことを基本とするため、朝9時の提出時間で継続していきたい。本科目は、地域の作業療法を伝える科目で、講義としては面白味に欠けると思われるが、この部分は臨床経験などを伝えることで、実習などに役立つ情報を提供していきたい。レポートルーブリックについては、もう少しわかりやすいように説明を追記していきたい。

◆今後の改善に向けて

シラバスを中心に、授業計画を伝え、事前に予習や授業後に復習できるようにしていきたい。授業の進行についても、その日の全体像を伝え、状況把握できる資料を作成し進めていきたい。自由記載にあった内容を改善し、学生が実習で活かせる授業にしていきたい。



科目名

119 地域作業療法学実習（2年）

担当教員

清水・外倉・横山・水口・山田

専攻・配当年次

OT

2年

回答者数

7 名

◆集計データ結果について

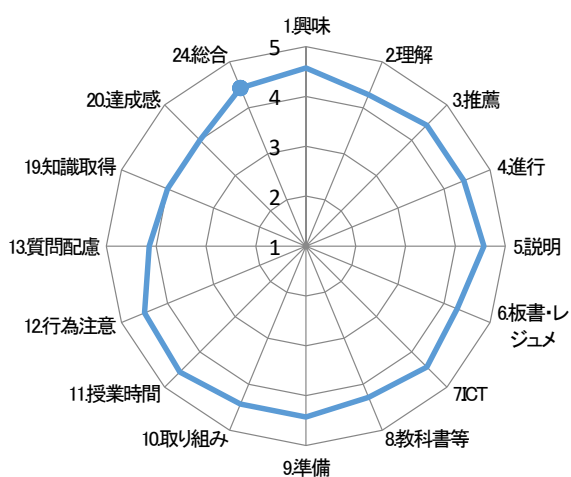
概ね全ての項目で4.0以上の評価であったため、良い結果であったと考えられる。ただし、予習復習の時間において、4割以下が全くしていないという回答であった。この科目ではグループワークを中心に進められるが、その運営において学生ごとに課題の取り組み状況の差が出てしまうことがある。この結果はそれを反映しているものと考えられる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

附属のデイケアセンターでの実習に対しては肯定的な意見が多く、グループごとに主体的に考え、学ぶことができていたと考えられる。また、当事者セラピストである非常勤講師の先生との交流も学生にとって良い経験になっていることがうかがえる内容の記載もあった。しかしながら、それに付随して学生が主体的に考えることの困難さに対する意見もあった。講義の中で意図的にその困難さを経験してもらえよう計画している側面はあるが、適切なタイミングで援助ができるようにしていきたい。

◆今後の改善に向けて

基本的には今年度と同様に、附属のデイケアセンターでの実習や地域の高齢者との交流、当事者セラピストの方との交流で構成していきたい。学生同士で建設的な意見交換をすること、具体的な計画を立案して遂行していくことなどが遂行しにくい学生も多くなってきている印象を受けるため、学生グループの状況を随時評価しながら、適切なタイミングで指導をしていきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階
評点)

科目名

120 就労支援学

担当教員

横山 剛

専攻・配当年次

OT

3年

回答者数

16 名

◆集計データ結果について

レーダーチャートの項目が4点以上であり、概ね学生には好評であったと考えられる。予習、復習に関して全くしていない、と回答している学生がいるのだが、実際はレポートにまとめていく作業を授業外の時間でも行っていたはずであるから、「全くない」は、無いであろう。

本授業のDPとの関連、授業到達目標を知っていると回答している学生が回答者中9割程度いたが、DPに基づく授業到達目標の達成度で「達成できた」と回答した学生が4割程度に留まっているのは残念な結果である。

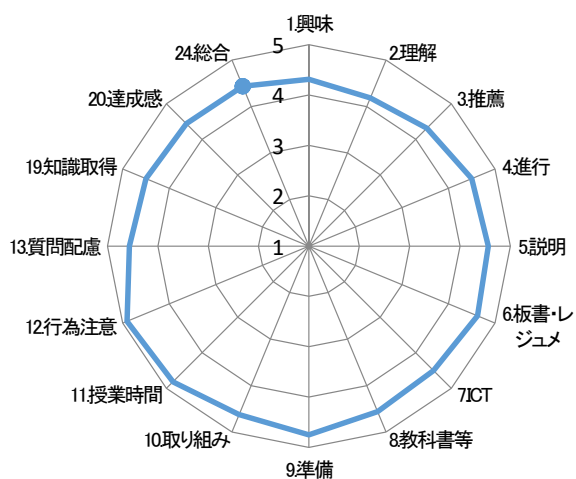
学生自身について振り返り、将来何に向かって歩みを進めていくかについて考え、行動していくことを整理し、実際に歩みを始められることを期待している。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

学生自身がどのようにして今現在に至り、これからどのように進んでいくのかなどを、振り返りを通して整理した結果、これまで思ったことも考えたこともないようなことに直面して戸惑いもあったのかもしれないが、お一人お一人が真摯に向き合い、今後の方向性を定め、その歩みを進めていく一助となっていると考えている。今後、作業療法の対象者との関係の中で、同様な作業をしていくことになると考えられるため、貴重な体験になっていると思われる。

◆今後の改善に向けて

「集計データの結果について」でも記したが、本科目のDPとの関連、授業到達目標を知っていると回答した学生が回答者中9割程度いたが、DPに基づく授業到達目標の達成度で「達成できた」と回答した学生が4割程度に留まっているのは残念な結果である。学生自身の振り返りや、これからの歩み、といったことに関しては、非常に個別性が高いこともあり、全体に対する共通の到達度は定めにくいこともあるが、個別性が高い分、個別に指導する時間をさらに設けるなどして授業計画を進めていく。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階
評点)

科目名

121 臨床実習 I（見学）（OT）

担当教員

加藤・横山・渡邊・清水・松田・廣渡・外倉

専攻・配当年次

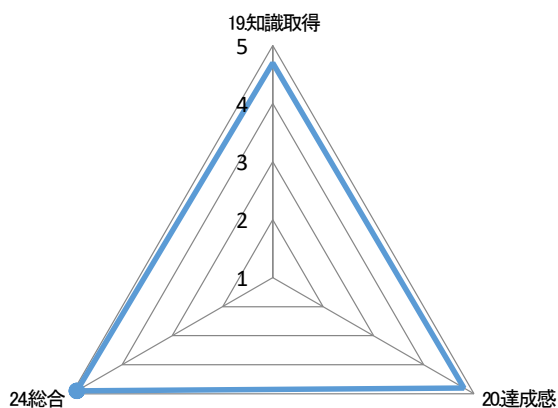
OT

1年

回答者数

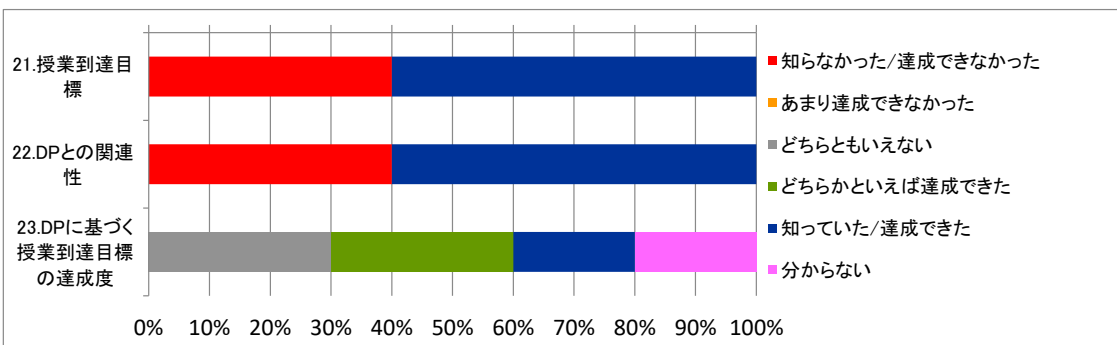
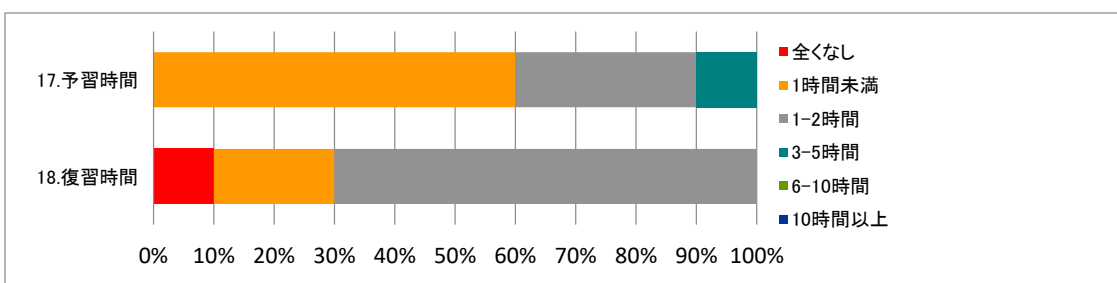
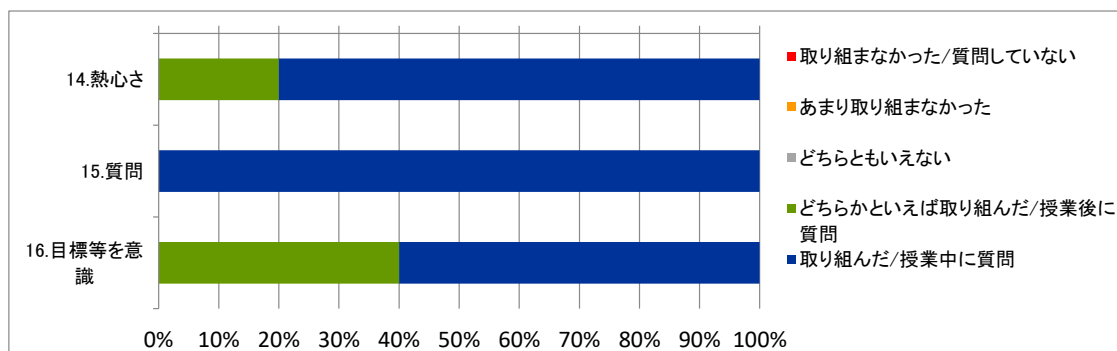
10 名

◆集計データ結果について



19 学生の満足度(知識習得)
20 学生の満足度(達成感)
24 総合

(軸単位:5段階評点)



科目名

122 臨床実習Ⅱ（地域）（OT）

担当教員

加藤・横山・渡邊・清水・松田・廣渡・外倉

専攻・配当年次

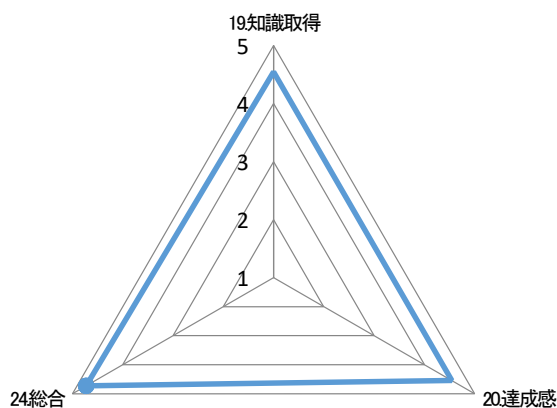
OT

1年

回答者数

11 名

◆集計データ結果について

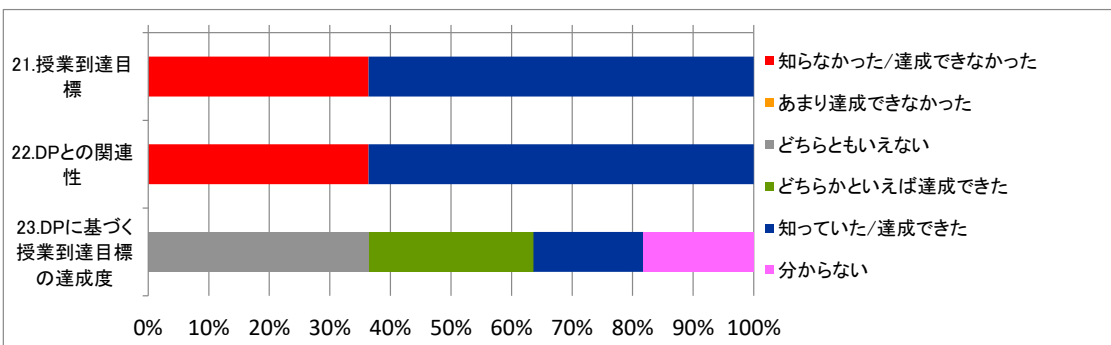
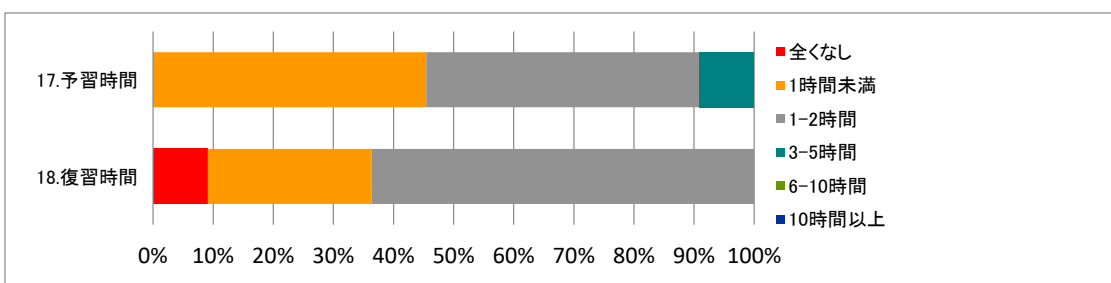
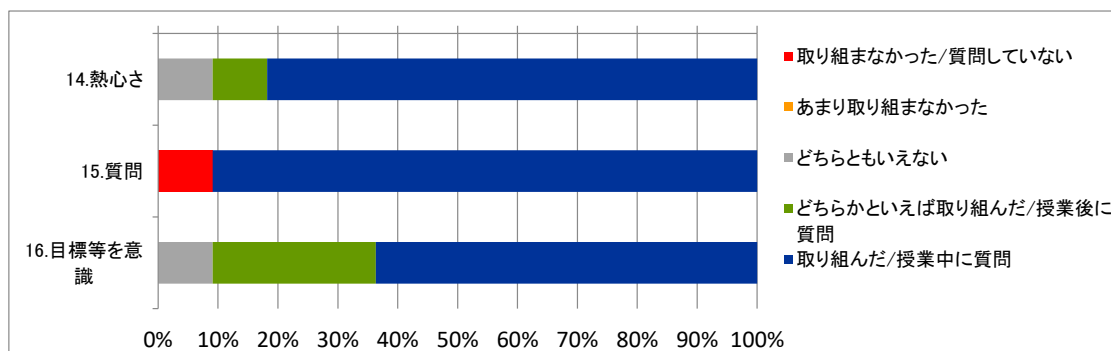


19 学生の満足度(知識習得)

20 学生の満足度(達成感)

24 総合

(軸単位:5段階評点)



科目名

123 臨床実習Ⅲ（評価）（OT）

担当教員

横山・廣渡・加藤・渡邊・清水・松田・外倉

専攻・配当年次

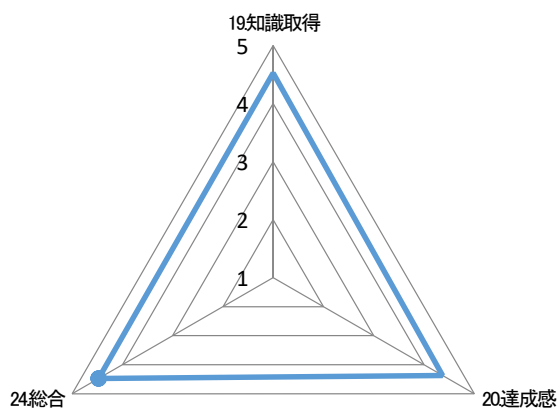
OT

3年

回答者数

19 名

◆集計データ結果について

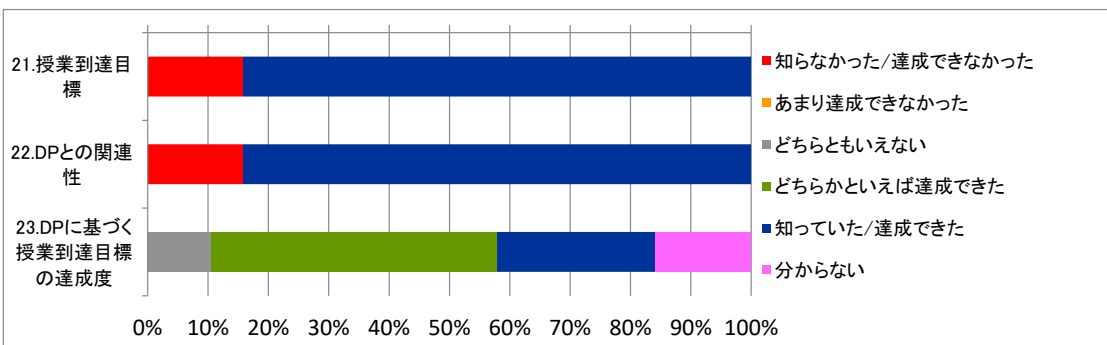
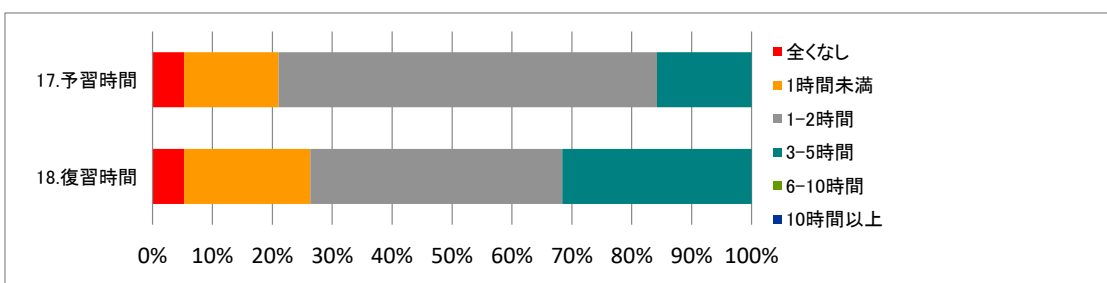
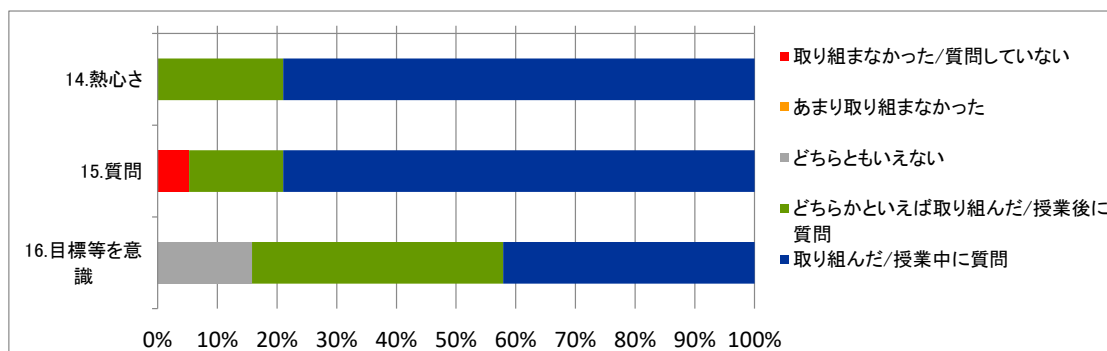


19 学生の満足度(知識習得)

20 学生の満足度(達成感)

24 総合

(軸単位:5段階評点)



科目名

124 臨床実習Ⅳ（総合1）（OT）

担当教員

横山・廣渡・加藤・渡邊・清水・松田・外倉

専攻・配当年次

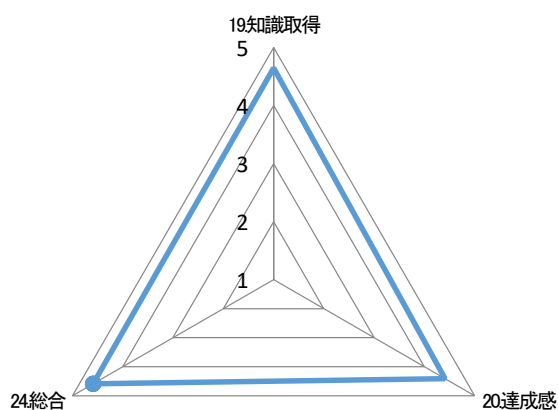
OT

3年

回答者数

17 名

◆集計データ結果について

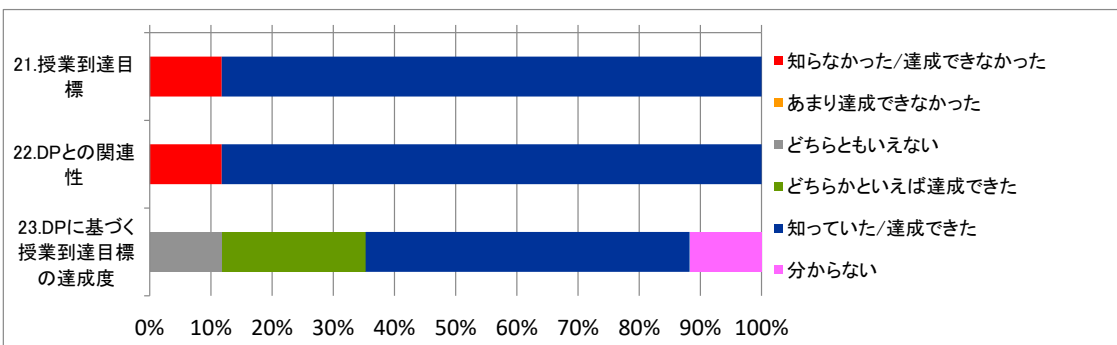
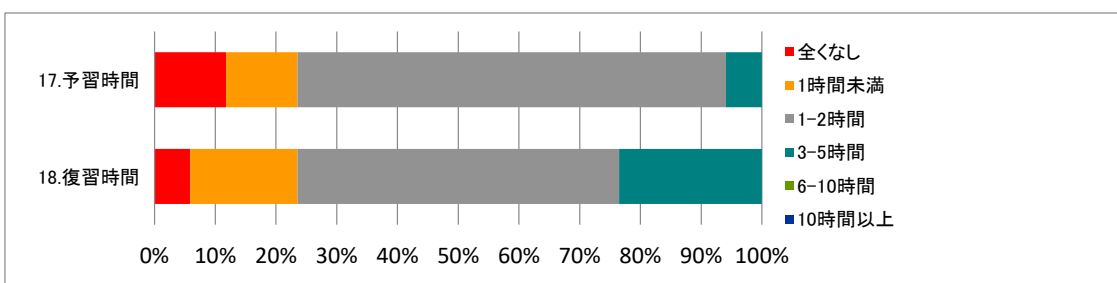
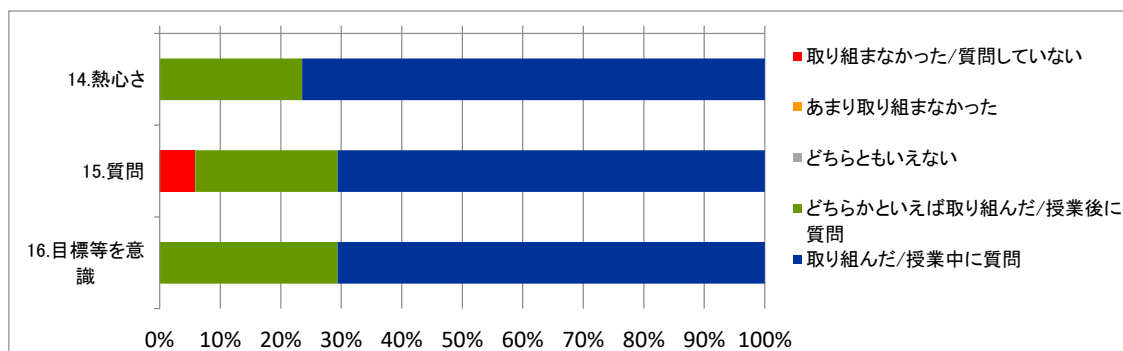


19 学生の満足度(知識習得)

20 学生の満足度(達成感)

24 総合

(軸単位:5段階評点)



科目名

125 臨床実習Ⅴ（総合2）（OT）

担当教員

横山・廣渡・加藤・渡邊・清水・松田・外倉

専攻・配当年次

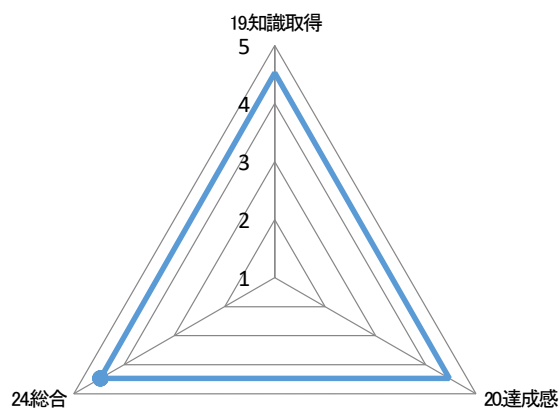
OT

3年

回答者数

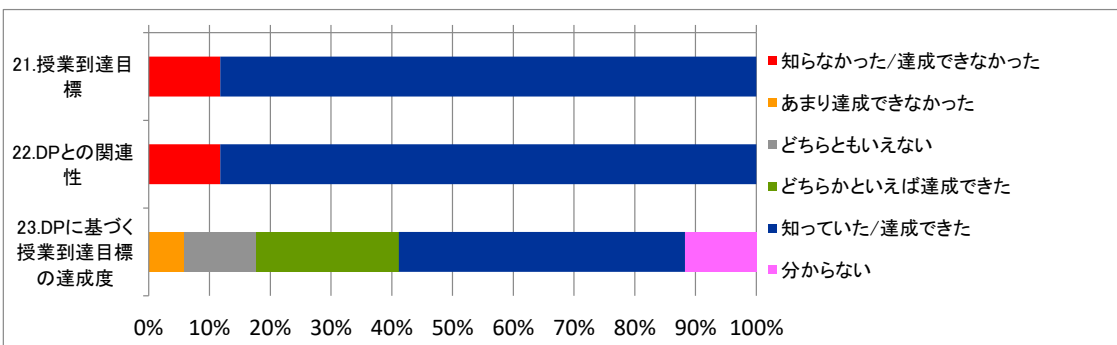
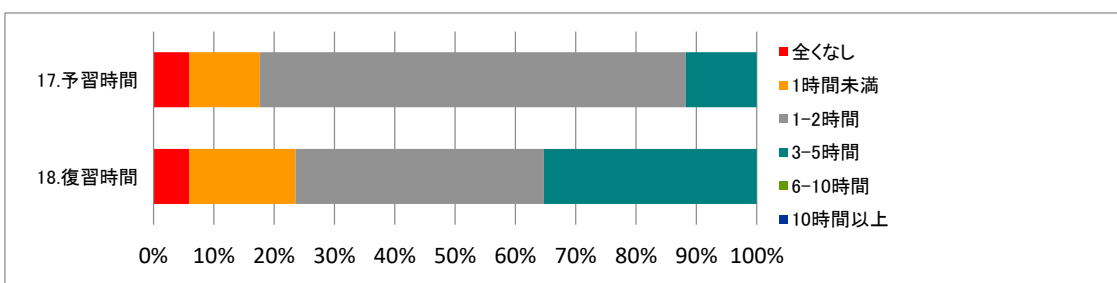
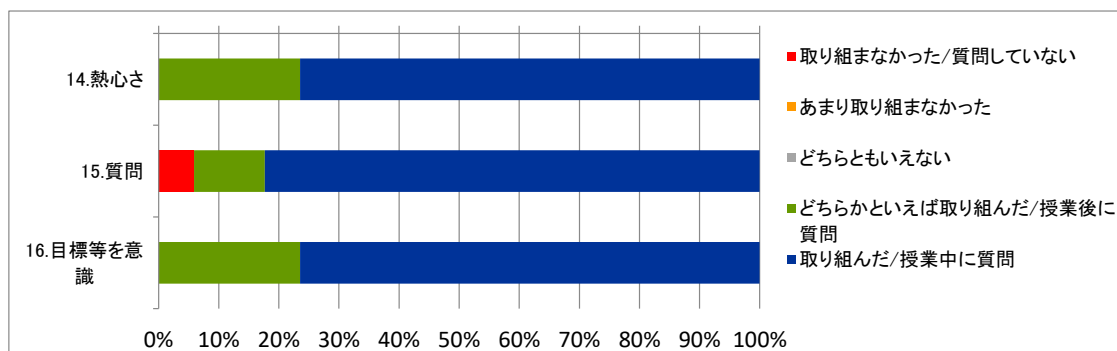
17 名

◆集計データ結果について



19 学生の満足度(知識習得)
20 学生の満足度(達成感)
24 総合

(軸単位:5段階評点)



科目名

126 卒業研究（OT）（3年）

担当教員

横山・廣渡・加藤・渡邊・清水・松田・外倉

専攻・配当年次

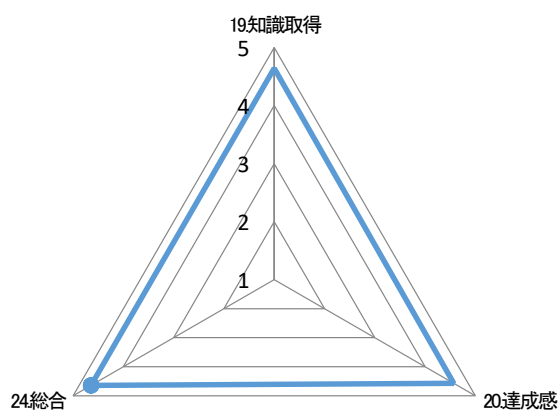
OT

3年

回答者数

14 名

◆集計データ結果について

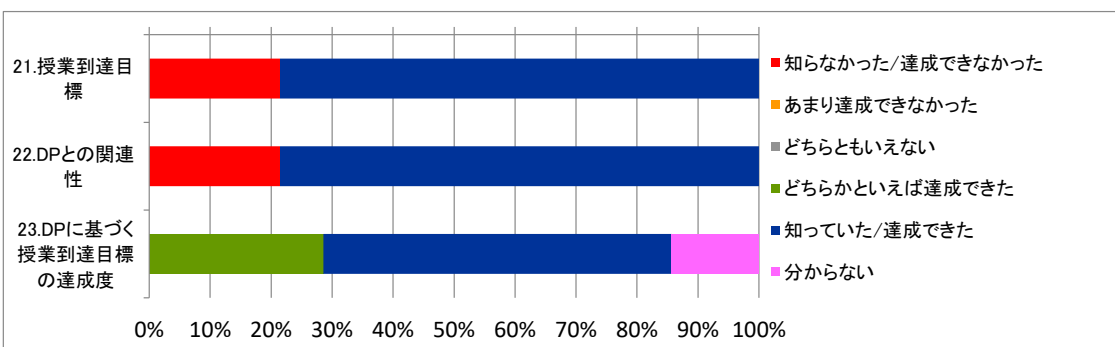
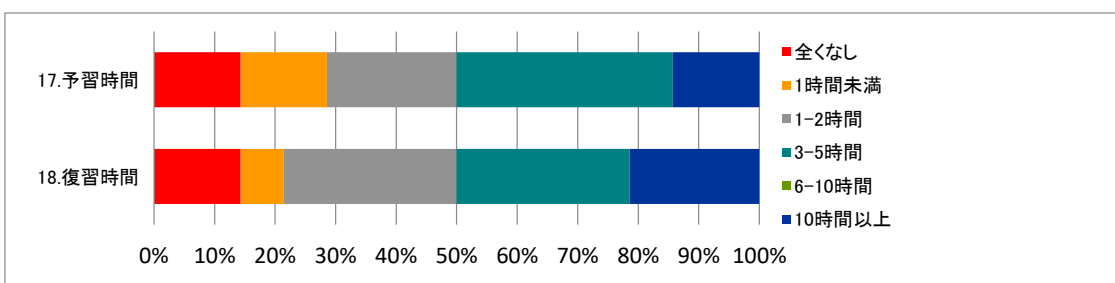
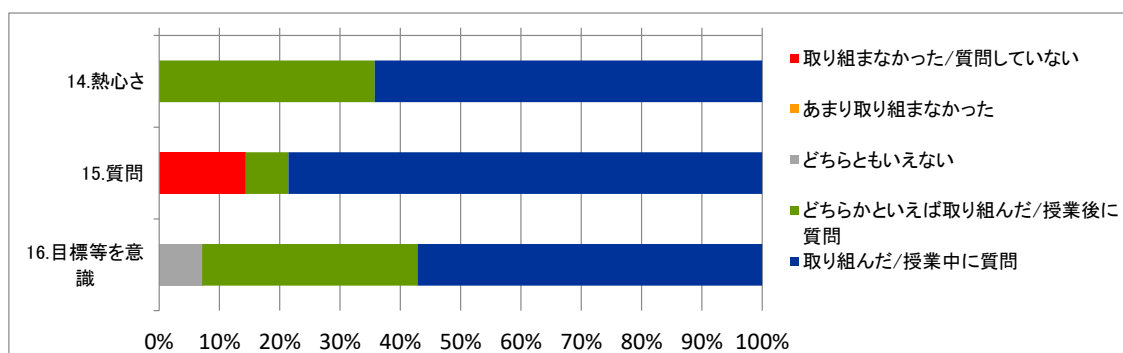


19 学生の満足度(知識習得)

20 学生の満足度(達成感)

24 総合

(軸単位:5段階評点)



科目名

127 総合演習（OT）（3年）

担当教員

横山・加藤・廣渡・石黒・種田・渡邊・清水・松田・外倉・加藤

専攻・配当年次

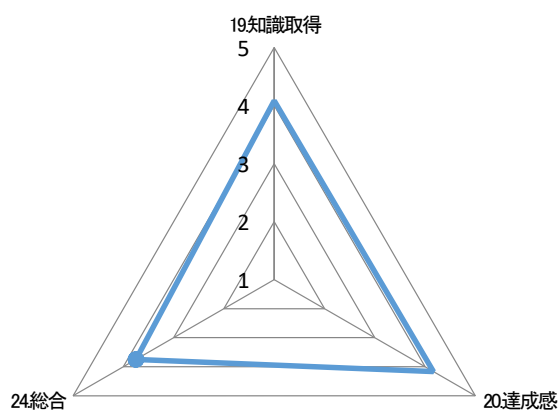
OT

3年

回答者数

12 名

◆集計データ結果について

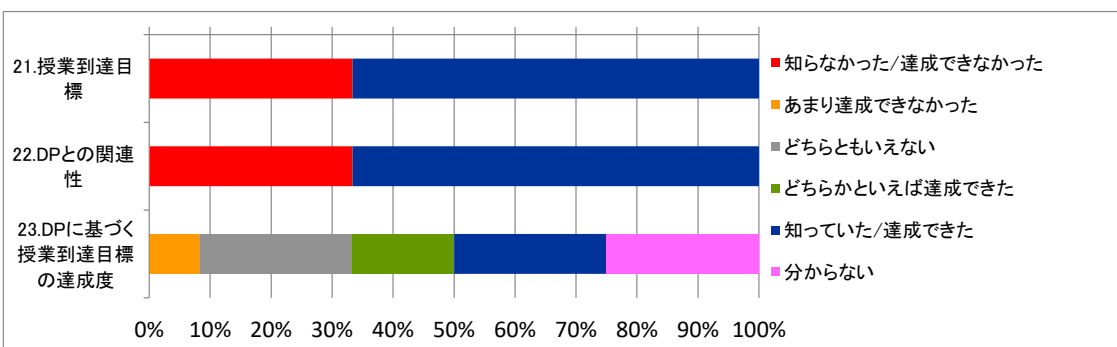
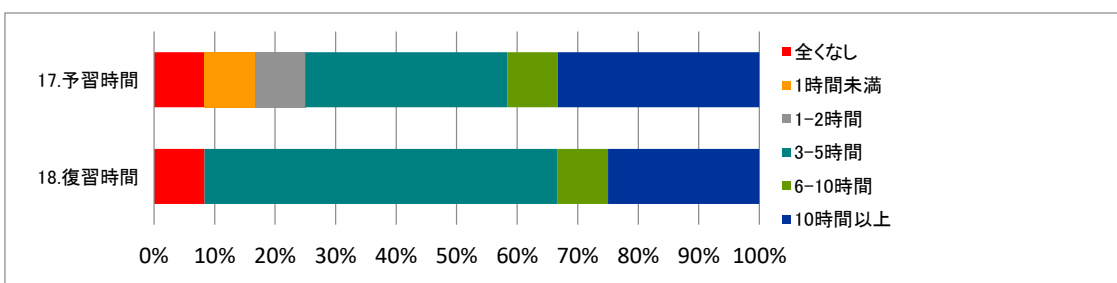
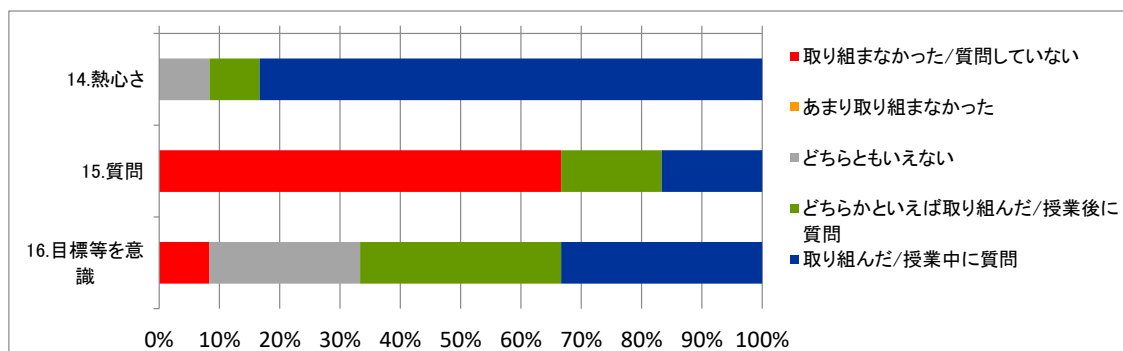


19 学生の満足度(知識習得)

20 学生の満足度(達成感)

24 総合

(軸単位:5段階評点)



編集委員

横山 剛 (FD&SD委員会委員長)
加藤 真弓 (FD&SD委員会)
齊藤 誠 (FD&SD委員会)
外倉 由之 (FD&SD委員会)
齊藤 寛子 (FD&SD委員会)
笹山 香代子 (FD&SD委員会)
松浦 智美 (FD&SD委員会)

2022 年度 授業評価レポート

発行日 令和 5 年 7 月 21 日

発行者 学校法人 佑愛学園

愛知医療学院短期大学

〒452-0931 愛知県清須市一場 519

TEL 052-409-3311

<http://www.yuai.ac.jp>